

平成30年度 老人保健事業推進費等補助金  
(老人保健健康増進等事業分)

認知症の人の意見に基づく  
認知症施策の改善に向けた  
方法論等に関する  
調査研究事業

報告書

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

平成31(2019)年3月



## はじめに

認知症の政策の立案に、認知症の当事者が参画できない状況があるとすれば、それは異常なことである・・・その異常さに私たちが気づき、その状況を変えなければいけないと深く認識するようになったのは、つい先ごろのことかと思われま

す。認知症の本人が、「私たち抜きで、私たちの事を決めないで！」と声をあげ、日本認知症ワーキンググループを立ち上げたのは2014年10月でした。また、本人たちの声によって、「本人の視点の重視」という言葉が認知症の国家プランに盛り込まれたのは2015年1月でした。これに基づいて、2015年度より、認知症の本人の視点を政策に反映させるための方法論の研究が国家プロジェクトとしてはじまりました。

これまでの流れを簡単に要約しますと、まず、2015年度～2016年度の老健事業「認知症の人の視点を重視した生活実態調査及び認知症施策の企画・立案や評価に反映させるための方法論等に関する調査研究事業」において、本人が主体となって出会い、話し合い、意見を述べ、それを施策に反映させることをめざした「本人ミーティング」という方法が開発され、そのガイドブックが作成されました。続いて、2017年度の老健事業「認知症診断直後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための調査研究事業」において、本人が政策や地域づくりに参画できる環境をつくるための自治体向けガイドブック「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」が作成されました。また、同時に、認知症の本人による認知症の本人のためのガイドブック「本人にとってのよりよい暮らしガイド：一足先に認知症になった私たちからあなたへ」が作成されました。

そして、2018年度の老健事業「認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等に関する調査研究事業」では、一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ（2017年9月に日本認知症ワーキンググループより改称）が事業を受託し、全国の11の自治体で、認知症の本人が参画して、「認知症の人の意見に基づく」地域づくりが試行されました。それぞれの地域における取組みは多様であり、さまざまな課題に直面しながら、さまざま創意工夫が重ねられています。しかし、いずれの地域においても、まずは認知症とともに生きる本人の声に耳を傾け、その深い意味に気づき、それを可視化させ、実現させようとする試みがなされ、そのようなプロセスの中で、共に未来を創ることの価値が認識され、その認識が人々の間で広がりを見せています。

本報告書が、そのような経験を多くの人々と共有し、未来共創に向けて歩みだす地域・環境・社会・文化の醸成に役立つことを願っています。

平成31年3月31日

調査研究事業検討委員会委員長  
東京都健康長寿医療センター研究所  
自立促進と精神保健研究チーム研究部長  
粟田主一

# 事業要旨

平成30年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)  
認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等  
に関する調査研究事業

## 研究事業全体の概要

「認知症の人(以下、「本人」とする)の意見をもとに施策・事業を点検・改善する方法」の調査・検討を行い、本人の意見をもとに、各自治体の認知症施策や事業をよりよいものに改善していくための方法論を明らかにし、どの自治体でも本人の視点にたつて真に効果的な施策を着実に展開していくことの推進に寄与することを目的とした。

この目的達成のために、本人及び自治体関係者、有識者12名からなる検討委員会を設置し、以下を実施した。

1. 自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価に関する「全国調査」
2. 全国の11地域において「本人の意見に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクト」の試行
3. 得られた知見や成果をもとに、本人の意見に基づく認知症施策の改善を推進していくための冊子の作成  
○本人向けの冊子:「私たちのまちづくりアクションガイド～認知症とともに生きる私たちの声を活かそう」  
○自治体向け冊子:「認知症の人とともに進める認知症施策改善ガイド」
4. 調査結果や試行の成果等を、全国に速やかに普及を図るための報告会の開催

## 1. 自治体の認知症施策や事業への本人の参画・評価に関する全国調査

【調査目的】 全国の都道府県及び市区町村における、本人の認知症施策や事業への関わりの現状と課題、今後に向けて必要なこと等を明らかにする。(調査時期:2018年10月～2019年1月)

【回収数・率】 都道府県 47(100.0%) 市区町村 1,025(58.9%/1,741)

【調査方法】 電子メールによる調査票の送付・回収。

(市区町村調査は都道府県の協力を得て調査票を各市区町村に送付後、各市町村から直接回収)

### ●主な調査結果:詳細は「第2章」(P.10参照)

#### ◆ 認知症施策等への本人の参画状況

	都道府県	市区町村
●計画作り: 委員会等に本人が入り、 意見を聴いている	12.8 % (6)	0.7 % (7)
●評価 評価の段階で本人の意見を 聴いている	6.4 % (3)	3.0 % (31)
●見直し 工夫や改善のため本人の 意見を聴いている	63.8 % (30)	10.7 % (110)

#### ◆ 認知症施策・事業等について本人の意見を聴く 今後の計画

	都道府県	市区町村
●平成30年度中に実施 (予定・検討含む)	38.2 % (18)	14.1 % (145)
●平成31年度以降の 実施を検討したい	53.2 % (25)	53.0 % (543)
●実施・検討の予定なし 人口規模が小さい自治体で 多い傾向	8.5 % (4)	32.9 % (110)

#### ◆ 市町村における「本人ミーティング」の開催状況

	市区町村
●開催あり	28.4 % (291)

開催主体は、市町村、介護事業所、家族の自助グループ等多様

#### ◆ 認知症施策に関する計画・点検・評価に本人が参画 することを進めていく上での必要なこと(要望)

- 都道府県、市区町村ともに、「取組事例を知りたい」、「他地域の計画・企画を具体的に知りたい」、「具体的な進め方や内容を知りたい」、「本人参画に関する研修・情報交換の場がほしい」の各項目について7～8割以上が要望。

#### ◆ 施策・事業等に関し本人の意見を聴く・活かすことへの 課題(記述回答分析)

- 取組を進めていない自治体:意見を言う本人がいない、家族を通じてになってしまう、新事業多く優先度低い、等
- 取組を進めている自治体:聴くで終らせず活かす、意見を言ってくれた人のフォロー、一連の流れの必要性、等



# 目 次

はじめに

事業要旨

## 第1章 事業概要..... 1

1. 事業の背景.....	1
2. 事業の目的.....	1
3. 事業の方法.....	1
1) 事業の全体.....	1
2) 全体スケジュール（事業の流れ）.....	3
3) 検討委員会・事業実施体制（研究体制）.....	4
4) 検討委員会開催経過.....	5
5) 全国調査の概要と実施経過.....	6
6) 本人の意見に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクトの試行.....	6
7) 試行地域合同ワークショップ.....	7
8) ガイド作成.....	8
9) 事業報告会.....	9

## 第2章 結 果..... 10

1. 認知症本人の自治体における施策・事業への関わり現況調査結果.....	10
1) 調査概要.....	10
2) 調査結果概要.....	11
2. 本人の視点に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクトの試行結果.....	27
1) 試行概要.....	27
(1) 取組地域.....	27
(2) 展開ステップ.....	28
2) 試行過程の経過と結果.....	30
(1) 各試行地域における試行経過.....	30
①北見市（高齢者・こども110番の家）.....	30
②大崎市.....	33
③藤沢市.....	37
④上田市豊殿地区（安心の会）.....	41
⑤有田市.....	44

⑥有田川町 .....	45
⑦御坊市 .....	46
⑧鳥取市 .....	49
⑨西香川病院（認証疾患医療センター（香川県三豊市）） .....	52
⑩諫早市 .....	55
⑪大和村 .....	63
3) 試行地域合同ワークショップ .....	68
(1) グループミーティング（第1回試行地域合同ワークショップ） .....	68
(2) 合同ワークショップ・試行プロジェクト（豊殿地区「安心の会」） 映像記録 .....	74
3. ガイドの作成 .....	77
1) 「私たちのまちづくりアクションガイド」（認知症の本人向け） .....	77
2) 「本人とともに進める認知症施策改善ガイド」（自治体向けガイド） .....	79
4. 報告会の開催 .....	81
1) プログラム .....	82
2) 主な報告内容 .....	83
3) 参加者アンケート .....	86

### 第3章 考察・まとめ

#### 認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善にむけて .....

1. 認知症の本人が参画する施策展開への転換期 .....	96
2. 認知症の人の意見に基づく認知症施策等の改善を進めていくための 「実践的考え方」 .....	97
3. 認知症の人の意見に基づく認知症施策・事業の点検と改善のための方法 .....	100

#### 資 料 .....

1. 認知症本人の自治体における施策・事業への関わり現況調査 調査票 .....	108
2. 試行地域合同ワークショップ資料 .....	116
3. 報告会 .....	121

# 第1章 事業概要

## 1. 事業の背景

認知症の人にとって真に有効かつ効果的な施策を展開していくためには、認知症の人の視点を重視することが不可欠であるとの観点から、認知症施策総合推進戦略の7つの柱の一つとして「認知症の人とその家族の視pointsの重視」が掲げられ、「認知症総合戦略推進事業」の一環として「認知症の本人が集う取組の普及」が自治体において図られつつある。

その一方、「認知症の本人が集う取組」の本来的な意義である「認知症の人にとって真に有効かつ効果的な施策を展開していく」ための機能、とりわけ新オレンジプランの推進において重視されている「認知症の人の意見を聞きながら随時点検」という機能については、その方法論がまだ十分には確立されておらず、どの自治体でも実行可能な方法論を明らかにすることが求められている。こうした背景をもとに、本事業に取り組んだ。

## 2. 事業の目的

「認知症の人の意見や暮らしの実状をもとに施策・事業を点検する方法」の検討・調査を行い、認知症の人の意見をもとに、各自治体の認知症施策や事業をよりよいものに改善していくための方法論を明らかにすることを通じて、どの自治体においても認知症の人の視点にたつて真に効果的な施策を着実に展開していくことの推進に寄与することを目的とした。

## 3. 事業の方法

### 1) 事業の全体

#### (1) 事業検討委員会の設置

本調査研究事業の実施にあたって、認知症の本人及び有識者12名からなる検討委員会を設置し、全国自治体調査や試行プロジェクトの進捗状況・結果をふまえながら、本事業の全体的な進め方ならびに、認知症の人の視点にたつて真に効果的な施策について、これからのあり方、方法論の検討を行った。(全3回)

#### (2) 認知症本人の自治体における施策や事業への関わり現況調査(全国調査)

自治体・地域における認知症本人の施策や事業への関わりの現状と課題、今後に向けて必要なことやあり方等を把握するべく、全国の自治体(都道府県・市区町村)を対象に「自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価に関する全国調査」を実施した。

### (3) 本人の意見に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクトの試行

本人が参画し本人の意見をもとに共に取組の企画・実施・点検・改善の一連のプロセスを試行・調査する試行プロジェクトを11自治体／地域で実施した。この試行プロジェクトの実施にあたり、試行地域の職員、関係者を中心にした部会（試行部会）を設置し、試行プロジェクトに取り組むためのナビゲーションや情報交換等を行う「試行地域合同ワークショップ」を開催した。（全2回）

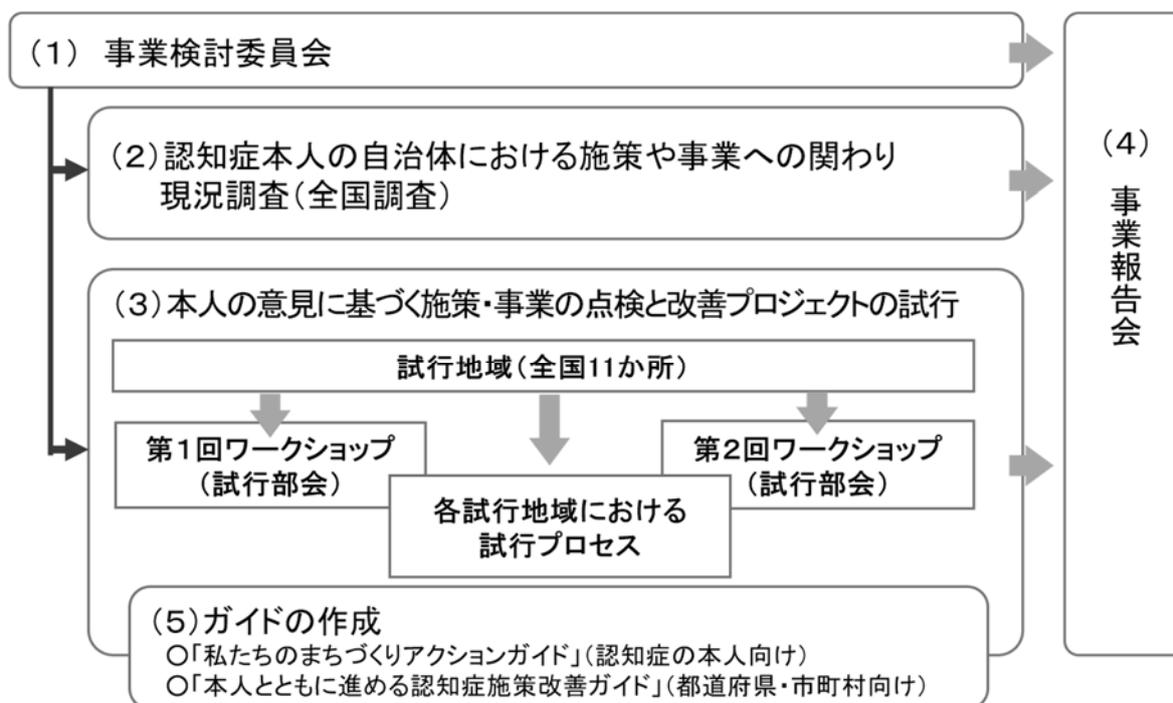
### (4) 事業報告会の開催

本事業の取組と成果を全国に速やかに普及を図るために報告会を開催した。

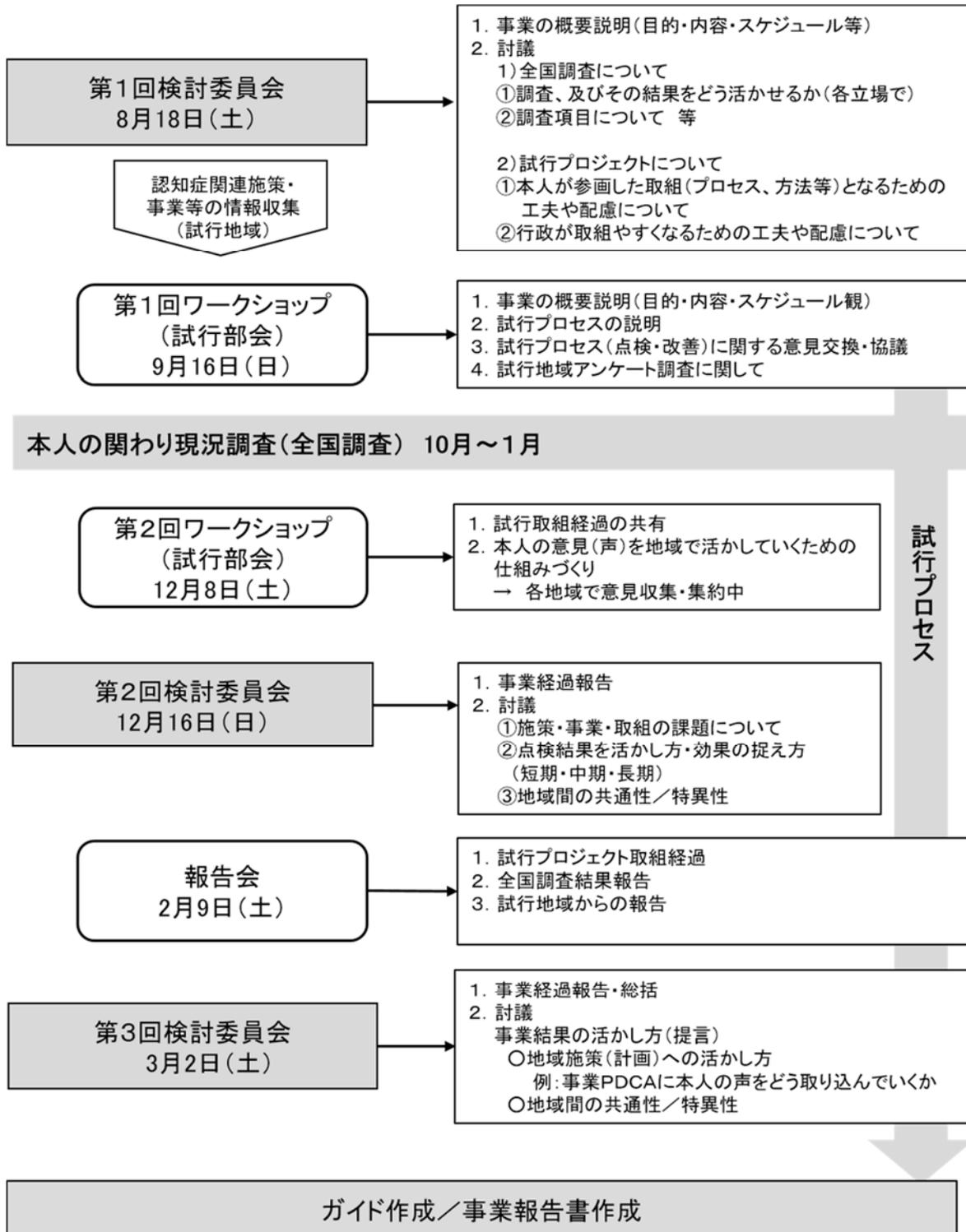
### (5) ガイドの作成

各地の試行プロジェクト等で得られた情報をもとに、認知症の本人の社会参画を推進するための「私たちのまちづくりアクションガイド」（認知症の本人向け）、及び「本人とともに進める認知症施策改善ガイド」（都道府県・市町村向け）を作成した。

#### <事業の全体>



## 2) 全体スケジュール（事業の流れ）



### 3) 検討委員会・事業実施体制（研究体制）

#### (1) 検討委員会

\*は委員長（計12名・敬称略・50音順）

氏名	所属・役職
栗田 圭一*	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 自立促進と介護予防研究チーム 研究部長
石原 哲郎	医療法人社団 清山会 みはるの杜診療所 院長
川村 雄次	日本放送協会 広報局制作部 チーフディレクター
城守 国斗	公益社団法人日本医師会 常任理事
小鈴 康子	藤沢市 福祉健康部 地域包括ケアシステム推進室
坂元 寛興	公益社団法人大島郡医師会 地域保健課長
杉山 勝	静岡県 健康福祉部 福祉長寿局 長寿政策課長
鈴木 森夫	公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事
永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター 研究部長
藤田 和子	一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事
前田 隆行	NPO法人 町田市つながりの開 理事長
渡邊 康平	一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

#### (2) 事業実施体制

事業全体のとりまとめ： 栗田 圭一（東京都健康長寿医療センター研究部長）  
 事業担当者： 永田 久美子（認知症介護研究・研修東京センター研究部長）  
 事業担当者： 宮前 史子（東京都健康長寿医療センター研究員）  
 事業担当者： 小森 由美子（認知症介護研究・研修東京センター客員研究員）  
 事業担当者： 鈴木 英一（日本認知症本人ワーキンググループ）  
 事業経理担当者： 渡辺 紀子（日本認知症本人ワーキンググループ）

#### ○オブザーバー

厚生労働省 老健局総務課認知症施策推進室 室長補佐 井上 宏

## 4) 検討委員会 開催経過

### ○第1回検討委員会

日時：平成30年8月18日（土）13時30分～16時

場所：東京八重洲ホール

内容：1) 調査研究事業概要説明

2) 全国調査について討議

①調査、及び調査結果の活かし方（どう活かせるか）：各立場から

②調査項目について 等

3) 試行プロジェクトについて討議

①本人が参画した取組（プロセス・方法等）となるための工夫・配慮について

②行政が取組やすくなるための工夫・配慮について

### ○第2回検討委員会

日時：平成30年12月16日（日）13時30分～16時

場所：東京八重洲ホール

内容：全国調査・試行プロジェクトの進捗状況説明を経て、以下を検討

1) 本人が語る、「話」を聴くための基盤的課題の解決方向

2) 本人の声を起点とすることの認識の向上

3) 施策・事業上の具体的なメリット

・効果的な活かし方・効果のとらえ方

### ○第3回検討委員会

日時：平成31年3月2日（土）13時30分～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：全国調査・試行プロジェクトの結果を経て、以下を検討

1) 認知症の人の意見に基づく認知症施策等の改善への考え方

2) 認知症の人の意見を認知症施策等の改善に活かすための方法



(第1回検討委員会)



(第2回検討委員会)



(第3回検討委員会)

## 5) 全国調査の概要と実施経過

本事業では、自治体・地域における認知症本人の施策や事業への関わりの現状と課題、今後に向けて必要なことやあり方等について、全国の自治体を対象に「自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価に関する全国調査」を実施した。

※調査結果は、第2章

### (1) 調査対象

- ・都道府県：47
- ・市区町村：1,741

### (2) 調査時期

平成30年10月～平成31年1月

(一次期限：10月末、二次期限11月末、三次期限1月末)

### (3) 調査方法

電子メールによる調査票送付・回収

市区町村調査は、都道府県の協力を得て調査票を各市町村に送付後、研究調査メールアドレスにて、各市町村から回答ファイルを直接回収。

### (4) 回答数 (回答率)

都道府県 (47) : 回答数 47 (100.0%)

市区町村 (1,741) : 回答数 1,025 (58.9%)

## 6) 本人の意見に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクトの試行

試行地域 (11 自治体/地域) を設定し、各試行地域で、本人が参画し、本人の意見をもとに共に取組の企画・実施・点検・改善の一連のプロセスを試行調査する、試行プロジェクトを実施した。

※結果は、第2章

### ○試行プロジェクト実地地域 (全 11 自治体/地域)

	地域	都道府県	人口 (研究班調)	高齢化率 (研究班調)
1	北見市 (高齢者・子ども110番の家)	北海道	117,993人	32.4%
2	大崎市	宮城県	131,692人	28.7%
3	藤沢市	神奈川県	430,662人	24.2%
4	上田市 (豊殿地区)	長野県	158,309人	29.1%

5	有田市	和歌山県	28,740 人	32.3%
6	有田川町		26,919 人	31.19%
7	御坊市		24,005 人	30.12%
8	鳥取市	鳥取県	188,562 人	28.3%
9	三豊市	香川県	66,642 人	34.52%
10	諫早市	長崎県	136,746 人	29.00%
11	大和村	鹿児島県	1,524 人	39.8%

## 7) 試行地域合同ワークショップ

試行プロジェクトの実施にあたり、試行地域の職員、関係者を中心にした部会（試行部会）を設置して、試行プロジェクトに取り組むためのナビゲーションや情報交換等を行う「試行地域合同ワークショップ」を開催した。（全2回）

### ○第1回試行地域合同ワークショップ

日時：平成30年9月16日（日）13時30分～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：・試行プロセスの説明

・試行プロセス（点検・改善）に関する意見交換・グループミーティング

### ○第2回試行地域合同ワークショップ

日時：平成30年12月8日（土）13時30分～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：・各地域からの経過紹介

・本人の意見（声）を地域で活かしていくための仕組みづくり検討



## 8) ガイド作成

### 「私たちのまちづくりアクションガイド」(認知症の本人向け)

○A4変形判(210×210mm)、28頁



### 「本人とともに進める認知症施策改善ガイド」(都道府県・市町村向け)

○A4判、56頁



## 9) 事業報告会

本事業の報告会を下記のとおり開催し、北海道から九州まで全国各地から参加申込があった。報告会終了後に、参加者を対象にしたアンケート調査を実施した。

日時：平成31年2月9日（土）10：30～16：30

場所：品川フロントビル会議室（東京）

参加者：全216名（認知症の本人、家族、介護・看護・医療、研究者、報道、行政等）



### ○プログラム

<p>開会／あいさつ</p> <p>○検討委員長：栗田主一（東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム研究部長）</p>
<p>本調査研究事業に関連して：情報提供</p> <p>○厚生労働省老健局認知症施策推進室 井上 宏 さん</p>
<p>事業概要とみてきたこと</p> <p>○検討委員：藤田 和子（日本認知症本人ワーキンググループ） 永田 久美子（認知症介護研究・研修東京センター）</p>
<p>【1】静岡県：静岡県の認知症施策 認知症の本人の声を起点としたやさしい地域づくり</p> <p>○静岡県健康福祉部長寿政策課</p>
<p>【2】諫早市：誰もが望む居場所へつながるために</p> <p>○諫早市健康福祉部高齢介護課 岩本 節子 さん ○福田 人志 さん</p>
<p>【3】藤沢市：認知症についてあなたの声を聴かせてください ～本人ミーティングから始まった共に創る暮らしと地域～</p> <p>○藤沢市地域包括ケアシステム推進室</p>
<p>【4】上田市豊殿地区の取り組み ～当事者と共にすすめる地域づくり～</p> <p>○春原 治子さん・神林 芳久さん（「安心」の会） ○櫻井 記子さん（社会福祉法人 ジェイエー長野会）</p>
<p>【5】香川県三豊市立西香川病院（認知症疾患医療センター）</p> <p>○井川 咲子 さん・渡邊 康平 さん・野島 正光 さん</p>
<p>【6】御坊市：認知症の人とともに築く 総活躍のまち“ごぼう”</p> <p>○御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之 さん ○御坊市在宅介護支援センター藤田 玉置 哲也 さん</p>

## 第2章 結果

### 1. 認知症本人の自治体における施策・事業への関わり現況調査

(自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価等に関する全国調査)

#### 1) 調査概要

##### (1) 調査対象

- ・都道府県：47
- ・市区町村：1,741

##### (2) 調査時期

平成30年10月～平成31年1月

(一次期限：10月末、二次期限11月末、三次期限1月末)

##### (3) 調査方法

電子メールによる調査票送付・回収

市区町村調査は、都道府県の協力を得て調査票を各市町村に送付後、研究調査メールアドレスにて、各市町村から回答ファイルを直接回収。

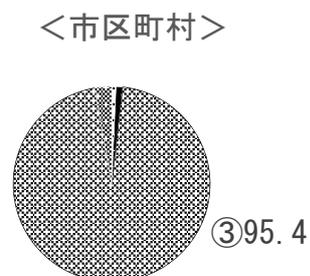
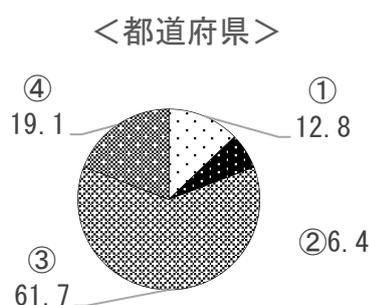
##### (4) 回答数(回答率率)

区分	回答数	回答率
都道府県 (47)	47	100.0%
市区町村 (1,741)	1,025	58.9%

## 2) 調査結果概要

### (1) 認知症施策等の計画づくりに関する本人の参画状況

	都道府県 % (N=47)	市区町村 % (N=1,025)
①実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いている	12.8% (6)	0.7% (7)
②会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない	6.4% (3)	1.1% (11)
③委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらったことはない	61.7% (29)	95.4% (975)
④その他	19.1% (9)	2.8% (29)

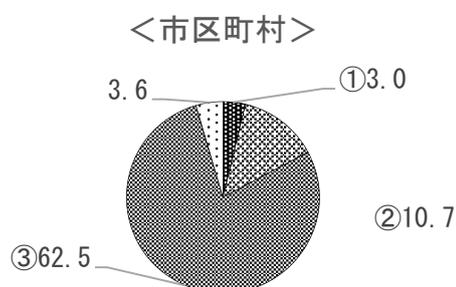
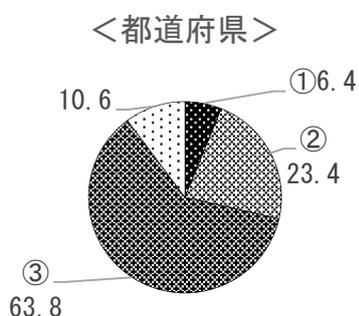


#### (市区町村人口階級別)

	1万人未満 (N=265)	1万～2.5万未満 (N=197)	2.5万～10万未満 (N=368)	10万～20万未満 (N=96)	20万～50万未満 (N=71)	50万以上 (N=28)
①実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いている	0.0%	0.5%	0.8%	1.0%	0.0%	7.1%
②会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない	0.0%	1.0%	1.1%	0.0%	1.4%	14.3%
③委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらったことはない	96.6%	95.4%	96.5%	94.8%	95.8%	71.4%
④その他	3.4%	3.0%	1.6%	4.2%	2.8%	7.1%

(2) 認知症施策等に関する事業や取組の評価や見直し等への本人の参画状況

	都道府県 % (N=47)	市区町村 % (N=1,025)
①事業等の評価の段階で本人の意見を聴いている。	6.4% (3)	3.0% (31)
②事業等の工夫や改善のために、本人の意見を聴いている。	23.4% (11)	10.7% (110)
③事業等の評価や見直しについて、本人に意見を聴いたことはない。	63.8% (30)	62.5% (641)
④その他	10.6% (5)	3.6% (37)

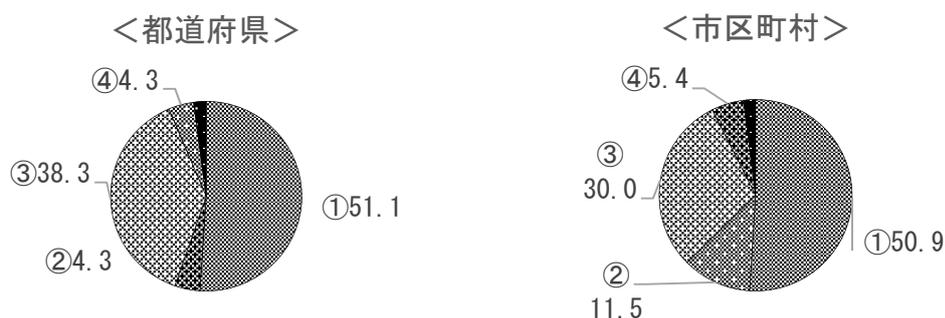


(市区町村人口階級別)

	1万人未満 (N=265)	1万～2.5万未満 (N=197)	2.5万～10万未満 (N=368)	10万～20万未満 (N=96)	20万～50万未満 (N=71)	50万以上 (N=28)
①事業等の評価の段階で本人の意見を聴いている。	3.8%	5.7%	2.5%	3.8%	3.2%	8.0%
②事業等の工夫や改善のために、本人の意見を聴いている。	11.7%	12.7%	13.5%	12.8%	15.9%	28.0%
③事業等の評価や見直しについて、本人に意見を聴いたことはない。	79.8%	79.7%	80.4%	78.2%	73.0%	44.0%
④その他	4.7%	1.9%	3.6%	5.1%	7.9%	20.0%

### (3) 認知症施策担当者と自治体内の認知症の本人との関わり

	都道府県 % (N=47)	市区町村 % (N=1,025)
①本人と直接関わる機会をもち、本人の体験や本人が必要としていることを聴くようにしている。	51.1% (24)	50.9% (552)
②本人と直接関わることはあるが、本人の体験や本人が必要としていることはあまり聴いていない。	4.3% (2)	11.5% (118)
③本人と直接関わることはないが、本人の体験や本人が必要としていることを、(市区町村の認知症担当者や)管内関係者を通じて間接的に知るようにしている。	38.3% (18)	30.0% (308)
④本人の体験や本人が必要としていることは、直接的にも間接的にも聞いていない。	2.1% (1)	5.4% (55)
その他	0	2.0 (21)



#### (市区町村人口階級別)

	1万人未満 (N=265)	1万～2.5万未満 (N=197)	2.5万～10万未満 (N=368)	10万～20万未満 (N=96)	20万～50万未満 (N=71)	50万以上 (N=28)
①本人と直接関わる機会をもち、本人の体験や本人が必要としていることを聴くようにしている。	59.5%	53.3%	50.8%	35.4%	37.5%	42.9%
②本人と直接関わることはあるが、本人の体験や本人が必要としていることはあまり聴いていない。	9.9%	14.1%	12.0%	13.5%	9.7%	0.0%
③本人と直接関わることはないが、本人の体験や本人が必要としてい	22.1%	23.1%	30.6%	45.8%	48.6%	46.4%

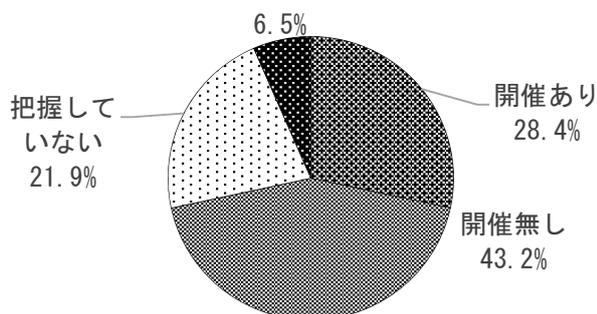
ることを、(市区町村の認知症担当者や)管内関係者を通じて間接的に知るようになっている。						
④本人の体験や本人が必要としていることは、直接的にも間接的にも聞いていない。	5.3%	7.0%	4.9%	4.2%	4.2%	7.1%
その他	3.1%	2.5%	1.6%	1.0%	0.0	3.6%

#### (4) 本人ミーティング※の開催

※本人ミーティング：地元の本人が集り、本人同士で自らの体験や必要なこと、希望を話し合い、本人の声を暮らしや地域にいかしていくための機会

##### ①市区町村での開催状況

①開催 あり	291	28.4%
②開催 無し	443	43.2%
③あるかどうか、把握していない	224	21.9%
その他	67	6.5%
合計	1,025	



##### ②開催ありの場合の実施主体（複数回答）

①都道府県が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	8.2%
②市区町村が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	11.4%
③本人の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	2.1%
④家族の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	8.5%
⑤管内医療機関（認知症疾患医療センター等）が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	3.9%
⑥管内介護事業所が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている	10.1%

⑦管内医療・介護職等の自主組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	4.0%
⑧管内社協等、地域活動組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。	7.6%

## (5) 本人ミーティングの開催支援

### ①都道府県（複数回答：N=47）

都道府県が、市区町村に本人ミーティングに関する情報提供をしている。	26	55.3%
都道府県が、市区町村に「本人ミーティング開催ガイド」の活用を勧めている。	13	27.7%
都道府県が、「本人ミーティング」の取組情報を集め、市区町村に情報提供している。	11	23.4%
都道府県が、市区町村の関係者が集まり「本人ミーティング」に関する報告や話し合いをする機会をつくっている。	9	19.1%
都道府県が、市区町村等による「本人ミーティング」の準備や実施過程に関わり、何らかの後押しをしている。	9	19.1%
都道府県が、市町村等が「本人ミーティング」で把握した本人の声を集約し、情報提供（冊子等の配布等）している。	2	4.3%
その他	6	12.8%

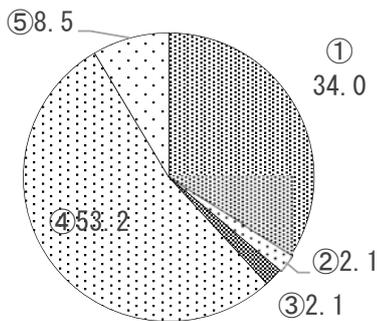
### ②市区町村（複数回答：N=1,025）

市区町村が、関係者に本人ミーティングに関する情報提供をしている。	173	16.9%
市区町村が、関係者に「本人ミーティング開催ガイド」の活用を勧めている。	36	3.5%
市区町村が、「本人ミーティング」の取組情報を集め、関係者に情報提供している。	59	5.8%
市区町村が、関係者が集まって「本人ミーティング」に関する報告や話し合いをする機会をつくっている。	55	5.4%
市区町村が、関係者による「本人ミーティング」の準備や実施過程に関わり、何らかの後押しをしている。	66	6.4%
市町村として、関係者が「本人ミーティング」で把握した本人の声を集約し、情報提供（冊子の配布等）をしている。	6	0.6%
その他	38	3.7%

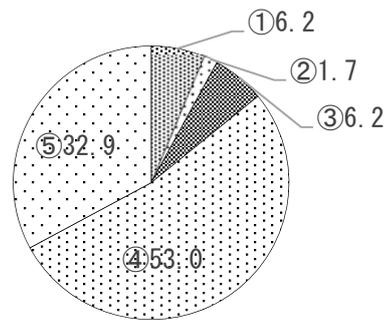
(6) 認知症施策・事業・取組について、認知症の本人の意見を聞く計画

	都道府県		市区町村	
	件数	割合	件数	割合
①平成30年度中に実施する具体的な計画がある。	16	34.0%	64	6.2%
②平成30年度中に実施を検討したい。	1	2.1%	17	1.7%
③具体的な計画・予定はないが、平成30年度中に何らかの意見を聴く試みをした	1	2.1%	64	6.2%
④平成30年度はないが、次年度以降の実施にむけて検討したい。	25	53.2%	543	53.0%
⑤実施・検討の予定はない。	4	8.5%	337	32.9%
無回答	0	0	0	0

<都道府県>



<市区町村>

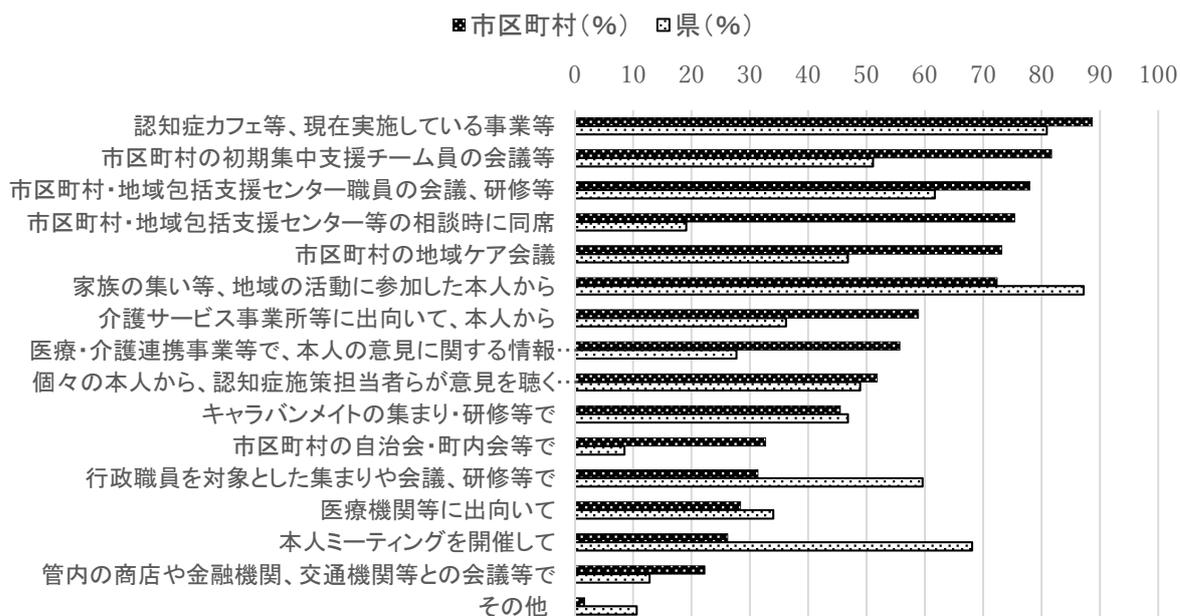


(市区町村人口階級別)

	1万人未満 (N=265)	1万～2.5万未満 (N=197)	2.5万～10万未満 (N=368)	10万～20万未満 (N=96)	20万～50万未満 (N=71)	50万以上 (N=28)
平成30年度中に実施する具体的な計画がある。	2.7%	4.5%	4.4%	17.7%	12.5%	21.4%
平成30年度中に実施を検討したい。	0.8%	1.0%	2.7%	1.0%	0.0%	7.1%
具体的な計画・予定はないが、平成30年度中に何らかの意見を聴く試みをした	5.3%	5.5%	7.4%	6.3%	4.2%	10.7%
平成30年度はないが、次年度以降の実施にむけて検討したい。	53.8%	53.8%	52.0%	45.8%	62.5%	50.0%
実施・検討の予定はない。	37.4%	35.2%	33.5%	29.2%	20.8%	10.7%

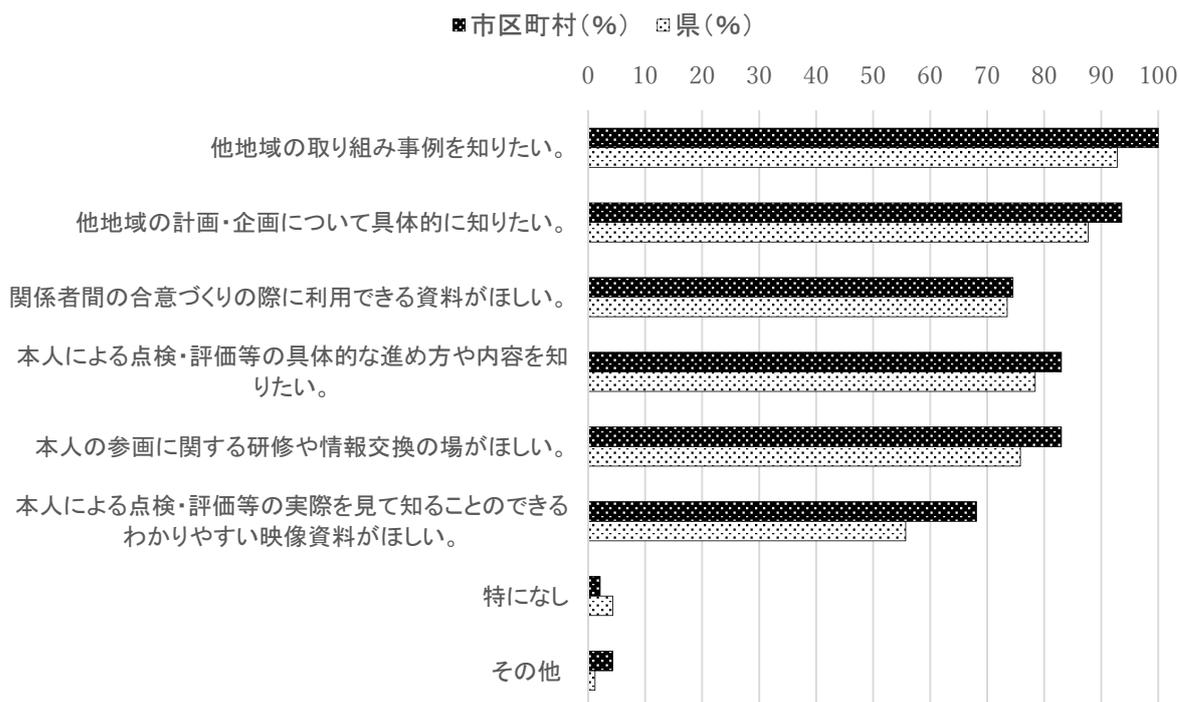
## (7) 認知症の本人に意見を聞く場合の実施可能と考える機会と場、方法

(複数回答)	県 (%)	市区町村 (%)
認知症カフェ等、現在実施している事業等	80.9	88.7
市区町村の初期集中支援チーム員の会議等	51.1	81.7
市区町村・地域包括支援センター職員の会議、研修等	61.7	78
市区町村・地域包括支援センター等の相談時に同席	19.1	75.4
市区町村の地域ケア会議	46.8	73.2
家族の集い等、地域の活動に参加した本人から	87.2	72.4
介護サービス事業所等に出向いて、本人から	36.2	58.9
医療・介護連携事業等で、本人の意見に関する情報を収集	27.7	55.7
個々の本人から、認知症施策担当者が意見を聴く機会	48.9	51.8
キャラバンメイトの集まり・研修等で	46.8	45.5
市区町村の自治会・町内会等で	8.5	32.7
行政職員を対象とした集まりや会議、研修等で	59.6	31.4
医療機関等に出向いて	34	28.4
本人ミーティングを開催して	68.1	26.2
管内の商店や金融機関、交通機関等との会議等で	12.8	22.3
その他	10.6	1.7



**(8) 認知症施策等に関する事業・取組をよりよいものにしていくための計画・点検・評価に本人が参加することを進めていく上での要望**

(複数回答)	県 (%)	市区町村 (%)
他地域の取り組み事例を知りたい。	100.0	92.8
他地域の計画・企画について具体的に知りたい。	93.6	87.7
関係者間の合意づくりの際に利用できる資料がほしい。	74.5	73.5
本人による点検・評価等の具体的な進め方や内容を知りたい。	83.0	78.4
本人の参画に関する研修や情報交換の場がほしい。	83.0	75.8
本人による点検・評価等の実際を見て知ることのできるわかりやすい映像資料がほしい。	68.1	55.7
特になし	2.1	4.3
その他	4.3	1.2



**(9) 認知症施策等に関する事業・取組について、本人に意見を聞くこと、意見を活かすことへの課題と考えること**

**①都道府県（主な回答）**

1	認知症を公表することへの抵抗感などから、行政の取組等についての意見聴取に協力してくれる当事者が見つかりにくい。
2	意見を発信できる認知症の本人がなかなか見つからない（研修会で登壇してくれる御本人はいたが、自身は語らず、家族が代弁していた。また、若年性認知症の人のサロンにも参加したが、意見を話せる方がいなかった）。県内に一人でも発信力のある御本人がいると変わると思っている。
3	認知症の本人と言っても、意見を聞くことが出来る人が限られている。
4	本県では、「認知症の人と家族の会」と連携して、本人ミーティングへ参加出来る当事者について打診したところ、該当者がいないとのことで参加出来る当事者を探すことが困難である。
5	認知症疾患医療センターを通じて、県で開催している協議会等に本人の参画を打診しているが、参画していただける本人の方がなかなかみつからないという現状がある。
6	認知症の本人の方で、そういった場に出てきて話をしたいという方を集めること・見つけることが難しいと考えています。
7	本人の希望を反映させるための事業実施に係る予算の確保。
8	継続的に意見を聞く場を作ることが難しい。計画作成年度などに会議のゲストスピーカーとして来てもらう等であれば可能。
9	県の立場では、直接認知症の本人と接する機会がほとんどないため頂戴した意見等は大切に、事業に活かすようにしている。 県主催の研修等の効果か市町村に「認知症の本人の意見を聴くこと」の大切さは浸透してきたが、本人ミーティング等の取り組みやその意見を活かすことにまでには至っていない。県が本人ミーティングを実施することは可能と思われるが、まずは身近な市町村の取り組みが活発になる必要があると考える。
10	意見を発信できる本人をいかに発見するか、また発見したとしてもどのようにして公の場に出てきてもらうかが課題
11	若年性認知症の人と家族の交流会（年1回開催するが、本人の意見を聴くところまでは至っていない） 若年性認知症の実態調査（回答者が家族であり本人の意見を聴くまでは至っていない）
12	現在担当が本庁に1人であるため、地域に出向く機会が少ない。
13	・社会の中で認知症に対する理解は進んでいるが、本人の意見を聴くことについて、本人や家族に対するアプローチが難しい。特に、認知症の診断直後など本人や家族が受容できていない段階では、丁寧な対応が求められる。 ・本人の意見を活かすことについては、施策を変えるという大きな視点よりも、ちょっとした改善が大事であり、この点を皆で認識する必要がある。
14	認知症の本人の意見を聴く機会を持つためには、市町村との連携や協力が不可欠である。 認知症の本人の意見は、病状、性格、社会的環境等に応じ多種多様であり、施

	策への反映方法が難しい。また、本人の支援者の意見となる危険性も高いと思われる、注意が必要。
15	・都道府県担当者は、県主催の認知症カフェ・市町等による認知症カフェ等に参加し、認知症の人と話す機会を持っているが、現在の業務等の範囲では普段から継続的に認知症の人と関わる機会が少ないため、意見を聞くための関係づくりが難しい。行政職員側がどのように意見を聞く・引き出す力を身に着けるかということも課題と感じる。
16	認知症本人に出会えず、意見を活かすことに繋がっていない地域もあり、府域全体での取組には至っていない。
17	本人の年齢や認知症の容態などによりニーズが異なることが想定されることから、本人とその家族の同意を得たうえで、意見を述べる方を複数名確保することが難しい。
18	・本人の集まりの場が少ないこと
19	・認知症の本人が意見を出しやすい環境を整えるため、認知症の人や家族への理解を深める必要があり、普及啓発等の施策の充実が重要となる。
20	本人の意見を聞くことは非常に重要なことだと考えており、県内の3圏域において、委託事業の中で当事者による意見交換会を開催している。一方、行政の委員会や検討会への参画については、今後他県の状況等を踏まえ検討したい。
21	認知症施策の主要な会議には、現在出席していただいているため、出席して発言をしていただけるだけで、他の委員の認知症の人に対するイメージが変わったり、理解を促すことにつながっている。 現状としては、本人ミーティング、会議に参加していく中で、ご本人達が社会的な役割を徐々に認識していった段階である。 今後は、本人ミーティングの中で出てくる様々なエピソードが、支援者側の想像とは大きく違うことが多くあるため、それらを、認知症施策の会議の中でご本人達がもっと伝えられるようになるとさらに役割が果たしていけると考えている。
22	話ができる方を集めることが難しい（発見が遅い、本人も公の場に出たがらない等） 認知症疾患医療センターなどと連携しながら進めたい。
23	意見等を発言出来る認知症の本人を見いだすことが出来ていない。
24	本人を県の有識者会議に招くにあたり、何よりその人選、そして当日のサポートや会議の進め方などで課題がある。
25	・認知症の本人の意見を聞くことは、若年や軽度期等の意見が表出できる人の意見だけに偏るのではないかと懸念がある。 ・認知症の人の意向をくみ取れるよう、医療・介護などの従事者のスキルアップを図ることが必要である。
26	県内市町村での実施について進んでおらず、また市町村のマンパワー不足等により意見を聞いても実行に移すことが難しいと考えられる。 特別な場を設けて話を聞くと言うよりは、既存の集まりなどを利用するのが望ましいと思うが、県の事業では現在そういったことをしていないためどういった形でミーティングの場を設ければ良いのかわからない。
27	県が開催している施策推進会議等の会議に委員として本人が参加することについては、本人の体調面等も勘案すると、委員として選出できる人材の確保が困難な現状にある。本人の意見を聞くことは大切と考えるため、事前に本人の声

	を聞く機会をもち、この意見をもって会議をする必要がある。また、結果についても本人にフィードバックする必要がある。
28	・市町村が実施する際には、地域包括支援センターが主体となることが想定されるが、周囲の状況や業務量等を理由に実施できていない。
29	・認知症カフェや当事者・家族の集いなどで本人の声を聞くことはあっても、それを施策に生かすまでは至っていない。具体的にどのようなプロセスで施策反映していけば良いのか苦慮しており、まずは先進事例の収集などに努めている。 ・今年度、丹野智文さんや山田真由美さんによる講演会が県内で開催され、本人の声を聞いて活かすという機運は高まっている。今後は、県内でも増えつつある認知症地域支援推進員、キャラバンメイト、サポーター、サポート医等を活用していき、市町村・地域における取り組みを支援していく必要がある。
30	県が直接住民と接する機会は少ないので、市町を通して意見を伺うことが主となる。 そのため、県の職員が、認知症の人との接点をもつためには、市町職員の、認知症の本人との関わり方に左右されるところも大きい。

## ②市区町村（回答からの抜粋）

1	1. 必要性（ニーズ）はあるのか、調査が必要と思われる。 2. 認知症の人の掘り起こしにならないか。認知症への先入観、嫌悪感、偏見の目がまだ根強いと思われるため。
2	どの年代の認知症の本人であっても、人前で話をする事に対し抵抗があるため、意見の聞き方を検討する必要があると感じている。
3	市民（当事者やその家族を含む）の認知症に対する理解がどの程度されているのか、普及啓発として浸透しているのかが不明確であることから、事業のどういった部分に本人の意見を活かす事ができるのか、実施の目的がまだ明確化できていない事が課題と考える。
4	認知症に関する施策、事業や取り組みを進めるにあたっては、認知症の本人の意見を聞かなければならないというルールが明確になれば、何らかの形で取り組みが進むと思われる。
5	認知症カフェ、認知症サポーター養成講座を開催している。認知症の本人が参加する機会は殆ど無いのが現状であり、意見を聞けていない。
6	認知症の本人や家族の意見について支援時に確認することはあったが、認知症施策や事業を展開するために収集するという機会がなかった。今後は事業に生かすことを目的に認知症やその家族の意見を取り入れていきたい。
7	認知症の方、ご本人の意見を聞いて、何に活用していくかを検討することから始めなければならないため、どう活用していけるのかを検討することが課題。
8	当村の認知症施策はまだその段階ではなく、住民に認知症についての啓発事業をこれからスタートさせるところ。また、認知症に対しての、住民の抵抗、恥ずかしいことという認識があるため、本人に事業に参画してもらうのはまだハードルが高いと感じる。
9	地域づくりにおいて認知症本人が参画して、その視点を取り入れる必要性を感じているが、本人から意見を引き出す手法や意見を企画立案に反映させる力量が不足していること。

10	認知症本人や家族と接する機会があるので、本人や家族の意見を聞くことは可能と考える。人口が少ないため、認知症の対象がいても症状や生活状況は人それぞれであり、本人、家族の意見が様々となることが予想される。その場合、どの意見に対して施策化するか検討が必要と考える。
11	認知症カフェに取り組みたいと考えるが、場所や従事者、委託先等が過疎地域では困難である。認知症の本人や家族の理解を取ることが難しい。
12	規模の小さな市町村でもあることから、本人・家族ともに“認知症である”ということを周囲に知られたくないと感じている人が多い。また、本人自身も自分が認知症であるということを受け入れられていない人が多い。そのようななかで、本人ミーティングなど、認知症本人同士が集い、必要としていることを語り合う場につなげるという支援に難しさを感じる。
13	認知症の重度の方に関わる機会が多く、そうすると本人の意見を聞くことが難しい。潜在している初期の認知症の方への働きかけが課題と感じている。
14	具体的な手法がわからない
	地域に認知症の専門医がいないため、正確な診断を受けていない人も多く、本人に「認知症の本人」として意見を聞く場面があったとしても対象を誘うことが難しい。
15	行政担当部署が当該事業の必要性についてどれだけ理解しているか、また必要性は感じていても推進のための人員配置をどうするかが課題。
16	認知症本人とのコミュニケーション力、意見を引き出す力が不足していると感じる。
17	事例検討や、集いの場では、認知症の方の家族の困りごとが中心になってしまい、認知症のご本人の意見を聞くことが十分にできていない。行政、ケアマネ、事業所職員等も認知症の人の声を聞くこと、施策に活かすことについての理解が深まっていない。
18	認知症施策に問わず、当事者が参画し自治体施策等へ活かして行く事は大事な事と感じますが、認知症の場合は特に人に知られたくないなどの思いも強い物と思われまます。特に小規模自治体の場合は、近隣の目を気にしたりとする場合もあり、実際にご本人が会議等に参画する場合の、アプローチの仕方やその後のフォローをどのようにするべきかなど、その土台に上がる前と上がった後の関わり方法に不安を感じます。地域の介護支援専門員等の介護事業者から認知症施策に必要な意見などを、間接的に確認する事は出来ますが、ご本人が参画する事の課題は大きいと感じています。
19	65歳以上人口、要介護等認定取得者の増加や介護保険制度の各種改正により介護保険に携わる職員の業務量が従前よりも増加しており、認知症に関する施策や事業に特化した取り組みをすることは難しいと思う。しかし、小規模自治体のため、介護保険に携わる職員が日常業務と併せて介護認定訪問調査や認知症を患う本人や家族からの各種相談に対応しており、日頃の業務から得られた情報を認知症に関する施策や事業に活かしていきたい。
20	若年性認知症の診断を受けている方を把握しきれておらず、また、認知症の方が自分のことを認知症と自覚しているケースも少ないため、話し合いの場を設けること自体、どこから手を付けてよいか分からない。

21	<p>当事者やその家族が認知症であることに向き合い、オープンにできる地域（環境）づくりから取り組む必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期～軽症段階では支援者と繋がり難い。</li> <li>・認知症であることが告知されない。或いは告知があっても否定又は理解が難しい。</li> <li>・認知症であることを隠そうとする風潮が根強い地域性。</li> </ul>
22	<p>認知症の人が認知症に関する施策、事業や取り組みについて理解することが難しいことも少なくない。本人の意見が自分の意見を述べるのが難しいことも少なくない。また、認知症の人が自らを認知症として理解し、受容している人も多くはない。意見を表明するにも家族の理解と協力が必要なことがあり、移動や時間の確保を含め、総合的に理解してもらうことが必要である。</p>
23	<p>認知症の本人に意見を聞くことは可能だが、その意見を活かすために、新たな予算が生じる場合は、予算確保が困難であるため、実現が難しい。</p>
24	<p>認知症の本人、家族、支援者の認識や考え方がそれぞれ異なる。また、生活圏域ごとに課題が異なるため、優先度の見極めやどのような取り組みが必要かを検討することが難しい。</p>
25	<p>認知症カフェなどで本人と話す機会などはあるが、意見をきくとなるとどうしても本人の話よりも家族の意見を聞いてしまう。</p>
26	<p>認知症に関する事業を開催する中で、認知症の本人の意見を聞き取りをしているが、事業に参加されている認知症の方が少ないため、事業以外でも広く意見を聞く機会が必要と考える。</p>
27	<p>町としての目標値、計画、評価指標などが曖昧なこと（話し合いや検討・決定が行われていないこと）。</p>
28	<p>認知症の方の意見を聞くには信頼関係の構築が必要であり、時間がかかります。認知症の方の意見を聞いたり、意見を活かすにはスタッフの増加が必要だと思われまます。</p>
29	<p>本人ミーティングの実施を考えた際に、認知症と診断を受け本人にその旨を説明されている人がどれくらいいるか把握できていない。症状が進行してからの受診・相談をしている方が多く、説明を受けている方は少ないのではないかとと思われる。</p> <p>ひとりひとりの声を、どのように施策に活かしていくかの視点を持った取り組みができていない。</p>
30	<p>オレンジカフェ等で本人の意見を聞く機会は設けているが、地域性により状況が違うことから、施策に反映させられる内容がまとまっていない。</p>
31	<p>認知症の本人の意見を聞くことは重要であると考えます。現在、自分が認知症と診断された方で自覚している方が少ないため、本人の意見を聞く機会がない状態である。認知症の事業や取り組みについて本人の意見をもらうための場を設定すると、協力を得る方法、自尊心を傷つけないように伝える方法、意見を聞く際に分かりやすい聞き方等どのようにしたらよいか課題があると思う。</p>
32	<p>認知症カフェを開催しており、認知症の本人及びその家族に来ていただくように声かけをしていっているところだが自覚のある本人を見つける必要があるが、それは非常に難しく、なかなかそういった方々の参加は少ない現状があります。また、個別ケース支援の際に本人や家族の個々の要望を聞き取っている現状がある。</p>

33	山間地域は、総じて地域資源・人的資源が乏しく、生活支援体制整備事業だけを取り上げて、取り組みへの難易度が高い。ひとつの自治体でできることは限られており、医療・生活圏が近隣市町村まで関わっている山間地域では、特に広域的に協働できるような近隣での市町村連携を先に進めるべきではないか。
34	地域づくりにおいて本人ミーティングの必要性は感じているが、どのような過程で実施するのか、認知症と診断を受けておられる方本人やその家族から意見を聞くための呼びかけの方法等具体的な手法に関する情報が少なく取り組めていない。先進地が「本人や家族からの意見を具体的にどう活かし成果として得られたものは何か」、というところが整理できれば、動きやすくなるのではないかと思う。
35	若年性認知症の当事者の把握が難しい現状にある。医療機関が当事者を把握している場合があるため、医師会と連携し、本人同意の上、医療機関等から情報提供いただくのも今後の課題と感じている。また、就労支援を行うハローワークや社会福祉協議会と連携を図る中で、若年性認知症の当事者の把握につとめていきたいと考えている。
36	認知症の本人の意見は家族、ケアマネージャー等を通して聞くことはできているが、介護資源等が限られているため施策や事業に活かすことは難しい。
37	認知症や精神科に対する偏見が未だに根強い。早期発見、対応に繋げることや当事者同士で集まれる組織の構築などが難しいと感じている。まずは普及啓発が必要。今後、本人ミーティング開催に取り組むことや、本人の意見を聞いて活かすためには、行政、医療、介護関係者、市民が認知症について理解を深め、連携して取り組む必要がある。
38	認知症と認めない方や世間体を気にして隠そうとする家族が多い。認知症の症状にもよるが、会話が成立しないケースもある。
39	現在、認知症当事者に対する個別的な支援は実施しているが、当事者が集まり、話をする場（本人ミーティング等）の実施にはまだ至っていない。今後若年性認知症の取組についても、進めていくことが課題となると思われる。
40	認知症の人と家族の会はあるが、あまり活動が活発でない。認知症サポーター養成講座の際に会員（家族）の体験談を依頼しているが、話し手が限定されている。
41	本人の意見やそれを事業や取り組みに活かすためには、日々の業務の中で認知症の本人と直接関わりをもつ際に、本人と向き合い信頼関係を築き支援に繋がっていくことが重要であると考え。その中で本人や家族の思いをくみ取り、担当としてやらなければならないことが見えてくるのだと思う。
42	認知症カフェ等に出向き、本人からの意見を聞き出すことが必要と思うが、当市では交通機関が少なく移動に課題がある。今後、本人ミーティングの開催には、直接出向くことや、送迎の実施を行う必要があるが、家族や支援者等の協力を得なければならないと感じている。
43	施策や事業展開だけでなくサービス提供等においても、本人よりも介護者である家族の意見や思いが尊重される傾向があること。行政職員だけでなく介護にかかわる人、住民も含めた啓発の必要性を感じる。
44	自治体の規模が小さく、個人の特定がされやすい。
45	本人ミーティングを開催しても、どのくらい人が集まるのか、集まらないのではないかと不安に思う。面接で1人1人に話を聞いていくことは可能と思う

	が、認知症の人で会議の場で話ができる人材の把握が難しい。
46	冬期間になると、灯油を使用する暖房器具が圧倒的に多く「認知による誤作動からの火事」を「人に迷惑をかける事」として心配する人(家族も含む)が在宅生活ではなく、施設生活を選ぶ理由として挙げられている。
47	小規模自治体であるため、地域住民（認知症本人）の意見等をきくことはある程度行えると思うが、施策、事業を実際に行うとした場合、施策を進めていく人材の確保が難しくなってくると考える。本人も介護者も後期高齢者がほとんどで、「本人ミーティング」等で自主的に活動できる人材がいない。同様の理由で、意見は直接かかわる場で聴きとり、集約したものを反映することは可能と思われるが、本人が会議や施策等に直接参画することは難しい。
48	平成 28 年度から認知症カフェは行っているが、現状の内容は「認知症予防の普及・啓発」になっており、本人の参加はない。今後、地域の認知症本人や家族からどのような取り組みがあったら良いか聞き、取り組みを考えていく必要がある。

**(10)「本人の意思の尊重や本人の視点重視」を進めていくために、取り組んでいること（市区町村回答からの抜粋）**

1	訪問等個別での関りの際に、これから生活する上でどうしたいかは本人にも意向を聞いている。 認知症カフェの参加者に対し、実施内容等についての感想や意見をアンケート調査している。また、事業を行う際にも、本人の意向を確認しながら行うようにしている。
2	まずは認知症についての理解者を増やすため、認知症サポーター養成講座を展開。そのためのキャラバンメイトの活動を支援。認知症に携わる関係者（家族の会やキャラバンメイトも含め）の連絡会議を立ち上げ、情報共有を通して本人主体の視点で必要な資源や取組を考える場を設けている。 「認知症になっても安心して住み続けられるまちづくり」を目指して「本人が困ったこと」を視点に、キャラバンメイトの間で話し合いを継続している。
3	認知症カフェのときには、本人と家族を分けてそれぞれの意見を聞けるような環境づくりをしている。「本人の意思の尊重や本人の視点重視」は必要であると思うが、現実的には本人の思いや意思を確認することが非常に難しい。まずは、認知症の本人を支える家族、支援者の声を聞くことから取り組んでいくことが必要だと考えている。
4	計画等への本人の参加については、計画策定では参加はお願いしていないが、市民へのパブリックコメントを実施している。市として認知症の方を把握するのは、認知症が酷くなったと家族や関係機関等からの相談で把握することがほとんどであり、支援時に本人の意思を尊重しつつ家族や関係機関と協力しながら支援を行っている。
5	認知症地域支援推進員、家族の会、認知症疾患医療センター等、密に連携をとり、できるだけ本人の視点が重視できるように情報交換、連携をとるように心がけている。本人の普段からの言動を知るため、普段から接している家族や福祉職員等から意見を貰い、それを事業や会議の場に反映するように取り組んでいる。
6	H28 度に認知症の人を対象に「こころの声アンケート」を実施し、H29 度に、ケアマネジャーや介護サービス事業所等の関係機関と共に、本人の声を聴く体制

	づくりを目指し、「認知症の人と家族の支援を一緒に考える会」を発足し継続している。
7	現在の取り組みなし。シンポジウムに参加し意見交換を傍聴し「認知症本人」の定義が、診断を受けていることが条件と思われた。今後、困っている人の視点を持ち、尊厳の保持という意義で広く意見を聞き、生活支援体制整備事業と併せて、具体的に活用できるしくみやサービス開発に取り組みたい。
8	市民を対象とした認知症フォーラムにおいて、本人と支援者の両者に登壇いただき、直接話を聞く場を設け、ということが認知症の人にとってやさしい地域づくりなのかを考える機会を設けた。
9	市内全小学校の4年生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」の実施。認知症キャラバンメイト連絡会で、講座に使用する資料やツールを協働作成。認知症カフェ連絡会会員や認知症サポーターとともに「絆フェア」を開催し、ブースを出展、認知症理解を呼びかけるクイズや企画を通し、啓発に取り組んでいる。
10	本人の意思の尊重や本人の視点重視について、行政としての責務・使命を明確にするため、条例の制定を検討中。
11	自分史や最期の迎え方などが記入できるようになっている、町で作成した「もしもの時のしあわせのノート」の活用。介護、お金、延命治療等に関する本人の希望を記入できるようにした。認知機能の低下により本人の意向が引きだせないときや、家族との話し合いなどに活用している。
12	今年度、認知症に対して不安を感じたり、初期症状に戸惑いを感じたりする人にとって、状態に応じた適切な場、必要なケアの提供の推進を図るため、通所介護事業所で実施できる生活や症状にプラスになるようなプログラムの作成を事業化した。プログラムの作成にあたっては、一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループの方を専門アドバイザーとして迎え、認知症の本人が、一般の通所介護事業所に目的をもって通うことができ、その人らしく過ごせる居心地のよい場所とするという本人の視点に沿った方針を掲げ進めている。
13	医師会の協力のもと、認知症地域支援連絡会を圏域ごとに実施し、支援者の顔の見える関係づくりを行い、情報共有を行っている。連絡会のテーマに本人が語る認知症と題しグループワークを企画するなど、本人の視点を重視する取り組みを行っている。
14	認知症施策推進プロジェクトチーム会議に本人を呼んで、話しを聞いている。接する機会をふやして、地域での施策推進に活用している。認知症講演会に講師として登壇いただき、市民や関係者にお話を聞いていただいた。また市職員向け認知症サポーター研修にて、若年性認知症である御本人に講演していただいている。体験談等を通して、行政職員への理解や当事者への配慮を促している。
15	本人の普段からの言動を知るため、普段から接している家族や福祉職員等から意見を聴取して、認知症勉強会等の認知症施策や事業に反映できるようにしている。
16	毎年9月に実施している認知症普及啓発のための街頭活動に少数ではあるが本人さんに参加してもらっている。支援者だけが活動するのではなく、当事者自らも参加してこそ街頭活動の意味があると考えている。認知症の人が、意見を自ら発信できるよう講師として活躍できる場を創出する取組みを進めている。

## 2. 本人の意見に基づく施策・事業の点検と改善プロジェクトの試行結果

### 1) 試行概要

#### 【試行の目的】

1. 各地域の特性や実情に応じて、本人が参画しながら、自分の地域の施策・取組等を点検・改善していくためのプロセスや方法等を企画する。
2. 実際に各地域で試行してみることを通じて、本人が参画した取組の成果と課題、多様な取組方法について検討する。
3. 自治体において有効かつ実行可能な方法論を明らかにする。

#### (1) 取組地域

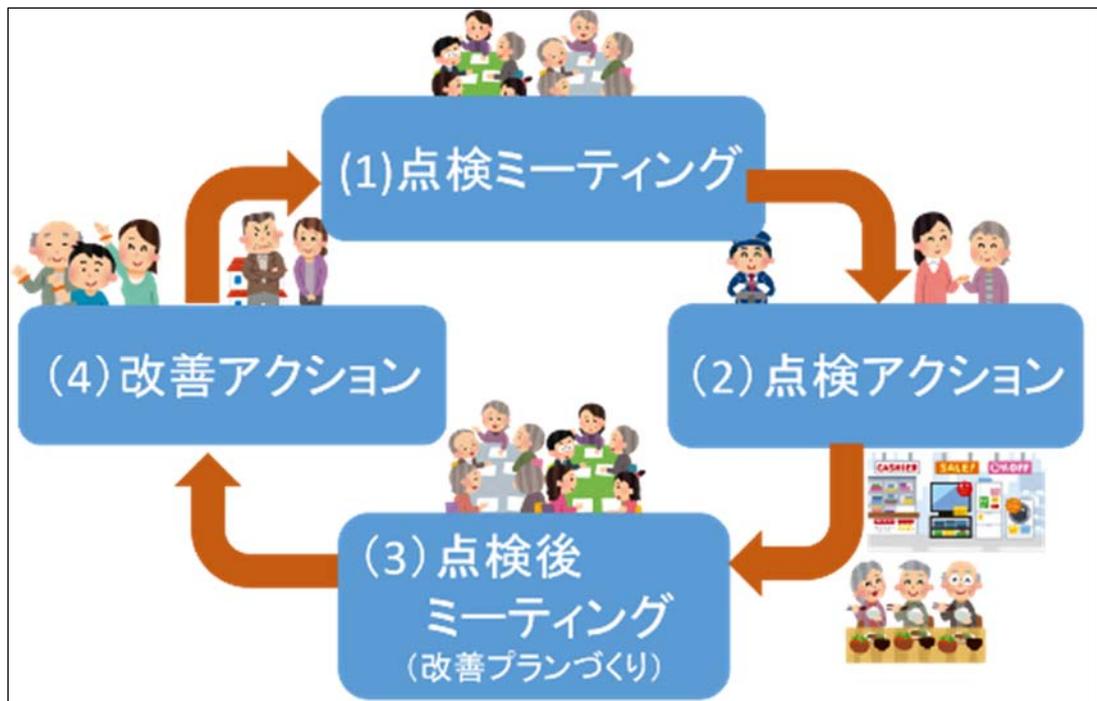
人口規模、実施主体（チーム）、全国的な地域分布等の多様性を考慮するとともに、本研究事業の目的、及び試行後も試行結果を地域に活かしながら取組みを主体的に継続していくことに賛同が得られた以下の11地域を取組地域とした。

	地域	都道府県	人口 (研究班調)	高齢化率 (研究班調)	実施主体・主な関係者
1	北見市 (高齢者・こども110番の家)	北海道	117,993人	32.4%	介護事業者等による地域食堂・見守り組織+地域包括+行政
2	大崎市	宮城県	131,692人	28.7%	行政+認知症地域支援推進員+地域のケアマネジャー
3	藤沢市	神奈川県	430,662人	24.2%	行政(基幹包括)+認知症地域支援推進員+地域福祉・障害者支援事業所
4	上田市 (豊殿地区)	長野県	158,309人	29.1%	地区組織(豊殿地区安心の会)+介護事業所
5	有田市	和歌山県	28,740人	32.3%	行政+地域包括+認知症地域支援推進員
6	有田川町		26,919人	31.19%	行政+地域包括+認知症地域支援推進員
7	御坊市		24,005人	30.12%	行政+地域包括+認知症地域支援推進員+介護事業所+市総務課他庁内連携
8	鳥取市	鳥取県	188,562人	28.3%	行政+認知症地域支援推進員+認知症疾患医療センター
9	三豊市	香川県	66,642人	34.52%	認知症疾患医療センター+包括
10	諫早市	長崎県	136,746人	29.00%	行政+地域包括+認知症地域支援推進員+県内の当事者
11	大和村	鹿児島県	1,524人	39.8%	行政+地域住民+郡医師会

\*9月と12月に、取組地域の合同ワークショップを開催(東京)→第2章2\_3)を参照。

## (2) 展開ステップ

実際の展開プロセスは、地域ごとに特性や実情に応じて、本人が参画しながら「独自に企画」することとし、それ自体を試行結果として把握することとしたが、本事業の目的である本人意見に基づく点検と改善を各地域が遂行していくために、基本的な展開ステップ（案）として、試行前段階で以下を提示した。



(1) 点検ミーティング	<p><b>認知症の本人が参画するミーティングを開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①今ある施策、事業、取組みについての感想や意見を一緒に話しあう。</li> <li>②本人たちが日頃望んでいることについて、一緒に話しあう。 (こんなことがあれば暮らしやすい等)</li> <li>③本人が参加して実際に「点検」を行いたい事業・取組み等をリストアップする。</li> </ul>
	<p><b>今ある事業・取組の機会や場を活用</b></p> <p>例：認知症カフェ、地域密着型サービス等で、利用者と話し合ってみる。 訪問の際の「話題」にしてみる。 本人ミーティングで話し合いのテーマにしてみる。</p>
(2) 点検アクション	<p><b>点検ミーティングの結果をまとめ（整理）、焦点を絞って実際にどうかを、本人とともに確認してみる</b>（本人が少人数、一人でも参加を）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①具体的に点検してみる 例：情報を確認（場合によっては現地を見る等）</li> <li>②（ちょっと）改善して欲しい点、改善が必要なことは何かを具体的にする。</li> </ul>

	<p><b>今ある事業・取組の機会と場を活かし、関係者とともに</b></p> <p>例：認知症カフェ等、を活用 医療機関・介護サービス事業所等の職員と話しあう機会を設ける 町内会・民生委員等と情報を共有する機会を設ける</p>
<p><b>(3) 点検後ミーティング (プラン作り)</b></p>	<p><b>「点検アクション」を通じて本人の声から把握された改善して欲しい点、改善が必要なことをもとに今後地域で（ちょっと）取り組んでみたいこと・その方法について、地域で話し合う</b></p> <p>①ちょっとした工夫で改善できないか 例：手順の見直し、環境・関わりの工夫、事業の” チューンナップ” 他</p> <p>②改善と一緒に取組みたい人は誰か 例：本人が利用している地域資源等、地域にある多様な資源</p> <p>★改善を一緒にやる働きかけを（協働をアプローチ）</p>
<p><b>(4) 改善アクション</b></p>	<p><b>それぞれの改善アクションプランをもとに、取り組みを進めていく</b></p> <p>各地域の認知症施策・事業のPDCA（計画 - 実施 - 評価 - 改善）の一環として、継続的な取組みにつなげていく。</p> <p>○地域のさまざまな立場へのアプローチ ○工夫や改善をした事業・取組み等について、繰り返し、本人の声を聴く ○地域にある本人がふだん利用しているお店や交通機関等の声を聴く</p>

## 2) 試行過程の経過と結果

### (1) 各試行地域における試行経過

#### ①北見市（高齢者・こども 110 番の家）

<p>認知症の人の意見に基づく：</p> <p>どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る一聴くことができたか</p>	
<p>どんな本人たちと</p>	<p>1) デイサービスへ通う、女性 2 名</p> <p>2) グループホームに入居されてまもない、男性 1 名</p> 
<p>どんな場で</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者・こども 110 番の家の場で</li> <li>・ グループホームの場で</li> <li>・ 運営推進会議の場で（北見・留辺薬 2 ヶ所）</li> </ul>
<p>語られたこと（知ることができたこと）</p>	<p>○（近年相次いだ災害の話になり）春の雪溶けと大雨で水があふれ郵便局の中にも水が入って大変だったこと。</p> <p>○二十代の頃の水害の記憶が鮮明に蘇り、「大きな丸太が川に何本も流され、目の前で子供が流されていった。○○という場所の川があふれだした。」</p>
<p>意見を聴く上で工夫した点</p>	<p>本人の心の安定があるか、心身状態の確認。本人が構えずに伝えたいことを自然に話せるように、運営推進会議の中で『先日聞かせていただいた○さんの水害の話を最後に今一度教えていただきたいと思っています』とお話しすると、運営推進会議の参加者に向けて、切々と言葉を届けて下さった。</p>
<p>意見を基にした認知症施策の改善に向けて：</p> <p>誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</p>	
<p>話しあいのメンバー</p>	<p>地域懇談会の実施</p> <p>高齢者・こども 110 番の家理事・会員等 6 名と運営推進会議参加者、連合町内会長（北見）留辺薬災害福祉委員（留辺薬）、民生委員、認知症の家族、地域の福祉関係者、家族、グループホームの認知症の人等。</p>

	
<p>話しあった点・考えた点 →改善アクション</p>	<p>○本人に聴く前はよく知らなかった。地元災害の確認が必要 →本人の声を真剣に受け止め、地元の関係者の話を聞いたり、市の記録物を確認。繰り返し被災している地位のエリアがあり、現在も同地域で水害の危険があることが判明。</p> <p>○認知症の人の心の奥底に災害体験がいつまでも残っている事を重要視。災害への備え不足による悲劇を繰り返してはならない →防災のために、地域の人たちや医療・介護の専門職の意識喚起を関して、備えを生み出すアクションを</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に知らせる方法として、中学生の認知症サポーター養成の中で、認知症の人の記憶に留まる災害からの恐怖について、本人が語る機会をつくった。反響大きかった。</li> <li>・直接市民と話し合える機会を作り本人が参加し、生の声を聴いていただく場をつくる。そのことを通じて、災害への備えと同時に認知症の人に対する偏見をなくすきっかけになる。</li> </ul> <p>○災害への現実的な備えが必要 →避難場所への避難の可能性の確認、実質的な改善が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や介護事業所で暮らす認知症の人が、避難所への実際避難が可能か、実地でも確認。かなり困難なことが判明。</li> <li>・実際に移動が可能な地域の緊急避難先を探しておくことが必要。実際に地元の避難先を探す。</li> <li>・事前に認知症の人、乳幼児、障害者、顔を知る地域の人等の避難所先を作成し配布する。</li> <li>・また、避難する人も避難者を受け入れする人等も互いに助け合う、北見市独自の避難所モラル設定を作成してみる検討。</li> <li>・認知症の人が避難する場所へ、認知症サポーター養成講座修了者が出向いて支え合うことの検討も。</li> <li>・個人情報保護の問題が大きい。「私は認知症。一番に助けて」と当事者から言っていく力をつけていく。</li> </ul> <p>○防災マスター・防災士という貴重な人が地域にいることはわかる。名簿作成。地域の人と交流し顔の見える関係作り(3月実施)。</p> <p>○市の防災担当への今回の報告と今後の対策について話し合うこ</p>



## ②大崎市

認知症の人の意見に基づく： どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか	
どんな本人たちと どんな場で	<p>「こころの声」アンケート（認知症の人と家族の実態調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人アンケート：認知症高齢者 110 件(直接、声を聴く)</li> <li>・家族アンケート：家族 91 件</li> <li>・介護支援専門員アンケート：ケアマネ 106 件</li> </ul> <p>(アンケート実施の目的)</p> <p>いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進するために、認知症の人と家族の声を聴き、地域で暮らしていく上での課題について明らかにする。</p>
語られたこと（知ることができたこと）	<p>○本人の聞き取りの結果、 やはり感情は生きているということが分かった。本人ができることを見守り、自信をもって暮らしていける関りが大切である。</p> <p>○家族の聞き取りの結果、 認知症をより初期の段階で気づいた方が増えた。相談したいことで「かかわり方」と回答した方が増え、本人と向き合っていくとする方が増えたことが分かった。今後充実してほしいサービスに「地域の理解」と答える方が増えた。</p> <p>○介護支援専門員からの聞き取りの結果、 医療との連携への関心が高まっていることがわかった。元気なうちからかかりつけ医と連携して情報共有していくことで、重度になっても切れ目ない支援をする上で重要である。</p>
意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点	
話しあった点・考えた点	<p>①認知症の本人・家族が地域で住み慣れた地域で自分らしく生活していけるような地域づくりをしていく必要があるということを実感した。本人・家族が住みやすい、居心地の良い地域とはどういった地域なのか、『「居心地のよい地域の居場所」の秘訣って何だろう・・・?』このテーマで地域住民の方の気持ちを聞いてみたい。(認知症カフェ 2 か所)、百歳体操 1 か所)、認知症サポーター養成講座 1 か所で実施)</p> <p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所で助け合える地域</li> <li>・知り合いがいる地域を求めている</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行く場所がある</li> <li>・趣味や楽しみがあるといい。</li> <li>・気軽に立ち寄れる場所が欲しい</li> <li>・友人に囲まれて暮らしたい</li> <li>・落ち着ける、なじみの場所（家など）</li> <li>・駅は何でもある！</li> <li>・住み慣れた環境で暮らしたい。</li> <li>・大崎市の活動を知らなかった</li> <li>・ケアパスを知らなかった（どんなところにあるといい？⇒生協などのスーパー、公民館などサークルで皆が集まる場所）</li> <li>・認知症について知りたい</li> </ul> <p><b>&lt;実施結果から考えたこと&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症について、もっと地域に知ってもらおう。</li> <li>・高齢者の居場所づくりを進める（百歳体操、お茶っこのみ、認知症カフェなど）</li> <li>・地域包括ケアと連携して、顔の見える関係づくり</li> </ul> <p>②医師会の会議の場で市の活動やこころの声アンケート結果を伝えた。それに基づき「今まで認知症の患者がいたときどのように説明し、どこにつないでいたか」「もし地域につなぐ場合に、どのようなものや情報などがあつたらいいか。」について一人一人意見をきいた。（大崎市内の14名の医師が出席）</p> <p><b>&lt;実施結果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方がいたときは、診断はできないので専門機関に紹介している。</li> <li>・地域でのサービスの紹介は医師からはできないためケアマネに頼っている。しかし、ケアマネも様々な方がいると感じている。対応に苦慮した時は包括に相談していいとわかった。</li> <li>・実情、本人・家族が困っていないケースが多く、そういった場合「認知症ではないか」といづらいと思っている。困っている方が来てもそのあともフォローができていない。</li> <li>・今日の説明を聞いて本人・家族が不安な方に対しては、包括につなげばよいということがわかった。</li> <li>・住民の方にももっと周知して知ってほしい</li> <li>・大崎市の認知症推進事業について知らなかった。</li> <li>・診察をしていて百歳体操を勧めたい時があるがどこでやっているかわからない。一覧があるとよい。</li> </ul>
--	--

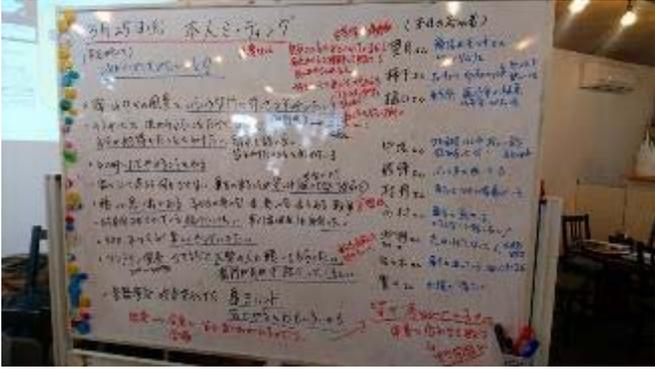
	<p>&lt;実施結果から考えたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療との情報共有ができていなかった。</li> <li>・大崎市の施策の周知が必要。</li> <li>・介護サービスが必要になってからだけでなく、その前につながるようなことができるように包括支援センター、認知症地域推進員の役割の周知、活動のPRが必要。</li> <li>・相談窓口や活動の一覧など共通媒体等が必要。</li> <li>・診察時に包括支援センターや担当ケアマネジャーにつながる仕組みづくりが必要。</li> </ul>
<p>取組みたいこと</p>	<p>○大崎市の認知症施策の周知  (チラシの配布、認知症カフェの開催をホームページで周知、様々な場面(認知症サポーター養成講座、相談の場面等)を生かしてのPRなど)</p> <p>○認知症サポーター養成講座のPR</p> <p>○ケアパスの改定(相談窓口、利用できる事業など内容を精査)スーパーや公民館に置く。医療機関や薬局などにも配布を検討する。</p> <p>○本人本位のケア・住みよい居場所づくりに向けて地域人材の育成の継続</p> <div data-bbox="624 1151 1337 1413" data-label="Image"> </div>
<p>市内認知症対応型デイサービス事業所でのインタビュー</p>	<p>1. ミーティングに参加した3人の当事者について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人それぞれ性格が違う。Aさんは度胸があり、Bさんは恥ずかしがりや、Cさんは、状況はよく理解できている人。しかし、さっきは緊張していて発言が少なかった。</li> <li>・やはり難聴は認知症の状態をより悪く見せていると思う。職員には聞こえる方の耳から伝えるよう指導するが、なかなかむづかしい。</li> <li>・(会議室でインタビューされていた時と、いつもいるダイルームでの表情が違いましたね、という感想に対し) やはりそうですね。逆にいつもの場所の居心地の良さがよくわかったんじゃないかな。</li> </ul>

	<p><b>2. 家族について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のお迎えの時、家族の表情を見て、昨日何があったのかできるだけよく聞くようにしている。情報収集だけでなく、家族のガス抜きを意識している。</li> <li>・デイサービス利用開始前の家族の説明の時は、デイに預けている時間は家族がしっかり休むことが大切だということを伝えている。</li> <li>・家族会はないが、個別に家族の話をよく聞くようにしている。</li> </ul> <p><b>3. デイサービス利用者へのかかわり方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人は相手の心を見透かす力がある。職員の状態が影響しないよう、場の居心地をよくするように注力している。</li> <li>・職員は利用者を見ているが、同時に利用者から見られているんだよ、といつも職員に言っている。</li> <li>・利用者に関わる時、認知症の種類を気にするよりは、中核症状以外を出さないようにすることに気を付けている。</li> <li>・話しかけると、今この人はどの時代にいるのか、見極めながら名前の呼び方を変えたりなどしている。</li> </ul>
<p>当事者（高齢世帯2組）自宅でのインタビュー</p>	<p>(妻)住んでいる地域は高齢世帯が 200 世帯くらいある。老人会は 63 歳から。敬老会は 77 歳からお呼ばれするようになる。大崎市百歳体操は地域の 30 名くらいが参加している。パークゴルフも同じメンバー。体操のグループはほかの地区でもでき始めていて、仲間でお花見に行ったりしているようだ。</p> <p>夫（認知症の本人）は、市内の高齢者施設 3 か所で月に 1 回ずつ、ギターと歌の会を開催している。</p> <p>夫は、自分自身の様子がおかしいと思い、診療所を受診したが、診断がずっとつかなかった。（その後認知症の所見が出た。）</p> <p>夫は、福島まで行ってしまっ。そのあと免許を返上した。 「バスが 1 日 3 便しか走ってなくてとても不便なんですよ…免許返納では、そこが問題なんです」</p>

### ③藤沢市

認知症の人の意見に基づく：	
どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る—聴くことができたか	
<p>どんな本人たちと どんな場で</p>	<p>○本人ミーティングの実施（第1回：11月19日）</p> <p>9月16日：試行プロジェクトワークショップに参加 ⇒各地の人たちと出会う⇒藤沢でも動こう・・・！</p> <p>9月18日：本人ミーティング開催日程を決定 ⇒とにかく始めよう（チラシの作成・周知できることから）</p> <p>10月29日：市推進室内での打ち合わせ ⇒当日の意見交換のテーマを決める</p> <p>11月8日：参加者、関係者との打ち合わせ（当日の流れの確認）</p>
<p>工夫した点</p>	<p><b>企画段階1：参加の呼びかけ</b></p> <p>①タイトルの設定：「認知症本人ミーティング」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「このタイトルで人が来るかな」</li> <li>・「何をご本人に求めているのか、具体的にテーマに示せるといい。」</li> <li>・「本人へのメリットは？」</li> </ul> <p>最初の段階ではねらいや視点のずれがある。話し合いが肝心！</p> <p>②「直接関係者に届ける」</p> <p>チラシと 本人ガイドを添えて</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p><b>企画段階2：当日の交流会テーマ設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きたいのは、次につながるよう困ったこと、希望することを聴きたい。</li> <li>・マイナスな内容より前向きなテーマがよいか？</li> </ul> <p>&lt;用意したテーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の生活について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っていること</li> <li>・うれしかったこと・楽しいとき</li> </ul>
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>第1回 本人ミーティング (11月)</p>	<p>&lt;当日の参加者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の本人：5名（市内4名、市外1名）</li> <li>・パートナー：3名、ワザバー：4名、行政職員：4名</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※家族会を別室で開催（家族4名、行政職員2名）</p> <p>&lt;開催場所・実施方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所内会議室</li> <li>・本人のみでテーブルを囲む</li> <li>・進行役：本人が担当</li> <li>・進行補助、書記：市職員</li> </ul> <p>事前に参加者の一人が、マンドリンが得意ということがわかる。 → 会が始まる前、マンドリンを演奏して下さる</p> <p>&lt;本人からの意見・声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の勧めで地域のサロンに通い、ヨガ指導を再開。サロンに出会っていなかったら、どうなっていたか・・・。</li> <li>・学生時代の楽器演奏を再開し、様々な場所から声がかかり演奏している。自分に合うサロンに出会えて充実（診断後の転換点）</li> <li>・タブレット使用し、記憶障がいも補っている。</li> <li>・落ち込んだ時、気力を無くした時は反対の言葉「人生は楽しい」「未来はワクワクすることがある」などを書くようにしている。</li> <li>・認知症の人は、配慮があれば、普通の生活を送れる。</li> <li>・認知症のイメージ「何もわからない人」を払拭したい。</li> </ul>
<p>取組みたいこと： 本人の声から事業の 点検につながる点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○診断後、本人が安心でき、楽しみ・活躍できる暮らしと適切な支援に繋がるネットワークづくり</li> <li>○おれんじサポーターの活動へ展開 (ご本人のパートナーとしての活動の可能性)</li> </ul>

	<p>○認知症の人が活躍する機会や場の情報提供</p> <p>(今後に向けての課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの設定、役割分担、家族会と同時開催</li> <li>・参加者がなかなか集まらない</li> <li>・開催場所 → 今後は「地域に出向っていく」</li> </ul> <p>(今後の展開プラン)</p> <p>○第2回 本人ミーティングを企画</p> <p>○「ALL ふじさわ合同ミーティング」の開催 (3月)</p> <p>○個別インタビューの実施</p> <p>○「藤沢おれんじプラン」への反映</p>
<p>第2回 本人ミーティング (2月)</p>	<p>地域に出る。行政の方から本人がいる場へ。 2回目の場所は、認知症の方が働く「かめキッチン」で開催</p>  
<p>ALL ふじさわ 合同ミーティング</p>	<p>認知症ご本人の声を、地元の本人や家族、支援者・地域に伝え、それぞれの立場で、できることについて考える。</p> <p>○趣旨</p> <p>「本人ミーティング」の声をもとに、それぞれの立場でできることについて考える。そして、日頃の取組の紹介や交流を通し、今後に向けての新たな取組など、広く自由に考える機会とする。</p> <p>○開催日</p>

	<p>2019年3月16日（土）明治市民センター・ホール</p> <p>○参加者 認知症当事者、家族の方々、市民、地域団体、医療・福祉関係者、民間企業、行政職員等</p> <p>○内容 （１）認知症ご本人の声の紹介 「本人ミーティング」、個別インタビューの報告、ご本人の生活の紹介 （２）地域での取組の紹介 包括連携協定締結企業の取組（明治地区・見守りチャレンジ）、介護事業所の取組（あおいけあ）、地域住民の取組（鶴沼地区） （３）意見交換</p>
<p>今後の取組み</p>	<p>○本人ミーティング実施を通じてわかったこと 行政から本人に直接参加を呼び掛けるのは難しい。 なかなかご本人と出会えない・・・ ⇒ しかし、実際には市内には大勢いる！ 本人とふだんからつながっている現場の人と行政がつながることが大切。</p> <p>企画当初、ミーティングを開催すること自体が目的となってしまうようなところも・・・</p> <p>ご本人の声を、直接聴くことができて良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策担当者として、本人の生の言葉や仲間とともに生き生きと過ごす様子、それぞれの好きなこと等に直に触れることができた。</li> <li>・それらを、他の職員や家族と共有できた。</li> <li>・施策を進める原動力、新たな出発点になる。このこと自体が、施策改善の大事な一歩。</li> <li>・関係者間で、目的・目標の共有が大切。</li> <li>・一緒に考え、参画する仲間を見つけよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域に出向くと、仲間がいる。</li> </ul> </li> <li>・そしてまずは一回、開催してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* そこでの本人の声を大事に活かして(小さな)アクションをひとつずつ。</li> </ul> </li> </ul>

④上田市豊殿地区（安心の会）

<p>認知症の人の意見に基づく：          どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか</p>	
<p>話しあったこと</p>	<p>○どんな人たちとともに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者（安心の会会長）</li> <li>・ 上田市高齢者介護課保健師</li> <li>・ 神科地域包括支援センター長、職員</li> <li>・ 「hinata bocca とよさと」代表</li> <li>・ 小規模多機能「豊殿の家」管理者</li> </ul> <p>○場</p> <p>ローマンうえだ（特養）ボランティア室</p> <p>○話しあったこと</p> <p>認知症の初期段階で、地域に出られなくなったり、デイサービスに通えないなど閉じこもるケースが多い。元気なうちにサロンに足を運んでもらい、馴染みの場所になることが大事である。予備軍の人達に広く活用してもらうことを目標にしてはどうか。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p>当事者からの発信</p>	<p><b>1. 元気になる相談日を設ける</b></p> <p>「私も悩みや心配もあるが、役に立つことも出来ると思う。私が話を聞いてあげたり、相談にのってあげたりすることで元気づける場になればいいと思う。」</p> <p>「場所は、サロンだと話しにくいこともあるし、人に聞かれたくない人もいると思うので、2階の部屋がいいと思う。私自身、サロンでみんなが働いているのに、椅子に座ってばかりいるのは気兼ねですから。」</p> <p><b>2. 当事者同士の会を</b></p> <p>「ひとり、ふたりと相談に来た人が月1回定期的に集まって、認知症の人の仲間の会を作りたい。認知症の人同士だと心強い。一人じゃない。」</p>

	<p><b>3. 地域でおこなう認知症の勉強会で当事者のことを知ってもらいたい</b></p> <p>「豊殿の自治会単位で、認知症サポーター養成講座を昔やったが、最近はやっていない。当事者のこともよく知ってもらいたい。」</p> 
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>話しあい（11月）</p>	<p>上田市高齢者介護課、神科地域包括支援センター、サロン（hinata bocco とよさと）代表委員、小規模多機能豊殿の家管理者、ローマンうえだ（特養）</p> <p><b>&lt;行政・包括&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予備軍も含めて、地域全体の人を対象としてはどうか。まずは地域の人に知ってもらおう。</li> </ul> <p><b>&lt;特養&gt;</b></p> <p>施設のスタッフが認知症の人や家族のサロン（相談会）を、毎月2回（hinata bocco とよさとで）開催する。</p> <p><b>&lt;本人の意見・声&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が一緒に参加。緊張がほぐれて、安心して参加きると思う。</li> <li>・体験や工夫などお互いに話して元気になればいい。</li> <li>・個別に悩みもあると思う。風景を見るだけで疲れることもある。いきなり喫茶でなく、最初は静かな部屋で聴いてあげるのが良いと思う。</li> <li>・一人ふたりと仲間が増えたら、喫茶で仲間同士の交流会を持ちたい。</li> <li>・サポーター養成講座を当事者目線に変えてください。</li> </ul>
<p>本人の声の活用</p>	<p>○当事者の役割として、話相手という仕事もあるんだと仲間の皆さんにわかってもらいたい。</p>



○なじみの人がサロンにいと認知症の人も地域とつながって



**<地域住民の声>**

・私たちの仲間に、いつも〇〇さんがいるってことが大事なんですね。〇〇さんがどんなことに困っているかを教えてもらって一緒に歩んでいきたい。



**実現した取組み**

**認知症の本人による「介護&物忘れ相談会」の開催**

- 公民館、地域包括、高齢者介護課が広報などで周知
- 当事者、専門職、行政、地域住民、ボランティアが参加、交流



**<本人の言葉(相談きた家族の困りごとの話を受けて)>**

「私の体験からの話は、人間は一人ひとり皆違うので、当てはまらない場合もあるかもしれないけど、小さなことでも、お父さんにとっては本当に大切なことだと思います。物忘れが始まって自信がなくなっているのに、できることや大切にしていたものを奪われると切ないと思いますよ」

⑤有田市

<p>認知症の人の意見に基づく：          どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか</p>	
<p>主な事業</p>	<p>&lt;有田市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症初期集中支援チーム</li> <li>○認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業</li> <li>○認知症サポーター養成講座</li> </ul> <p>&lt;社協と包括&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「もももカフェ」（ご本人、ご家族、地域の方、集いの場）</li> </ul> <p>&lt;民間事業所&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症カフェ</li> </ul> <p>&lt;有田圏域合同有志&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認とも（認知症啓発イベント）</li> <li>○本人ミーティング</li> </ul>
<p>どんな本人と          どんな場で</p>	<p>当事者1名のご自宅にてインタビューを実施          （本人ミーティングや「もももカフェ」（認知症の方や、ご家族、地域の方も一緒に過ごすカフェ）」へ</p>
<p>認知症や認知症施策          について思うこと          （本人の声）</p>	<p>○知人や近所の方の話などを聞くと、「認知症のことを（本人や家族が）ふさぎ込んでしまって、（症状が）進んでから周りがわかることが多いように思う。」</p> <p>○「誰かに相談できて、本人や家族が認知症をオープンできるようなれば。」「気持ちも楽になれるし、（対応が）遅れる前に早くに相談できればいいと思う。」</p> <p>○「もももカフェ」（2か月に1回開催）について          「童謡コーラスをみなで歌ったのはよかった。元気になれる企画があればいい。」</p>
<p>意見を基にした認知症施策の改善に向けて：          誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</p>	
<p>話しあった点・考えた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が相談できて、認知症のことをオープンにできるような「場所」づくり。</li> <li>・今ある「もももカフェ」（ご本人、ご家族、地域の方、集いの場）での取組を、本人、地域の人たちや関係者の声をもとに、丁寧に進めていく。</li> </ul>

⑥有田川町

認知症の人の意見に基づく： どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか	
点検アクション (10～11月)	<p>認知症地域支援推進員3名で自宅へ伺い話を聞いた。本人の生活環境でゆっくり話を伺うことで、ご本人の本音部分についての話を聞くことが出来た。</p> <p>○他の相談事案の中でも、本人とゆっくり話をする事の大切さを実感できた。</p> <p>○地域密着型デイサービスの運営推進会議にて、本人の声を聴く取り組みについて紹介。デイサービス職員より、「わざわざ話を聞こうとしても本当の気持ちは中々聞くことが出来ないのではないか?」「送迎中や介助中の何気ない時に本人の本音を聞くことがある。」それなら、聞き流してしまっただけでは勿体なのでは、デイサービスの活動内容の検討に使うことが出来るのではないか?ということとでデイサービスセンター職員の発想で「希望ノート」を作成。センター内の壁に引っ掛けてあり、気軽にいつでも職員が書き込めるようにしている</p> <p><b>&lt;語られた内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れていくことの不安な気持ち ・将来への不安 ・今の平凡を保ちたい</li> <li>・家族の健康への不安 ・「何もようせん」という諦め ・「わからないという気持ち」</li> <li>・「今はないが」以前はこうだったという懐かしい気持ち（目が輝いていた）</li> <li>・出来なくなることへのショック、悲しさ ・やさしくしてもらおううれしい。</li> </ul> <p>※自分たちが良いと感じることも、本人の立場で考えると決してそうではない。その言動に至るには、本人のしっかりした思いがあることを改めて認識する。</p>
意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点	
点検後ミーティング →改善アクションへ	<p>○本人、家族の話を聞く中で自分たちの価値感が変わった。こちらがアンケートの内容を聴くことより何気ない雑談の中での方が本人の思いを語られることが多かった。</p> <p>→知らず知らずのうちに、意見を聞かなくてはならないと、こちら主導の取り組みになっていなかったか?</p>

	<p>○推進員も事業をしていると無理をしていなかったか。推進員も無理はせず、本人や家族の話の流れに身を任せてはどうか？</p> <p>→なので、ミーティングを開催して、当初考えていた様な、何かを作りだそうというスタンスではなく、「まずは本人同士や家族同士の出会いの機会を作ってみよう！」</p> <p>→推進員は「出会いの場作り」のみを行おう！</p> <p>→無理なく集まれる人で、特別な場所ではなく普段の場所で。</p>
	

### ⑦御坊市

○御坊市では、平成 30 年度、認知症に関する市条例制定を目的とした活動に焦点化。

条例をつくる過程で、行政や医療・介護の関係者だけでなく、「本人視点の重視」に基づき、様々な機会で本人の声を取り入れ、本人とともにつくる条例を目指した。

認知症の人の意見に基づく：	
どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか	
どんな本人たちと	ワーキングチーム会議では、市内在住の男性、JDWG メンバー、大阪府堺市の男性が参加。市内在住の本人にも声を聞く。
どんな場で	条例づくりワーキングチーム会議、 自宅訪問、 介護サービス事業所訪問、ごぼうホッとサロン
どんな方法で	・ワーキングチーム会議で本人からの発言。 ・自宅訪問し、本人と面会。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス事業所訪問し、本人と面会。</li> <li>それぞれ、条例案に目を通し、読んだ感想と意見を聴く。</li> </ul> <p><b>&lt;ワーキングチーム会議にて本人の発言&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の声を聴いたことは、すごいことだと思う、こういうことをこれまでは聞いてくれず、聴いてみると、こんなに一人ひとりが、思いを持って、こうして欲しいということを持っている。80代でも、90代でも持っている。</li> <li>・認知症になってもやさしい、の「やさしい」とは何なのか？そこをわかりやすくしてほしい。</li> <li>・自分が話した（発言した）ことがそのまま文字となって条例に入っているのは、本当にうれしい。</li> </ul>  <p><b>&lt;自宅や事業所等訪問にて、本人の発言&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・90歳を過ぎたからといって見捨てないで。</li> <li>・90年生きてきた私だからこそできることがあると思う。</li> <li>・私から若い人に伝えたいことがたくさんあるけど、どうやったらできるかわからない。だから、そういうことができることを条例に書いてほしい。</li> <li>・認知症になる前は怖いと思っていたけど、なってみたらそうでもなかった。そう前向きになれる言葉を入れてほしい。</li> <li>・自分たちのために、これからの人のために市がこういう条例を作ってくれるのはうれしい。</li> </ul>
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>条例ワーキングチームのメンバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内在住の本人及び家族</li> <li>○若年性認知症の本人、パートナー</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内の認知症サポート医</li> <li>○ケアマネジャー</li> <li>○認知症対応型デイ管理者</li> <li>○病院地域医療連携室相談員</li> <li>○総務課（法制担当）</li> <li>○企画課（総活躍まちづくり担当）</li> </ul>
話し合っ点 考えた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課内で条例づくりに関するプロセスを共有</li> <li>・ 本人の声を聞くことは、「本人ミーティング」を開催しなくても可能だとわかった。</li> <li>・ 包括職員が、それぞれの業務（訪問等）で本人の声が聴ける機会はたくさんあるので、そういう機会を大事にして、これまで聞くだけで終わっていた何気ないひと言であっても、なるべく記録を残すようにしたい。</li> </ul>
ワーキング会議にて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の本人の声に対して 「年齢に関係なく、本人たちが様々な思いを持っていることがわかった。本人たちの思いを反映した条例にしたい」</li> <li>○“家族”についての意見（本人より） 「本人と家族、と併記することはどうか。条例の目的、誰のため何のためなのか曖昧になる。ここをしっかり考えないと（家族視点からのことを）わーっと言われてしまう」</li> <li>○“家族”についての意見（家族より） 「この条例の目的は何なのか。本人を中心にした条例という柱があるのに、家族の声が入ると（違う方向に）広がってしまうと思う。 （家族として）家族の声・思いを入れてほしいという気持ちもあるが、ここは認知症の人1本で通したほうがいい」</li> </ul>
条例作成を通じて	<p>市の使命と決意を表明することを目的に条例づくりに取り組んだが、本人が参画することによって、これまで気づかなかった視点から意見をいただき、未来志向となる条例をつくることができた。そして、条例を制定して終わりではなく、これからも本人とともに地域をつくりながら、常にこの条例の内容が地域の実情や時代に合っているかの確認を本人の視点から確認する必要があるとの共通認識を得ることができた。</p> <p>「御坊市認知症の人とともに築く総活躍のまち条例」は、平成31年3月、市議会において可決成立。</p>

⑧鳥取市

認知症の人の意見に基づく： どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか	
どんな本人たちと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前本人ミーティングに参加したことがある人</li> <li>・認知症の人と家族の会の本人</li> <li>・若年サポートセンターの紹介</li> <li>・認知症カフェの本人参加者</li> </ul>
どんな場で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ミーティングの事前打ち合わせ、当日、振返りの日</li> <li>・グループホームの場で</li> </ul>
どんな方法で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、本人が真ん中で輪になって話す様子を、行政、疾患センタースタッフ等が見学するスタイル。</li> </ul> 
語られたこと（知ることができたこと）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう風な集まりがあって、同じような人達と居れるだけで安心。こういう人達だったら話せる。支えになって心強い。</li> <li>・近所に話す必要はない。</li> <li>・自分の病気を伝えることが、娘にとって不利益になるのではないか。</li> <li>・自分の関わりの深い人には話した。</li> <li>・家族の理解は難しかったが、県外の認知症カフェを月に15件くらいまわって活動している。重度認知症の介護体験を本人が聞くとしんどくなってしまい、来られなくなる例がある。</li> <li>・こういう場所だけだと思つとダメで、地域づくりをしていかないといけない。</li> <li>・友達がいない。</li> <li>・本人が進行役も担うことは負担が大きく、進行補助役があった方が良く試してみたが、進行補助役を本人以外が行うと、会の進行ばかりが気になり、話を深掘り出来ない。言いたい時に言いにくい。</li> </ul>

<p>意見を聴く上での課題</p>	<p>①本人が気兼ねなく語り合えて、参加してみたいと思え、本人がエンパワメントされるような場所であることが大切。</p> <p>②本人ミーティングの開催自体が広く知られていないので、もっとたくさんの本人に本人ミーティングの事を知ってほしい。</p> <p>③本人が周囲に認知症と言うことで不利益になるのではないかと心配されることがある。認知症の人が安心して周りに話ができる地域とは言えない。</p> <p>④本人ミーティングの場でしか話せないということも課題。地域のサロンや認知症カフェが、本人の思いが話せる場になっていない。</p> <p>⑤市内の認知症カフェが、本人が集まりたいな、とか参加したいなと思える場所になるといい。認知症カフェのスタッフがそのことに気付いて、うまく運営につなげていけるといい。</p>
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>話しあった点・考えた点</p>	<p>①本人、県若年性認知症サポートセンター、認知症疾患医療センター認知症地域支援推進員、県・市の認知症施策担当で話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ミーティングが身近な本人と気軽に出会える場としたい。（診断されて間もない時は悩みや不安が多いので、良い情報や元気に生活できている本人と出会う事で希望を持つことにつながる。）</li> <li>・本人同士のつながりを広げていきたい。</li> <li>・本人ミーティングを広げていくために出向いていくことも必要。</li> <li>・本人ミーティング以外の場で、認知症の本人と出会い、話したい。</li> </ul> <p>②認知症地域支援推進員と市長寿社会課で話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェ公開講座、連絡会で本人の思いを講師として伝えてもらいたい。（11月8日に開催）</li> <li>・良い情報を早い段階で伝える為にも、認知症の本人による認知症の人のための相談窓口をつくる。本人や認知症疾患医療センターとの調整をする。（H31年度開催予定）</li> <li>・本人ミーティングで出た意見を元に、病院の患者会や認知症カフェ、病院の待合室等で本人ミーティングができないか、認知症地域支援推進員が病院のMSWや認知症疾患医療センターに相談。</li> </ul>

<p>改善点</p>	<p>①本人ミーティングの広報（チラシの作成や市報への掲載など）</p> <p>②本人が語った言葉を聞いて政策として提案した内容を再度本人達と話し合いながら進めていくことが必要。</p> <p>③既存の言葉が当てはまらないときは、無理に当てはめようとせず、良い言葉を考えていくことが必要。</p> <p>●行政の立場だと、どうしても何かをしたという実績につなげようと施策に取り入れようとしてしまう。どうしても言葉の端々に支援すると言う視点が入ってしまっていたことに気付いた。何度も何度も、本人と話し合いを続け、方向性が間違っていないか、思いがそれてしまっていないかを、確認する必要があると改めて感じた。</p> <p>●既存の言葉に無理に当てはめようとする、いつまでも今あるものに当てはめて、出来たような気になってしまい、思いと違うものになってしまう事もあると、話し合いの中で感じた。</p>
<p>本人ミーティング開催者の声（ヒアリングから）</p>	<p><b>○パートナー自身の理解も必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が話し合うことがどういうことか、何のためにするのか、パートナーとしての理解がまだ足りない。「そうじゃないでしょ」「ちゃんと言ってね」という。</li> <li>・「何のためにやるのか」がなかなか理解されず、楽しく集まってしゃべる場所、ご飯がおいしい、という認識で止まっている。</li> <li>・研修を受けてできるものではなく、本人ミーティングを通して、本人もパートナーも成長していく。</li> </ul> <p><b>○本人ミーティングでのエピソード</b></p> <p><b>&lt;互いの話をしっかり聞く、待つ&gt;</b></p> <p>その日はたまたま認知症に関する資料を配布していた。最初は自己紹介から始めるが、自己紹介の前に、Aさんが「人権が大事」と話し始められた。参加者はそれをじっと聞き、最後にそれぞれが自己紹介してくれた。</p> <p><b>&lt;初めての参加はドキドキ&gt;</b></p> <p>誰でも初めて参加する時は緊張している。慣れてくるまでに時間がある。</p> <p><b>&lt;大丈夫な範囲は自分でわかっている&gt;</b></p> <p>Iさん（本人）は「（自分は）かごの鳥」だという。家の近所で、自分では「この範囲なら大丈夫」とわかっているが、「いなくなった」と町内放送で言われたら困るので出られない、と言っていた。</p>

⑨西香川病院（認知症疾患医療センター（香川県三豊市））

<p>認知症の人の意見に基づく：          どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか</p>	
<p>どんな本人たちと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内のデイケアに通われている当事者・当事者のつどいの参加者</li> <li>・地域の当事者(当事者ミーティング)</li> <li>・オレンジカフェの参加者</li> </ul> <p>※それぞれ、普段かかわっている専門職や関係者に今回の目的を伝え、話やすい雰囲気(場づくりとして席の配置や関係づくり、お茶を飲みながらなど)を作ってもらい、少しずつ、話を広げていく。</p> 
<p>語られたこと（知ることができたこと）</p>	<p>○普段の生活での困りごと、運転免許を返納し、自分で運転して出かけることができない、家族に頼まないといけないため、負担をかけていると思っており、気兼ねしている。今まで通り、自由に、好きなところへ出かけたりして楽しみたい。</p> <p>○認知症のことを、地域の人に、正しく理解してもらいたい。（偏見をなくし、今までと同じように接してもらいたい）集う場や機会を身近に作ってほしい。（回数を増やしてほしい）認知症になって、絶望している当事者をなんとかしてあげたい。家族が支えてくれているが、家族が病気やいなくなったらどうなっていくのか不安である。地域のオレンジカフェに行ったが、居づらくて行きたくないと思った。デイサービスでの職員の対応が自分のことを分かってもらえていないと感じ、つらかった。</p>
<p>意見を聴く上での工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心して語れること、仲間同士の場であると意見が出やすいが、家族についてのネガティブなことは個人的のほうがよい傾向あり。・友達がいない。</li> <li>●本人が進行役も担うことは負担が大きく、進行補助役があった方が良いかと試してみたが、進行補助役を本人以外が行うと、会</li> </ul>

	<p>の進行ばかりが気になり、話を深掘り出来ない。言いたい時に言いにくい。</p>
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて：</b>  <b>誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>話しあった点・考えた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内や家庭内の困りごとや希望については、担当者とともに、意見を共有して実践していく。今後、三豊市(観音寺市)へ意見をまとめて、行政とも具体的に話し合いを行いたい。</li> <li>・専門職をはじめ、地域住民の中にも、高齢者や認知症の人の支援を行いたいと考えている人(認知症サポーター養成講座受講者、ボランティア養成講座受講者、町づくり推進隊の方々など)と意見交換をする。また、認知症についてかかわり方が実際よくわからないので知りたいという方は、当院にボランティアに来ていただき、育成し、地域で活躍していただくことも検討。</li> </ul> <p>●アクションにつなげる際に、わたしたちができないとか、無理だろうと決めつけてしまうと、進まない危険性がある。本人を中心としたチームが必要。</p>
<p>改善点</p>	<p>本人や家族などの関係者とのネットワークづくりが必要である。話し合いの場が必要である。行政の話し合いの場に、当事者が参加できることが望ましい。当事者と地域住民や専門職が集まって、認知症や地域づくりについて話し合う機会を大事にし、アクションしていく必要がある。(現在は話し合う会もないようである)</p> <p>●実際にアクションの為には、関係する組織と良い関係のネットワークが必要であると考え。そこに、当事者とサポーターの参加が必要ではないか。(繋ぎ、交渉が必要)</p>
<p>認知症疾患医療センター院長の意見 (ヒアリングから)</p>	<p><b>○認知症のイメージを転換することが大事</b></p> <p>とにかく認知症のイメージが悪い。特別な人になると思っている。本人も家族も認知症のイメージが偏っているのを転換することが大事。それを医師から言われると安心する。</p> <p>認知症は幅広い概念である。年をとると順に認知症になっていく、ということを理解する必要がある。関わる側も考え方やとらえ方を変えていかないと、将来自分もそういう目で見られる。</p> <p><b>○早期診断は心理的支援が重要</b></p> <p>本人には診断直後から混乱や絶望があるため、心理的支援が重要。少しでも自分の状態を受け入れ、告知できる状況にして、認</p>

	<p>知症や能力低下を受け入れやすい状況にしていくことが大事。家族も認知症に対して本人が悪いイメージをもちやすいように動いてしまう。</p> <p><b>○認知症疾患医療センターの医師は本人の代弁を</b></p> <p>認知症の専門医の役立つことは限られているが、それでも可能性を感じてほしい。そのためには、本人がどう感じているのかを聞いてほしい。</p> <p>認知症疾患医療センターの医師は本人の代弁ができたり、家族と話せる。検査ができるだけでなく、心理心情を理解できる臨床心理士が重要。</p> <p>外来でやっていること（本人面接・家族面接）、本人の思っていることを代弁して家族に伝えている。もの忘れの多い、少ないより、楽しみが多い方が良い。もの忘れ、勘違い、失敗してほしくないと思ってしまうことが、能力の低下になり、意欲がなくなり、前を向けなくなる。家族は「しっかりしてほしい！」と思うが、年をとるとこんな状況、気にしすぎないように伝えている。</p> <p>この年になれば、楽しみややりがいが多い方がいい。それが悪化の予防にも役立っている。</p> <p><b>○楽しみ・やりがいを発掘していくことが大事</b></p> <p>楽しみややりがいがある人は進まない、人生の質が違ってくる。こだわりすぎると逆効果。</p> <p>人は自分自身を批判するとつらい。喜ぶ能力を探して、使えると、本人も家族もHappy。本人のいいところ、楽しめると、喜ぶことをいかに発掘していくかが大事。楽しむ能力を使い切った人はいない。</p> <p><b>○予防より「なった時にどう考えるか」が大事</b></p> <p>診療を通して、プライドもあり、認知症を認めにくい人も結構受け入れられることがわかってきた。“世話になるよ！”という、人生100年のモデルができると思う。</p> <p>予防に努力したとしても、大事なのは「なった時にどう考えるか」、それを考えていくことが大事。</p> <p><b>○かかりつけ医の役割</b></p> <p>専門医でなくても大丈夫。暮らしを知っており、心理的な支えになるべき。</p>
--	---

⑩ 諫早市

認知症の人の意見に基づく：

どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る一聴くことができたか

方法と本人の声  
その1

・市の認知症対策推進会議（地域住民団体、介護・医療団体から推薦を受けた人14名で構成）で協議。

第7期諫早市介護保険事業計画にある「認知症の人やその家族の視点を重視することを認知症施策のすべてに共通する理念として、取組を進めます」を受けたフリートークから今回の点検事業の方向性を共有。

→「認知症の人 心の声アンケート」の実施

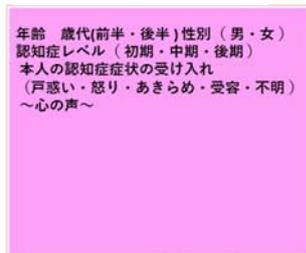
目的：認知症の人の生の声を聴き事業に反映する

方法：認知症地域支援推進員、介護支援専門員、グループホーム職員、認知症専門医療機関が、アンケート用紙を用いて、本人の聴き取りを実施。

県内で活動している本人にも記入依頼。

シンプルなアンケート

声を記入したアンケートを貼った台帳



→居宅介護支援事業者38事業所、グループホーム17事業所、認知症専門医療機関5事業所、認知症地域支援推進員（訪問時）認知症カフェ等集いの場3箇所から、延べ1000名強の声が集まった。

認知症の人の心の声概要（一部要約）

初期	中期	後期
<p><b>私のことは私が決めたい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 進行しないように気を付けて物忘れ対策をしている</li> <li>* できることがいっぱいある</li> <li>* 楽しみがある</li> <li>* 役に立ちたい。できる事があれば手伝いたい。</li> <li>* 今が幸せだと思う</li> </ul>	<p><b>私抜きで決めないでほしい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 忘れても大丈夫</li> <li>* 気に入ったよ！安心できるよ。</li> <li>* できることがある、手伝いたい。</li> <li>* 希望がある</li> </ul> <p>「わからんごとになりよっと。思い出せなくてごめんね。」 「昔は私がガミガミ言っていたわ。今は立場が逆転してしまった…」</p>	<p><b>笑顔が嬉しい、できる事を続けたい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安心できる、一緒にいたい。</li> <li>* 希望や幸せがある</li> <li>* やりたいことがある。</li> <li>* わからないことは手伝ってもらう</li> </ul> <p>「迷惑かけていることはわかっている。だから“ありがとう”“ごめんね”と伝えている。」</p>
<p><b>周囲への要望「 わたしを理解し、寄り添ってほしい・・・ 」</b></p>		
<p>寄り添ってほしい・・・</p> <p>しっかりと伝えたい。ゆっくり待って聞いて</p> <p>理解してもらえたらありがたいな。ゆっくりひとつずつ説明してほしい。</p> <p>弱った姿は見せたくない。しかし、これまでどおり皆と集みたい。</p> <p>用事や片付けと一緒にしてくれると助かる</p> <p>できていたのに、今はできない、分らない。苛立つ。泣きたい位に不安になる。</p>	<p>気分が乗らない時もあるし、疲れやすくなった。無理をさせないでほしい。</p> <p>大切なものがそばにないと不安になります。一緒に探してほしい。</p> <p>今日より“今”どうしたらよいか教えてほしい。</p> <p>私抜きで決められるとわからなくなる。私の気持ちを尊重して。</p> <p>昼寝の後など、誰かが側にいてくれると尋ねられるので安心。</p> <p>自由に話したい。会いたい人に会いたい。</p> <p>役割を持つことがいいと決めつけしないで自分でしたいし、出来ると思うから私なりにやっている。危険だと何でも禁止しないで見守って。</p> <p>通所にはずっと通いたい</p>	<p>頭が真っ白になって不安で怒鳴ってしまう。温かく見守ってほしい。</p> <p>やっぱり家がいい。</p> <p>食事もトイレも入浴も私のタイミングやペースがある。いきなり触れられたり、無理にされるとびっくりします。</p> <p>自分で思うようにできない歯がゆさをわかってほしい。</p> <p>怒られてばかりはきつよ。死んだほうがましと思うこともあるから優しく笑ってください。</p> <p>ひとりが怖い。必要としてほしい。誰か来て話しかけてくれるのを待っています。</p> <p>時間をかければできることがいっぱいある。</p>

<p>方法と本人の声 その2</p>	<p>本人が参加した話し合いで、実際に点検を行いたい事業などをリストアップ</p> <p>①認知症 SOS 模擬訓練 ②認知症講演会 ③認知症多職種協働研修</p> <p>* 今年度予定している事業に、本人意見、本人視点での点検・改善の取組を組み入れて、本人と一緒に進める。</p> 
------------------------	--

**意見を基にした認知症施策の改善に向けて：  
誰と話しあったか、話しあった点、考えた点**

<p>①認知症 SOS 模擬訓練について</p>	
<p>点検ミーティング</p>	<p>参加者：本人、パートナー、認知症専門嘱託医、市担当者</p> <p>認知症の人が迷わないで安心して外出できる地域づくりに向けた取組に。迷い人の搜索訓練にならないよう、声かけによって本人が安心できる形でしかるべきところへつなぐこと。</p> <p>本人から見たつながりの点検。人と人とのつながりをつくる。</p> <p>※夜間、地域包括や行政機関の課題あり。</p>
<p>点検アクション</p>	<p>模擬訓練を実施し、本人意見、本人視点で参加者ととも点検（工夫した点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬訓練の機会に、参加者に認知症の人の気持ちを疑似体験してもらい、本人の視点に近づいて考えてもらえるように。</li> <li>　　* 市の「いさはやオレンジ手帳」（当事者の暮らしと意思）を活用</li> <li>・ 当事者からアドバイスをしてもらい、なぜ迷うか、どういうタイミングでなりがちか、本人の意見をもとに具体的に。</li> <li>・ 今回は模擬訓練だが、日頃の声かけ・見守りについて考え、必要性をわかってもらう</li> <li>・ 訓練後に意見交換を行い、参加者の声を今後の取組に反映する。</li> </ul>

<p>点検後ミーティング</p>	<p>模擬訓練に 60 名以上が参加 本人、家族、自治会、民生委員、事業所、推進員</p> <p>本人視点で自分の今後を考えてみる      本人の意見を聴いて具体的に</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>まちに実際に出て模擬訓練      意見交換:様々な立場から</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>参加者：本人、パートナー、認知症の人と家族の会 認知症専門嘱託医、市担当者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練することで探すことだけを目的にせず、本人の視点を大切に していく町の人々の力、スキル、意識が広がったことがよかった。</li> <li>・訓練前に、本人の話を聞いたことがよかった。それを訓練で 活かした。</li> <li>・実際の時は、情報も人も少ない。一人でも多くの人に。</li> <li>・意見交換会で民生委員や自治会長など、色々考えておられた。 本人視点に立った見守りが、隣近所の井戸端会議から広がる流 れがいい。</li> </ul>
<p>②認知症講演会について</p>	
<p>点検ミーティング</p>	<p>参加者：本人、パートナー、認知症専門嘱託医、市担当者</p> <p>講演会のテーマが「わたしたちが望む居場所」。</p> <p>講演会に向けて、現状についての話し合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のために本人が連れてかれるのか、本人が行きたいところ か。相談は家族から。それも困ってから相談が多い。 本人が相談できればよい。</li> <li>・(本人) 居場所とは、自分の持っている能力を一番発揮できる 場所。当事者同士の交流を持ちたい。</li> </ul> <p>講演会のあり方について点検・検討</p>

点検アクション

○何を伝えるか。

- ・誰もが行きたい所にいける町づくりの大切さ
- ・認知症カフェが最終的な居場所ではなく、望む居場所へつながるための地域の機運を高める
- ・告知された時に、自分から周囲に協力依頼を。そのための地域の理解の重要性を。

○講演会をどのように

- ・「心の声アンケート」の生の声を紹介
- ・本人から意見を直接参加者に。
- ・会場参加型で、自分事として考えてもらう。

認知症講演会を会場参加型で開催。

心の声アンケートの声を紹介。

医師とともに本人が登壇。経験と思いを会場に伝える。



- 僕ら当事者が声を上げて、本当はこうしてほしいんだというのを誰かに伝えていかない限りは、本当に自分たちが住みやすい街づくりじゃないと思う…。
- 「本当の居場所って自分が住んでいる地域や町全体じゃないかな、当事者の人達が住む地域が自分の居場所になればいいなって思っています。早くそうなってほしいです」



会場参加型で：「やさしい町を目指したい」

<p>点検後ミーティング</p>	<p>参加者：本人、パートナー、認知症の人と家族の会、 認知症専門嘱託医、市担当者</p> <p>○講演会参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の告知、立ち直りができるかどうか良い勉強になった</li> <li>・ 認知症だと言われたら皆に知らせ知って貰い、周囲に見守られ生活できるのがいい</li> <li>・ 認知症だとわかった方の生の声を聴いて自分を見つめなおすきっかけとなった</li> <li>・ 認知症について自分自身の偏見に気づかされた</li> </ul> <p>○話合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症だということをオープンにすることで生き生きと生活することができると思うのだけれど、家族に偏見があり難しい現状もある。福田さんの講演後「本当に認知症なの？」という声もある。</li> <li>・ そういうことを聞くと、僕も戸惑う。一生懸命話しているのに。困った僕を見せればいいのか。それで認知症とわかってどうなるのか。</li> <li>・ まさに福田さんが言っていることが、みんな病気になって初めて体験すること。それをサポートするのが医療・介護職。地域の人！</li> </ul>
------------------	---

③認知症多職種協働研修について

<p>点検ミーティング</p>	<p>参加者：本人、パートナー、認知症の人と家族の会、 認知症専門嘱託医、市担当者</p> <p>【多職種の現状に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (本人より) 時に介護職と当事者の思いに、ずれがあることがある…。</li> <li>・ 病院では色々話すと、薬が増える。言いたいことを言えない。伝えたくないことを家族が話す。</li> <li>・ 画像検査がビビる。緊張する。“現状維持” だった時はほっとした。悪くなっていたらと思うと・・・。</li> <li>・ 医療が認知症の人に対してできることはほんの少ししかない。大事なものは環境。</li> </ul> <p>【認知症多職種協働研修のねらいについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者の気持ちとケア職の気持ちのずれを知る。</li> <li>・ 認知症の人の強み（頼りになるところ・良かところ）を活かし、地域との接点を持つことで、専門職も地域の資源とつながれる。</li> </ul>
-----------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人それぞれの強みに働きかけるケアの方法を、その実践者に話してもらい、それに本人からコメントをもらい、学ぶ機会とする。</li> <li>・明日からやってみようと思えるように…。</li> </ul>												
<p>点検アクション</p>	<p>多職種協働研修を開催。多職種が一緒になって本人視点で自分たちのケアやつながりについて考える。</p> <p>第1部 本人視点の認知症ケアの流れになるために 私たちができることは何か</p> <p>(1)「自立支援を促すお互いさんケア その先へ 株式会社あおいけあ代表取締役 加藤忠相氏</p> <p>(2)「当事者視点の認知症ケア」 佐世保市営行の会・日本認知症本人ワーキンググループ 福田 人志氏</p> <p>第2部：本人視点の認知症ケアのポイントと実際</p> <p>(1) 個人ワーク：気になる一人の本人について 「いさはや手帳」に記入。</p> <p>(2) グループワーク・発表、共有</p> <p>第3部：パネルディスカッション 明日からできるお互いさんケア」へ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: #4a7ebb; color: white;">介護職の声</th> <th style="background-color: #4a7ebb; color: white;">本人の声</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今日は元気なさそう</td> <td>スタッフが忙しそうで声をかけられない。帰りたいなあ。帰ろうかなあ。</td> </tr> <tr> <td>レクレーションを楽しくやりましょう</td> <td>同じことばかりでつまらん。他になんかなかとね。</td> </tr> <tr> <td>お風呂に入って、すっきりしましょうよ</td> <td>まだ来て1時間しかたたとに、入らせるとね。ゆっくりしたいとに。</td> </tr> <tr> <td>脳トレで会場が沸く</td> <td>やたら質問が多くて、間違ったら恥ずかしいか</td> </tr> <tr> <td>連絡帳を家に忘れたそう…。</td> <td>何でも記録で監視されている。トイレ回数など書かれるけん、もう持ってこん。</td> </tr> </tbody> </table>	介護職の声	本人の声	今日は元気なさそう	スタッフが忙しそうで声をかけられない。帰りたいなあ。帰ろうかなあ。	レクレーションを楽しくやりましょう	同じことばかりでつまらん。他になんかなかとね。	お風呂に入って、すっきりしましょうよ	まだ来て1時間しかたたとに、入らせるとね。ゆっくりしたいとに。	脳トレで会場が沸く	やたら質問が多くて、間違ったら恥ずかしいか	連絡帳を家に忘れたそう…。	何でも記録で監視されている。トイレ回数など書かれるけん、もう持ってこん。	
介護職の声	本人の声												
今日は元気なさそう	スタッフが忙しそうで声をかけられない。帰りたいなあ。帰ろうかなあ。												
レクレーションを楽しくやりましょう	同じことばかりでつまらん。他になんかなかとね。												
お風呂に入って、すっきりしましょうよ	まだ来て1時間しかたたとに、入らせるとね。ゆっくりしたいとに。												
脳トレで会場が沸く	やたら質問が多くて、間違ったら恥ずかしいか												
連絡帳を家に忘れたそう…。	何でも記録で監視されている。トイレ回数など書かれるけん、もう持ってこん。												

グループワーク & 発表・共有：本人の意見も聴きながら

意見を出し合い、それぞれの方の強み  
(良いところ・頼りになるところ)に  
働きかけた、おたがいさんケアを考える

- ・それぞれのひとりひとりのケアを話題
- ・集まってできることは？
- ・地域の方と一緒にできること？ など…を自由に考える。

講演内容を  
思い出して

自分たちが何かするのではなく、利用者や地域住民が動く・  
動かす環境、それはイベントだと一過性であるが、普段から  
できることであれば「きっかけ」を通じて何回もでき「自信につ  
ながる

参考になるグループには講師より発表をお願いします！



- \*可能性が広がる。
- \*いっしょに歩く人  
がいるといいな。
- \*本人が望むことを  
探し、一緒に。



地域には、こんなにもたくさんの専門職仲間がいる！

参加者：本人、パートナー、認知症の人と家族の会、  
認知症専門嘱託医、市担当者

<p>点検後ミーティング</p>	<p>参加者：本人、パートナー、認知症の人と家族の会、 認知症専門嘱託医、市担当者</p> <p>○講演会参加者アンケートより</p> <p>当事者がどのように思ったり、感じたりしているか良くわかった」</p> <p style="text-align: right;">生活相談員 10年</p> <p>「してあげるケア」から「こういうことをしたら楽しいだろうなあ」へ</p> <p style="text-align: right;">介護支援専門員 10年</p> <p>「本人の人柄が好きになった」 薬剤師 28年</p> <p>「当事者ならではの視点が面白い」 社会福祉士 2年</p> <p>「利用者のことをもっと知りたい 看護師 10年</p> <p>もっと知りたい 保健師 1年</p> <p>○話し合いより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で「気になる本人の情報」をまとめたところ、本人がかつて社会で活躍していた頃の情報が少ない。</li> <li>・「情報収集とアセスメントの方法」を、多職種が本人視点で学ぶ研修が今後も必要。</li> <li>・研修で終わらずに、今回得られた学びやネットワークをそれぞれの日常で活かしていくように。</li> <li>・認知症の人と多職種が、力を合わせる関係へ。</li> </ul>
<p>改善アクション</p>	<p>○2018年度、正味四か月くらいの中に、①認知症 SOS 模擬訓練、②認知症講演会、③認知症多職種研修を行ってきたが、今回、「本人の意見に基づいて点検・改善プロジェクト」として行ったことで、各事業をやっておしまいではなく、その過程で得られた課題や気づき、手がかりをもとに、具体的な改善を関係者が一緒に進めていく流れが生まれてきている。</p> <p>年度がかわっても、改善アクションが続いていく。</p> <p>○また、事業それぞれはちがっていても、一貫して「本人」がいて、本人の声が全事業を貫いていることを実感的につかめた。</p> <p>○個々の事業ももちろんだが、市の認知症施策のすべての事業を本人の意見をもとに点検しながらつながり合った一体的なものに改善していくことが、市の立場で重要だと考えている。</p> <p>○こうしたプロジェクトを一緒に進めていく医師の先生方や専門職、地域の人たち、ご家族、そして本人とのチームを、大切にしていきたい。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

①大和村

<p>認知症の人の意見に基づく：          どんな本人たちとともに、どんな場で、どんな方法で、意見を語る－聴くことができたか</p>	
<p>どんな本人たちと</p>	<p>第1回：10月上旬（約2時間）          本人3名、近所2名行政（包括）3名、：本人集落公民館（茶話会形式）</p> <p>第2回：11月中旬（約2時間）          本人3名、近所7名、行政（包括）3名：本人集落公民館（茶話会形式）</p> <p>第3回：11月下旬（約1時間半）          本人1名、近所3名行政（包括）3名：本人集落サロン場（茶話会形式）</p> <p>第4回：11月下旬（約2時間）          ・本人1名、息子1名、近所1名、行政（包括2名）：本人集落サロン場（茶話会形式）</p>
<p>語られたこと（知ることができたこと）</p>	<p>第1回：主に個人の気持ちの持ち方、子供との距離感、皆のこれからの事などが語られた</p> <div data-bbox="708 1052 1273 1370" data-label="Image"> </div> <p>&lt;本人との会話&gt;（お友達同士の関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(近所) あちこちウロウロするのでいつも探すのが大変」→「(本人) ご飯食べるところにメモしてるよ」→「(近所) 家の中にあっても中に入ってまで見れんでしょ(笑)」→「(近所) 旗出せば？」→「(本人) 外に出る度？何度も？」→「ずっと旗ばかり気にしてられない、はた迷惑(笑)」</li> <li>・「(近所) 近所やサロンなどあちこち行ってくれるからいい。閉じこもったら大変」</li> <li>・「(本人) 郵便局に行く途中の〇〇さんの所には寄る、目的なく歩いてるよ」→「(近所) 目的なければ徘徊よ」など、本人も皆で大笑いの雰囲気。「(近所) こういう性格の人なのでこんな冗談もいつも言い合っているが、怒る人には言えない。やっぱりシマ(集落)にいてほしいから、こうやって気になって声も</li> </ul>

	<p>かける。でもいつまでこの人はこうやっていれるかと思うと寂しい（涙）」</p> <p><b>&lt;気持ちの持ち方&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あてにされなくなったらおしまい、できることは一つでもしてできなくなったら頼む、世話人は難儀もするがそのおかげで張り合いもある、本当の年と気持ちの年がある、遺影の写真を決めておくなど</li> </ul> <p><b>&lt;子供との距離感&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに住んでいても働いていれば遠慮する、同年代の間ではするような話でも子供とはしない、ふざけたマネ事など同年代同士では笑い合っている、台風で子供宅に避難しても一日で自宅に帰りたい、子供のいる家は遠慮がちでかえって独居同士の方が互いに行き来しやすい、家族だけのつきあいだと狭くなるなど</li> </ul> <p><b>&lt;希望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔なじみ同士数名で、集落の中で一緒に暮らせるといい。家と施設の間のような。隣にベッドがあって顔をあわせられるだけで嬉しい。施設は絶対に行きたくない。</li> </ul> <p><b>&lt;息子の言葉&gt;</b></p> <p>「放っておいても大丈夫と思っていたが、最近はそうもいかないのかなと思うようになった。認知症がどんな感じになるのかもよくわからない。車の免許をとりあげてしまったので車にのせてといわれたら乗せているが行きたい目的があるわけでもない。乗ったこともすぐ忘れる。ずっとつきっきりのわけにもいかない」</p> <p><b>&lt;近所の言葉&gt;</b></p> <p>「自分も母親を男一人で介護していたが認知症はあまりすまなかったで自分より大変と思う。もっと早く声をかけてあげればよかった。これからはささいなことでも声をかけてね。できることは協力するよ。お父さんはこの頃随分おだやかな顔で集落内を歩いたり老人クラブに顔をだして楽しんでいるよ。施設と家を交互でもいいが、だんだん家で期間が長くできるようにしていくといいよ」など息子に言葉をかけていた。</p>
--	---

## 第2回：畑づくりや食がキーワードになった



- ・物忘れがでてきたり、目や耳が遠くなり心配だが集まって不安だと言い合うだけでも大事、いざとなったらこの人に頼むときめておく、声をかけられていやという人いない、何かしら役割がある生活が一番よい、自分で楽しみや生きがいを見つけるなど。
- ・畑は、例えば植え方を間違いだしても誰かが手伝ってくれれば続けられる、気づけば声をだしていない日もあるが畑にいけば誰かに会える、畑で作ったものを人にあげる喜びがあるなど
- ・食は心配。300円位で宅配ほしい。

## 第3回：本人についての話が中心となった



### <本人の言葉>

- ・腹の底から笑うのが一番の薬なのでこういう集まり処があって嬉しい（3年ぶりにこの場所へ）
- ・1年1年変わって忘れ物が増えていく、「3回言いました」と娘に怒られる、〇〇さんの家は道端で人が声をかけやすいからいいね。自分のところは奥だから、何回か集まりに行かなくなると行きづらいよ、〇〇さんが道端にいるなど、部屋の窓からみているよ など

### <近所の言葉>

- ・本人の昔からの習慣、最近の生活ぶりについて（とてもきれい好き、人が来るのは好きだが、人の家に行ってお茶のみはしな

	<p>い、集まりの場にはおかずをもってくる、老人クラブに時々は参加など)</p> <p><b>第4回：家族（息子）の気持ちとご近所の気持ちが明らかになった</b></p> <p>同居の息子はあまり人と交わることがなく、ケアマネを含めじっくりと話をできていた人が誰もいなかったが、今日2時間近く話ができこれまで印象（想像）だけ先入観で関わってしまっていたことがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（本人）他者の会話に時々入り「女であればこまごまできるが男は不足するものばかり（息子に）」といった話を繰り返していた。1時間ほど座っていたが、途中で毎日の習慣の散歩へ（ぐるぐる）</li> <li>・（息子）「放っておいても大丈夫と思っていたが、最近はそうもいかないのかなと思うようになった。認知症がどんな感じになるのかもよくわからない。車の免許をとりあげてしまったので車にのせてといわれたら乗せているが行きたい目的があるわけでもない。乗ったこともすぐ忘れる。ずっとつきっきりのわけにもいかない」</li> <li>・（近所）「自分も母親を男一人で介護していたが認知症はあまりすすまなかつたので自分より大変と思う。もっと早く声をかけてあげればよかった。これからはささいなことでも声をかけてね。できることは協力するよ。お父さんはこの頃随分おだやかな顔で集落内を歩いたり老人クラブに顔をだして楽しんでいるよ。施設と家を交互でもいいが、だんだん家での期間が長くできるようにしていくといいよ」など息子に言葉をかけていた。</li> </ul>
<p>意見を聴く上での工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多すぎずいつものなじみの顔ぶれの中で互いにリラックス</li> <li>・「本人自身のこと」を話す場合（第3回）については、特に本人の好きな友達で</li> </ul>
<p><b>意見を基にした認知症施策の改善に向けて： 誰と話しあったか、話しあった点、考えた点</b></p>	
<p>話しあった点・考えた点</p>	<p>○本人の暮らしぶりや性格をふまえ、本当のなじみの関係の中だったからこそ、本人に必要なことが見えてきたかもしれない（本人の生活ぶりをよく知るといえるのは、以外とできていないかもしれない。何となく支援の形はできても本人の思うところに行き着いていない上滑り感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行きたくないから行かないのではなく、「臭くない？」と気に</li> </ul>

	<p>してきちんとして人前にでたい、差し入れしたいがその先にすすめず混乱して行けない</p> <p>→用意して置いておくだけではなく、声かけや見守る人がいれば可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プランは「デイサービスに行く」までであるが、本当に必要なプランは・・・？</li> </ul> <p>①うまくいく時を家族やよく声をかけて誘ってくれる人と一緒に探り共有</p> <p>②ご近所サポートを活用できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ショート利用を2ヶ月にする？3ヶ月にする？」とすすめるケアマネさんと、「2週間位の間片づけをしたい家族」と、「地域でこんなにおだやか」と伝えるご近所のズレ</li> </ul> <p>○認知症だからと何かとひとくりにしがち、あきらめられがち</p> <p>○たとえすぐ忘れても楽しく穏やかな時間を重ねる</p>
<p>どのようにすれば改善につながるか</p>	<p>○本人らしさや本人の役割をヒントに、なじみの中で一緒に考えるというマネジメントを、公的サービスにとられない本来のマネジメントを</p> <p>○声をかけ続ける、仲間であり続ける人</p> <p>○いずれも認知症をテーマにした会やよびかけではなかったが、ふとした話題から関連や波及があり、結果認知症施策にもつながることがたくさんあった</p> <p>○施設に行くしかない→集落へ戻す方向へ</p> <p>○必要なしくみへ（ご近所サポート、ICT活用なども）</p> <p>○遠方（島外）の子供へのアプローチ（本人の状態はわからないので知ってもらうことも必要。）</p> <p>○畑メインの環境整備</p> <p>○地域に根座した一人ひとりの暮らし、生き方、声、つながり、ここならではの文化を、大切にしていく。</p> <p>○行政や専門職も、この地の一人として、無理なく、自然体で。</p> <div data-bbox="719 1630 1249 1937" data-label="Image"> </div>

### 3) 試行地域合同ワークショップ

#### (1) グループミーティング(第1回試行地域合同ワークショップ)

試行プロジェクトのプロセスにそって、試行プロジェクト実施地域からの参加メンバーによるグループミーティングを実施した。

#### <第1グループ：大崎市・藤沢市・安心の会(上田市豊殿地区)>

##### ①点検ミーティング：地元での開催の工夫やアイデア

###### <大崎市>

本人ミーティングはやったことがなく、どう本人に出会うかが課題。

###### ○いきいき100歳体操の参加者に聞いてみる

2年前に始め、週1回近くの集会所で運動している。現在100団体約700人が参加し、認知症の人も地域の人と活動しているので、そこで話を聞いてみたい。

日頃から付箋を使いアイデア出しなどを行っているので、思ったことを書けるようなやり方で話を聞きたい。

###### ○認知症対応型デイサービスの事業所の人に聞く

人材育成研修に参加している認知症対応型デイサービスの人を通して本人に聞いてもらう。

###### <藤沢市>

###### ○本人ミーティングで聞く

未開催なので、11月中旬に日程を決め、それに向けて以下の準備を進めていきたい。

・「地域で何ができないか」と以前カフェをやっていた認知症の人に声をかけて頂いているので1人でも会いに行き、診断を受けての思いや受けてからどんなサービスがあったらよかったかなどの思いを聞きながら企画を考えたい。

・本人とどう出会い、どうつながっていくか、どう周知するか、が課題なので認知症カフェの実施団体、地域包括などにつなげてもらいたい。包括の定例会が月1回あるので、このプロジェクトについて伝えて協力を得ていく、また今後定期的にやっていく上でも協働者になっていく。

###### ○認知症カフェの運営団体との交流会で聞く

市が主催で10月に交流会を予定しているので、プロジェクトの事を伝え、認知症の人との接点を作ってもらいたい。

###### ○家族会(認知症の家族の家族会：ほほえみの会を保健所で定期的に実施)で聞く

本人の声を聞くには、本人、家族それぞれに聞くスペースが必要。

###### ○かめキッチン(当事者が働くレストラン)に紹介してもらって聞く

パン作りなどいろんなことをやっている事業所。

###### <安心の会(上田市豊殿地区)>

###### ○安心の会と行政、地域の団体等との交流会を開催

「安心の会」:「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という地域住民の願いから、

特別養護老人ホームローマンうえだができた15年前から医療や福祉について学ばう「安心」の地域づくりセミナーを開催。セミナーは毎年1回、30人程度が、冬場の農閑期に6回勉強を重ね、仲間を増やし現在500名いる。受講者で同窓会を作り、様々な活動を継続している。

行政と地域がどうやってつながりを高めながら高齢者対策に取り組んでいくかが課題で、高齢者介護課、包括、社協、民生児童委員、福祉推進員、まちづくり協議会（自治会長が中心で組織し、地域をまとめている）と連携を強め、これから地域としてどうしていくか、今日の資料を参考に話しあいたい。

○認知症の人や家族が相談しやすくするための資料づくり（情報提供）

認知症の人は家族含めて助けを求めない！→相談できるきっかけづくり

自分だけで家族もどう悩んでいるかがわからないので、交流会をやることで、認知症や予備軍、家族が、地域ではこういったことを取り組みながら相談にも行政と連携しながら相談にのっていく、という情報をしっかり提供できる資料作りを通して、相談するきっかけづくりをしたい。

ずっと関わっていても中々相談されない、助けを求めてこない、デイに行く段階ではオープンになるが、その前の段階で「地域はこういうことを取り組んでいるよ」という情報を提供できる何かが作れればと思う。

○サロン（ひなたぼっこ）で本人発の本人ミーティング開催

施設では小規模多機能等で通っている皆さんと本人ミーティングを開いてきたが、地域で住民発の取り組みが始まり、地域の中で本人や家族が声を発せられる地域を作りたい。当事者である治子さんは小地域の自治会だが、自身が長年にわたり一人暮らしや認知症の方への声かけや見守り、情報交換もやってきた。小地域は顔なじみでよくわかっているからオープンにできたが、今度は豊殿地区（人口5,300人）という地域全体の中でオープンにして、認知症ですよ…とってサロンに集まり本人ミーティングを開くことはどうだろうか、という話もでた。たとえ地域が広がっても、みんながオープンにできるサロン、地域にしていけばいい、その過渡期であるという意見もでて、地元を持ち帰り他の皆さんとも相談していきたい。

ひなたぼっこ※：スタートして2カ月、ボランティア50名集まり、半日ずつシフトを組み（3～4人）、カフェサービスをしている。この人達が交流しながら前進できればと思う。

毎月サロンをやっているが、自分が立ち上げたので、私が第一号として自分で隠さず知って頂いたり、助けていただくので地域で話をしていきたい。

○行政と地域の関係のあり方について

「安心して暮せる地域づくり」は活字にすると簡単だが、それを環境として整えていくのは非常に難しい。そのことをみんな課題を共有しながら、そういったところを段々目指していく形が作れれば…と思う。ひなたぼっこ※の運営委員には地域包括、社協、公民館、まちづくり協議会、みんな入っているので今回のことを投げかけてみ

たい。市が全然入ってきていないので、市へ話に行きたい。市はどうしても地域包括支援センターへお任せ、という感じがあるから、中々入ってこないで、話をしたい。

#### <藤沢市>

地域包括ケアシステムの中で、住民主体の活動でサロン、助け合いのゴミ出し、枝切りをどうするか、という話をいろんな地域住民の方とする中で、行政の役割はどこまでか、いろんな団体がやってくるが行政が制度をかぶせても自分たちの活動だから、と言われたり、逆に引きすぎると市は何も、と言われたり、その関係性はどうかあるのが理想なのか日々考えさせられる。

#### <安心の会（上田市豊殿地区）>

お金の問題や事業のこともあるが、行政がもう少し変わってほしいのは、7番目の柱（新オレンジプラン）のところ、こんな考え方で行って、こうすると当事者の皆さんにとっても認知症になるかもしれない私たちにとっても、こういう考え方が大事なんだ…、ということを行行政が発信してくれることが大きい。どんなに私たちが言ったり、当事者の方々が言っても、それをしっかり後押ししてくれる行政のスタンスをきっちり持ってほしい。それに向かって地域はそれぞれに工夫しながら応用してやっていけばいいし、ちょっとブレそうになった時に、こういうことは本人たちに聞いてみようとか、この委員会に本人たち入っていないよね、とかが出てくると思う。（市の人）後ろで見ているだけで発信していない。頑張っている、と褒めてくれるが後は何もない。

#### <藤沢市>

藤沢市でも色んな所で色んな活動がある。市は「あるな…」というのを見ながらも、何か共通のスタンスをまとめて発信するとか、「こういう方向で行きましょうよ！」ということが必要では、と思いつつもできていなかったのも、せめて団体さんを集めて交流会からスタートしていた。そういうことを聞くと、こういうことが大事なのか、が分かる気がする。

#### <大崎市>

包括が入っていて推進員さんに伝えるしくみを前任の方が作ってくれて、地域でやっている取り組みをPDCA回すのがしみついている、把握して地域としてプラスどういふことが必要かどうか、推進員さんが地域をよく見ているのでありがたい。事業所で何かしたいときも推進員さんに相談してもらえるルートができている。事業所の方のいい取り組みも教えてもらい、それを研修会等で発表する機会がほしい、と逆に声をかけてもらえるので、運営懇談会などでその時間をとることを考えたり、地域の方、事業所の一番本人に近い方と推進員がいて行政があつてという流れができている。

話を聞いていて、確かにオレンジプランの7つ目の考えが大事だということを発信していなかったな、と思った。そこを自分たちが大事だと分かっているだけでなく、発信していかなければと思った。

**②点検アクション：地元どんな人たちの協力・協働があったらいいか。**

**<大崎市>**

体操は住民主体で行われているのでその方、代表の方、民生委員、区長さん、事業所、各地域の推進員

**<藤沢市>**

地域包括、認知症地域支援推進員は直営でいる、保健所（物忘れ相談や医療機関のとりまとめを行っている）、包括支援センター、ケアマネジャー、地域の関係団体、認知症カフェをやっている団体、認知症の家族会（ほほえみの会）

**<安心の会（上田市豊殿地区）>**

高齢者介護課、地域包括、社協、民生児童委員、福祉推進員、まちづくり協議会（自治会長が中心で組織し、地域をまとめている）

**③点検後ミーティング（改善プランづくりのイメージ）**

**<藤沢市>**

本人ミーティングで、診断を受けるまで、受けてから、どんな思いだったか、どんな支援があったらよかったか、を聞きながら4カ月で取り組めることが何か、焦点を絞っていければと思う。

その上で、診断後に一人ぼっちになってしまったなど、具体的に取り組みそうなことがあれば現場の声を聞くために医療機関へ行ったり、地域の課題であれば、自治会、民生委員さんに会うなど、具体的な動きを12月までにできればと思う。

**<第2グループ：北見市・諫早市・大和村>**

**①点検ミーティング：地元での開催の工夫やアイデア**

**<北見市>**

今回の胆振地震から着想。自分たちの街の地層や地形の成り立ちは？

- ・認知症の人に地形などについてきく
- ・中学生をまきこむ
- ・災害のときどうするか？認知症の人を含む街の人みんなから自分たちのもつ知識や技術をもとに生きぬく方法を学び合う
- ・この街は住みやすいのか？というテーマに広げて、全年齢を対象としたミーティングを開催する。生きやすさ、生きづらさを話し合う
- ・この取組みは数年かけてやっていく
- ・委員会にしたりと継続していきたい

**<諫早市>**

- ・講演会、ケアパス、こころのアンケート、カフェの連携など重点施策がある。
  - ・Aさん（認知症の本人）は、カフェ運営をしているので、「どういうカフェを使いたいと思っているのか？」をききたい
- ⇒例えば、運営者がよかれと流すBGM、音がうるさいと思っている人もいる。本人視

点とはしては疑問

⇒当事者が行ってみたい（行きやすい）と思うカフェは、いろんな人にとって居心地のいいカフェ

⇒認知症の人が声を出せることが大切。認知症の本人が実はガマンしていることは多いと思う

#### <大和村>

・高齢者事業や老人会において、本人の置き去り感が気になっていた

・いつの間にか声かけられなくなってしまう現象がおこる

⇒本人がどう思っているのかきく

⇒ゆくゆくは「ご近所会議」に声を反映させたい

まずは本人が気持ちを語れる場所（集い）をつくる必要がある

#### ②点検アクション：地元どんな人たちの協力・協働があったらいいか。

#### <北見市>

・認知症のご本人のもつ知識や技術

・中学生…今度啓発イベントがあるので、その時にもちかける

・災害をテーマとするミーティングの時は災害ボランティアに協力してもらう

・ミーティングの結果はマップにおとしこみ情報をシェアする

・（雪がふる移動困難の時期はどう開催？）⇒お互い電話をかけ合い、訪問しあっている

・声をかける、情報共有する、いちいち個人情報保護を問われてしまう時代 ⇒町内会では会員カードを書いてもらい、同意を得たりして共有を心掛ける

#### <大和村>

声をかけたら来てくれそうな当事者の方は5人くらい顔がうかぶ

⇒本人が「心配だ」と言ったその時にミーティングに誘ってみようと思っている

#### <諫早市>

（本人）高齢の方はレクリエーション（歌、着付け、お花）に反応する。楽しい雰囲気  
気がすごく大切。

#### <大和村>

ご本人が感じる、してほしくないことは？

（本人）自分は認知症であることを知られたくなかった。周りの目が気になった。そういう気持ちがあった。

<第3グループ：有田市・有田川町・御坊市・鳥取市・西香川病院（三豊市）>

①点検ミーティング：地元での開催の工夫やアイデア

<有田市・有田川町>

昨年、圏域（1市3町）で本人ミーティングをやってきた（今年7月までで、圏域すべての市町で）

- ・メリット：負担を減らせる（市町担当者）、よそのまちへ出かけられる（当事者）
- ・デメリット：よこのつながりがむずかしかった、アシの確保

全体での検証はまだ。⇒「このやり方でよいか」「集まりやすさ」を、当事者といっしょに検証したい

<御坊市>

「本人サミット」を年1回、2年やってきた

本人12人ほど参加（市内は5人）、1回目は古民家そば屋、2回目はカフェ（ピュウエ式）。

会費制で、11時ごろ集まり自己紹介、昼食をへて、話す

本人が、好きな飲み物を買う ※本人のアドバイスを活かして「(カフェや事業所では)いつもお茶かコーヒーが出る。でも好きなものを選んでもらったら、お茶を選んだ人はいなかった」

⇒今年は、企画から本人が加わり、検証したい

「ごぼうホットサロン」（介護家族等の集まり）

スーパー銭湯で開催。もともと家族会なのに、本人が30人集まった ⇒うまくいった理由を検証（本人にきく）

<鳥取市>

本人ミーティング（今年4月～）を実施している

- ・市内3人、市外・県外4人ほど
- ・進行役：本人（一人では負担大きいね、という話もでてきた）
- ・参加者は本人のほか、県、市、支援推進員、若年認知症センターなど

傍聴者が多くて話しづらいのでは。皆が同じ方向を向いていないのでは？今回をきっかけに、ふりかえりへ

- ・時間帯・流れも検討（今までは、話し合ってから食事。御坊のやり方も試したい）
- 打合せ・ふりかえりに本人も参加、言いつばなしにしない。その後どうかも大事

<西香川病院>

・病院関係者の本人の「楽しく生きる集い」（本人同士・家族同士でテーブルを分けている。1か月に1回、ざっくばらんに話す。本人5～6人）

・認知症カフェ（院内、院外）、院内に来ている本人 こうした場に来られない本人の声をどうするか？

⇒本人の声をきくには、いろいろなやり方、場があるのでは。CMに協力してもらっ

て、本人の自宅にいて、本音を話す。文章を書ける人には、返信用ハガキなどで声かけ。

◎変えたいこと・思いをききながら、それがなかなか変わらないことに、責任の重さも感じる。 →変わらないという結果も本人と共有しては。またいっしょに考える

## ②点検アクション：地元どんな人たちの協力・協働があったらいいか。

・ほかの領域のひとたちはどうか？

商店街に協力を求めたことがあったがうまくいかなかった。（声かけが十分でなかった）

→地元にある、産直市場から相談→高齢者による万引き、仕入れ農家の高齢化。

相手にも困りごとがある。そこから協力関係の道を開けるのでは

・困りごとについて、いっしょにその場についてみる

例：昨年、アクションミーティングに参加した本人「病院に通うのが大変なんだ」

→包括職員がいっしょに病院へ行ってみる。

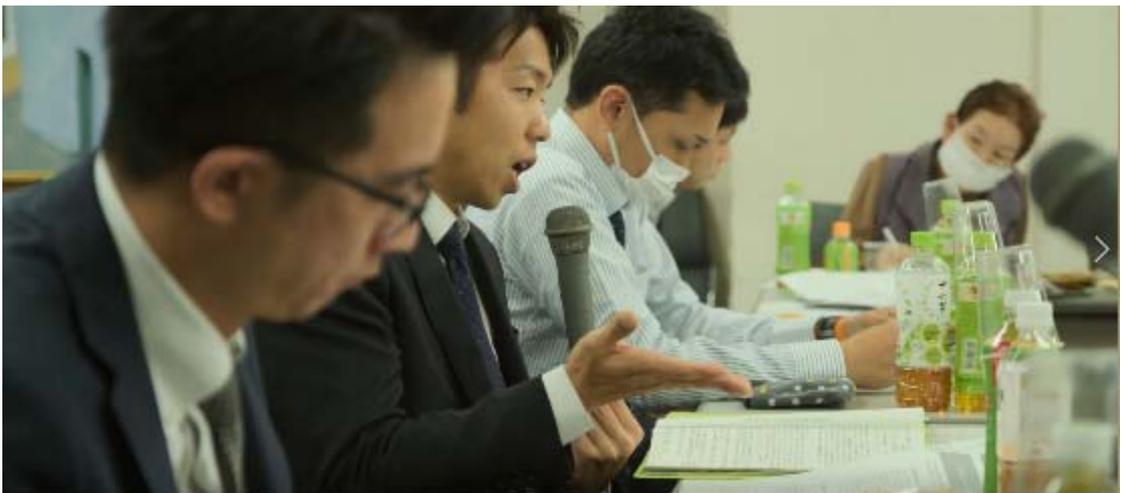
いっしょに行くことで、診察そのものだけでなく、「診察室へ行くまでに迷う

（どの窓口？）」「名前ではなく番号で呼ばれる」「院外処方になったことで戸惑

う」など、不安なこと・大変なことが具体的にわかり、なにを改善したらよいかわかった（解決の糸口）

## （２）合同ワークショップ・試行プロジェクト（豊殿地区「安心の会」）映像記録







### 3. ガイドの作成

#### 1) 「私たちのまちづくりアクションガイド」(認知症の本人向け)

##### (1) 認知症の本人向けガイドの目的

今後、どの地域で暮らしていても、本人が自分の意見を自ら表し、施策の点検・改善等に参画していける本人が増えていくことを推進するために、本人向けのガイドを作成した。

##### (2) 特徴・工夫

###### ①「難しいことではなく、誰もがふだんの中で一步一步できる」ことを伝える

施策の点検・改善というと、一見難しく、自分には無理という印象を持たれかねない。試行地域で参画した本人は、いずれも大上段ではなく、ふだんの中で、自然体で自分の思いを語っており、それが市町村等の施策や事業の貴重な点検・改善につながっていった。

このガイド全体を通じて、一人ひとり、年代や状態に関わらず、普段の中で自分の声や力を活かしていくことの大切さや、それを日常の中で一步一步できるプロセスを具体的に伝える内容になっている。

そのことが、ガイドを手にした際に一目で伝わるように、サブタイトルを「認知症とともに生きるわたしたちの声と力を活かそう」とした。

###### ②「受け身ややらされではなく、主体的に取り組む」ことを後押し

本人が受け身ややらされでは、施策や改善に本当の意味で役立つ本人の本音を聴くことができないまま、点検・改善の取組が形骸化しかねず、また、参画した本人にとっては負担やストレスになりかねないこと、何よりも本人が自分から主体的に参加することの重要性が、本事業の検討委員や試行地域で参加した本人、関係者から繰り返し指摘されていた。

試行地域において、本人が最初から主体的ではなかった場合もみられたが、「自分の今とこれからの暮らしをよりよくしていくため」、そして自分が住むまちを「より暮らしやすくしていくため」という意味や価値を知ることができると、主体的・積極的になって言った人が多かった。

このガイドではそれらの意味や価値をわかりやすく伝え、自分から取組んでみようという気持ちを喚起し、後押しするように表現や具体例を多く盛り込んだ。

###### ③「認知症だから無理」ではなく、「認知症だからこそ、できることがある」ことを伝える

「意見を伝えたり、点検・改善の活動に参画するなんて無理」と家族や周囲からみなされていたり、本人自身もそう思ってしまう場合も少なくなかったことが、試行地域からも報告されている。そうした偏見や誤解を取りはらうとともに、点検や改善には、当事者だからこそその声が役立つこと、新しい活躍のチャンスであり、点検・改善の活動を通じて、地域とつながって元気になっていった実例やエピソードを盛り込んだ。

###### ④「堅苦しくない、やって見ると「楽しい」「やりがいがある」ことを伝える

試行地域で実際に一緒に取組んだ本人たちから「たのしい」「役立ててうれしい」といった声が多く聞かれている。ガイドの中で、それら本人の実際の体験や声を盛り込んだ。

また、気軽に楽しいイメージを抱いてもらえるよう、表紙や本文のイラストや表記を工

夫した。

### ⑤「一足先に取り組んでいる本人がいる」ことを伝える

身近にいなかったり、まだ出会えていなくても、すでに声をあげて改善の活動に参加している人がいることを身近に感じてもらえるよう、ガイド全体は、検討委員や試行地域の本人の言葉をもとに構成し、本人から本人へ、一緒にやっけて行こう、と呼びかける内容とした。



#### <ガイドの構成>

○このガイドを手にしたあなたへ

私たちが暮らしやすいまちを、一緒につくっていきましょう！

#### 1. 安心して、自分らしく暮らしていける時代に

私たちの日々：自分らしく今を、これからを

#### 2. 私たちだからできることがある

私たちの、小さなチャレンジ

#### 3. 暮らしやすいまちを一緒につくっていきましょう

～私たちのまちづくりアクション～

ステップ1：自分の思いを表そう、活かそう

ステップ2：まちに出て味方や仲間に出会おう、語り合おう

ステップ3：一緒に動いてみよう：地域をよりよく変えていく

ステップ4：やってみて一緒に確認；気づきを伝え、次の一歩へ

ステップ5：無理なく、楽しく、続けていこう

#### 4. やってみました！私たちのまちづくりアクション（事例紹介）

☆私のまちの「まちづくりアクション」関連情報（記入用）

## 2)「本人とともに進める認知症施策改善ガイド」(都道府県・市町村向け)

### (1) 都道府県・市町村向けガイドの目的

今後、どの自治体においても、本人の意見に基づいて認知症施策等を点検・改善していくことができるようになるための手引きとして作成した。本人向けガイドと連動した内容。

### (2) 特徴・工夫

#### ①「難しいことではなく、どの自治体でもできる」ことを伝える

試行地域では人口希望や地域の特性によらず、どの地域でも本人の意見に基づく点検・改善に取り組むことができている、その事例も盛り込みながら、うちの自治体でもできる、という動機付けとなるような内容とした。

#### ②「ハードルを下げ、一步一步できることのプロセス」を伝える

本事業で実施した自治体対象の全国調査では、本人の意見を聞いたり、本人が参画しながら取組を進めていくことのハードルがとても高い、やりたくても人手不足・時間不足で取組めないという行政担当者の声が多数寄せられていた。このガイドでは、そうした担当者の人たちもできるだけ負担感なく取組んでいけるように、試行地域の取組の具体例を盛り込みながら、新たな特殊なことではなく、小さなステップを踏みながらすぐできることがあること、既存事業や地域にある資源を活かしながらできる点を盛り込んだ。

#### ③「本人の意見をもとに本人とともにつくっていく」新しい発想・価値観や全体観を伝える

国の動向も踏まえて、担当者がこれからの認知症施策の方向性をコンパクトに知ることができるとともに、本人と共に進める施策の点検・改善が、二の次の取組ではなく、認知症施策全体や地域の他分野とも連動していく優先度の高い取組であり、付加価値が大きいことを伝える。



## <ガイドの構成>

### ○このガイドのねらい

#### 1. 認知症施策の方向性と自治体の取組の焦点

- 1) 国施策の方向性
- 2) 市町村の取組の焦点  
方針・視点  
本人視点・声を重視した支援体制作り  
初期の「空白の期間」の解消  
地域のひと・つながり・事業等が連動した実効性のある支援体制作り
- 3) 都道府県の取組の焦点
- 4) データでみる実態

#### 2. 本人とともに進める認知症施策改善の方策

- 1) 「本人とともに改善を進める」ための基礎固め
  - (1) 本人と共に
  - (2) 本人の声と力を活かすために  
本人が思いを声やカタチにするための環境作り  
本人ミーティング」を活かしながら.....
  - (3) 多資源との連動・協働  
多資源の主体性・力を活かした施策の改善  
地域の多様な人たちが集い、話し合い、一緒にアクション
- 2) 本人とともに進める改善のプロセス  
改善の全体的な流れ
  - ステップ1 点検ミーティング
  - ステップ2 点検アクション
  - ステップ3 改善プラン作り(点検結果ミーティング)
  - ステップ4 改善アクション

#### 3. 本人とともに進める改善の一步一步(事例紹介)

### 関連情報一覧

## 4. 報告会の開催

本事業の報告会を下記のとおり開催し、北海道から九州まで全国各地から参加申込があった。報告会終了後に、参加者を対象にしたアンケート調査を実施した。

○日時：平成31年2月9日（土）10：30～16：30

○場所：品川フロントビル会議室（東京）

○参加者：全216名（認知症の本人、家族、介護・看護・医療、研究者、報道、行政等）

※報告会資料は、[日本認知症本人ワーキンググループホームページ](#)でダウンロードできます。

平成30年度 厚生労働省 老人保健健康増進等推進事業

**認知症の人の意見に基づく  
認知症施策の改善にむけた方法論等に関する  
調査研究事業**

**認知症の本人と  
ともに進める  
認知症施策  
多様な取組報告を  
聴いてみよう！**

**事業報告会**



平成31年2月9日  
日本認知症本人ワーキンググループ

## 1) プログラム

予定時間	内容
10:30～10:45	開会 ごあいさつ ■検討委員長：栗田主一 (東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム研究部長)
10:45～11:00	本調査研究事業に関連して：情報提供 ■厚生労働省老健局認知症施策推進室 井上 宏 さん
11:00～11:45	事業概要とみえてきたこと ■検討委員：藤田 和子 (日本認知症本人ワーキンググループ) 永田 久美子 (認知症介護研究・研修東京センター)
11:45～12:45	昼 休 憩
12:45～16:00	試行地域からの報告 ■コーディネーター：永田 久美子 (検討委員)
12:45～13:15	【1】静岡県：静岡県の認知症施策 認知症の本人の声を起点としたやさしい地域づくり ■静岡県健康福祉部長寿政策課
13:15～13:45	【2】諫早市：誰もが望む居場所へつながるために ■諫早市健康福祉部高齢介護課 岩本 節子 さん ■福田 人志 さん
13:45～14:15	【3】藤沢市：認知症についてあなたの声を聴かせてください ～本人ミーティングから始まった共に創る暮らしと地域～ ■藤沢市地域包括ケアシステム推進室
14:15～14:30	休 憩
14:30～15:00	【4】上田市豊殿地区の取り組み ～当事者と共にすすめる地域づくり～ ■春原 治子さん・神林 芳久さん (「安心」の会) ■櫻井 記子さん (社会福祉法人 ジェイエー長野会)
15:00～15:30	【5】香川県三豊市立西香川病院 (認知症疾患医療センター) ■井川 咲子さん・渡邊 康平さん・野島 正光さん
15:30～16:00	【6】御坊市：認知症の人とともに築く 総活躍のまち“ごぼう” ■御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之さん ■御坊市在宅介護支援センター藤田 玉置 哲也 さん
16:00～16:30	まとめ・閉会

## 2) 主な報告内容

### (1) 事業の概要と見えてきたこと (日本認知症本人ワーキンググループ)

平成30年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業  
認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等に関する調査研究事業

## 事業の概要と見えてきたこと

1. 今回の事業の背景と目的

2. 事業の内容: 取組んだこと

3. 主な結果と見えてきたこと

4. これからに向けて



藤田 和子 検討委員

日本認知症本人ワーキンググループ\*  
代表理事

永田 久美子 検討委員

認知症介護研究・研修東京センター  
研究部長

\* 一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ (JDWG)  
認知症とともに暮らしている本人が主になって結成された全国組織。  
希望と尊厳をもって暮らしていける地域社会を創っていくことをめざして活動をしている。



## (2) 静岡県の認知症施策

■ 静岡県健康福祉部長寿政策課



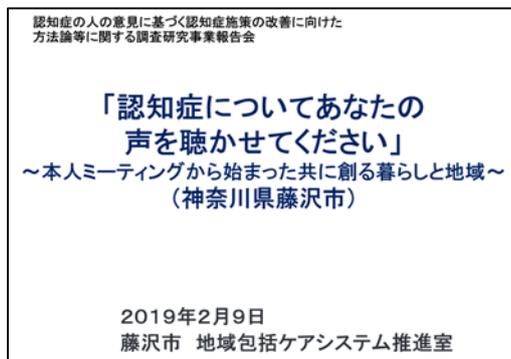
## (3) 諫早市：誰もが望む場所につながるために

■ 諫早市健康福祉部高齢介護課 岩本 節子 さん  
■ 福田 人志 さん



## (4) 藤沢市：認知症についてあなたの声を聴かせてください

～本人ミーティングから始まった共に創る暮らしと地域～  
■ 藤沢市地域包括ケアシステム推進室



### (5) 上田市豊殿地区の取り組み ～当事者と共にすすめる地域づくり～

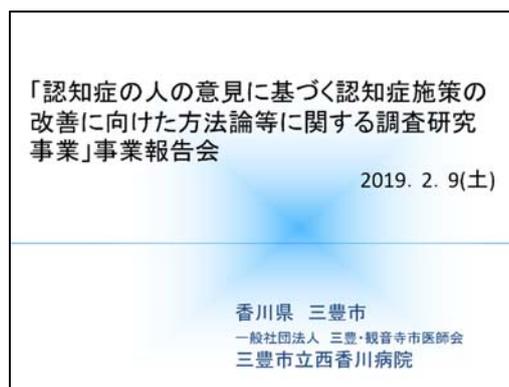
■春原 治子さん・神林 芳久さん（「安心」の会）

■櫻井 記子さん（社会福祉法人 ジェイエー長野会）



### (6) 香川県三豊市立西香川病院（認知症疾患医療センター）

■井川 咲子さん・渡邊 康平さん・野島 正光さん



### (7) 御坊市：認知症の人とともに築く 総活躍のまち“ごぼう”

■御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之さん

■御坊市在宅介護支援センター藤田 玉置 哲也さん

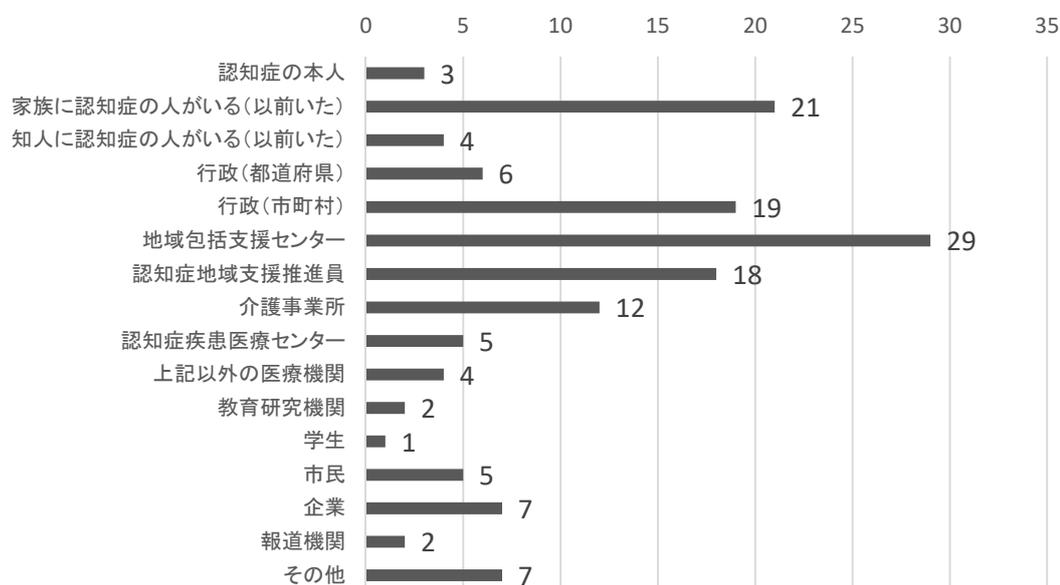


### 3) 参加者アンケート結果

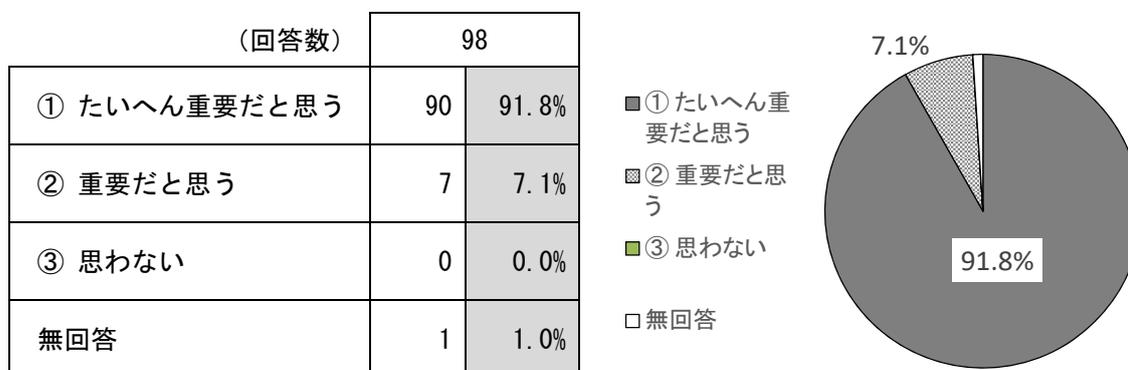
当日の出席者は216名、参加者アンケートの回答数は98だった。

#### <回答者の立場>

(アンケート回答数98/重複回答)



#### (1) 認知症に関する施策や事業を「本人の意見を聴き、本人とともに進める」ことについて



#### <寄せられた声(主なもの)>

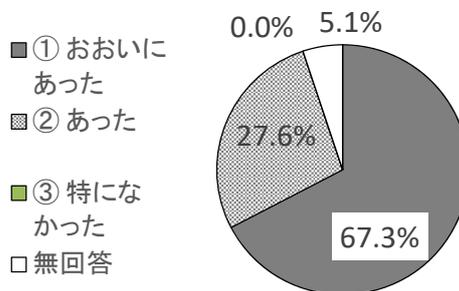
今、本市で必要なことは本人の意見による点検だと認識できた。今あるものを本人のためになっているか、本人の声をききたいと思う。	市町村/地域包括/推進員
支援者側視点の認知症施策は充実しているかもしれないが、本人視点の認知症施策は充実しているとは言いがたいと気がつきました。支援者視点の認知症施策の充実には単に行政他関係機関の自己満足におわっているように感じました。	市町村/地域包括/推進員

当事者の方の声を聞くのはあたりまえのことなのに、行政は一方的であったように感じてしまいました。何の施策でも、大変重要であると思いました。	市町村／推進員
国から示される事業を実施要綱に従い取り組むのではなく、本人の視点を重視し、真に効果があるかどうかを見極めてもらう上で重要と思う。行政の勝手に考えた仕組みでは受け入れられないと思う。力を入れる所を変えるべきだと感じた。	市町村
あたりまえのことなのに、いつの間にか、支援者だけで決めていることがある。でもそれは、本人の思いとはかけはなれていることが多い。	地域包括
実はあたりまえのことが今までできていなかったことは大きいことだと思います。	都道府県
「誰のための施策なのか！」が大事だと思います。	都道府県
思い込みで施策をすすめず、本人が本当に必要な支援をすることが大切。	都道府県
本人不在の施策は、行政の一人よがりだと思うから。	都道府県
支援を必要としているのは認知症の本人であり、制度・社会支援は本人のニーズにこたえるものでなくてはならない。また、本人の意見が反映されることが定着することで、今認知症を患っている人だけでなく、これからなるかもしれない人たちも安心して暮らせる地域づくりにつながる！	地域包括
本来、全ての事業の目的は、本人が満足・安心することだと思うので、意味のあること・取組みにするために必要と考えます。	地域包括
現在は主に認知症の人の家族や事業所を中心とした施策が中心となっており、認知症の人の意見をおろそかにする傾向がある。	市町村
当然のことなのに、長く行われなかったことを疑問に思わなかったことを反省した。シンプルなこと、ということば。そのとおりでと思います。	教育研究
行政や医療・介護の人は、ある意味、「外野」であると思う。当事者がより良く生きるためのサポートをするということならば、当事者の意見をきく、反映させるのは当然のこと。	市町村
本人のニーズや意見をきかないと、どういった支援を必要としているのかわからない。その中で、サポーターさんが活躍できる場に伝えていきたいと思う。	市町村／地域包括／推進員
認知症の方に対する偏見は専門職や行政の方々にも強くあることを感じます。ちょっとの聞きかじりで「こうした方がいい」「ああしたほうがいい」という会議の中で施策が作られるこわさがある。本人の意見は絶対必要だと思います。	地域包括／推進員
不必要な事業ではなく、必要とされる事業を行えることで、次のステップへもすすめやすくなると思う。ただ、行政としてすすめていくにあたり、人事異動で毎年担当が変わることで、なかなか継続も難しくなるので、国も行政も、同じ事業がなるべく3～5年ほど、担当が変わらない体制ができるといい。	市町村／地域包括／推進員

本人が重度であっても意思表示ができること、それを忘れてしまいがちになるため、あくまでも本人以外の視点となり、本人の思う生活に結び付かない。ともに考えることが大切であり、今後も相談支援に活かしたい。	地域包括/ 推進員
当然なことだと思います。家族会の大切さも知りました。家族会を作ってほしいと思います。「家族と本人」支援が大切だと思います。	本人
今まで、介護者側からみた講演会が多く、現実の目線の違いもあったように思う。	家族
本人だから本当の気持ちが話せる（ただし、気持ちを引き出すためには準備、技術、勉強が必要）	家族
将来、自分が生きる地域を自分たちで考える必要があるから。自分の人生を他者に決められたくない。	家族/事業 所
認知症当事者がどのように考え、感じているのか、私たち介護職は想像する中ではないが、本人の意見をきくことの方がより本人の求めている介護ができると思うため。	家族/事業 所
本人にとって使える施策や事業になっていくことが必要。認知症を内側から具体的な日々のことを伝えられるのは本人だから。本人が話してくれることで気づくことが多い。	事業所/学 生
今まで色々と考えてきましたが、本人の意見を取り入れる視点を今後考えていきたいと思います。毎日たくさんの方々と会うので、その中で話を聴ける人がたくさんいるのではないかと？すごくもったいない日々をすごしていたのではないかと反省した。	疾患医療セ
（企業の立場で）事業企画を立てる上で、顧客の意見を聞くのは当たり前であり、それが無い企画書を通す上司はいない。評価についても、顧客の評価なしで報告書を出す人はいない。行政が施策を進める上で本人の声を聞くことは必須である。	企業
今日の報告会まで、認知症の方が意見を言えると思っていなかった。できるということがわかったのは大きな収穫。意見・思いを伝えてもらうことは次を考える上で重要。	市民/企業
TV、雑誌等で取り上げることにより、「認知症」の周知は広まったが、「何もわからなくなる、怖い病気。絶対になりたくない」という認識が中心（「本人」抜きだったことが、それに拍車をかけた面もある）。「診断直後からの、そして最期まで、配慮があれば普通の生活を送れるし、その人ならではの役割もある」（ピアサポート、特技など）、その環境づくりこそが大切（これは認知症にかぎらず、超高齢社会の環境づくりも通じると思います）と理解できるように伝えることが報道を担当する私たちの責務だと感じました。	報道

(2) 試行地域の具体的な取組みを聴いて、あなた自身が「今後取り組んでみたい」と思った点はありませんか

(回答数)	98	
① おおいにあった	66	67.3%
② あった	27	27.6%
③ 特になかった	0	0.0%
無回答	5	5.1%



<寄せられた声（主なもの）>

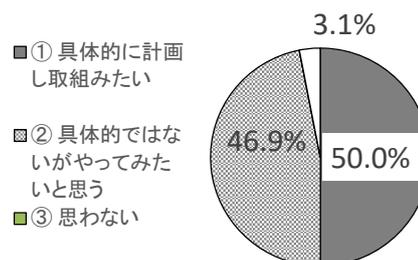
すべての地域の活動が参考になった。取り入れられるところはぜひ少しからでも取り入れていきたい。	市町村
すでに地域にある活動や現場の認知症地域支援推進員の日々の活動を活かして考えようと思った。	市町村
今おこなっている事業を見直し、できるところから（小さなことでも）したい。カフェを自ら行ってはいませんが、地域のカフェに出向いて本人と話をしたいと思います。	都道府県
何が（WHAT）必要なのか、なぜ（WHY）必要なのか、は様々なところでうたわれています。それはわかっているなーと思っていました。今日はどうやっているのか（HOW）がたくさんみつけられました。広報のしかたなど。自分たちもできるような気がしてきました！！	家族／地域包括／推進員
行政が主体でなくても、地域団体からでもはじめられることの事例を知ったので、できることから取り組めると思った。当事者一人からでもはじめる。ただ話をきくのではなくて、具体的な活動の内容に反映させていくことが大切だと感じた。	地域包括
事業を進めたいと思っはいても、具体案がなかったので、今回の取り組みを参考にしたい。本人の役割を見出すアイデアがたくさんあった。	疾患医療セ
イベント参加だけでなく、それが日々の生活につながらなければ意味がないと思うので、企画段階からご本人参画のもと、一緒に語り合い、考え、検討して実践していきたいです。いま、一人の地域のご本人とともに私たちのオリジナルの本人ガイドのようなものを作りたいと、ワーキングチームで活動していたので、今日の内容や本人ガイド、希望宣言などを参考にさせていただきながら、チーム会議をすすめたいと思いました。	家族／事業所

<p>・ご本人と関わるのがとても少ないのだなと気づかされました。「ご本人の思い・希望」を聴ける、話してもらえる関係を持てる人となることを目指し、自ら地域に出向く機会をつくっていききたいと思いました。</p> <p>・聞いて「それから」「その後」どうするかを作っていくことが、とても大切だと思ひ、具体的に「どう実行できるか」「どのようなゴールに向かって活かしていくか」という視点を持ち、業務にあたりたいと思ひます。</p>	市町村／推進員
<p>いろんな方とつながって取り組める立場であり、声があがった課題やその課題を感じている人とともに取り組んでいききたいと思ひます。</p>	市町村／地域包括／推進員
<p>まだまだ本人が参画しているものよりも、有識者が中心となっているものが多いと感じた。多職種連携でも本人が入ったらまた多様な支援方法を検討できると感じた。</p>	市町村
<p>本人が役割をもって活躍できる場、自分たちの暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場を考えていききたい。</p>	市町村
<p>地域住民の取組みを応援し、広げていけるような取組みを行いたいと思ひます。地域のよさが生きる取組みをかんがえたい。</p>	地域包括
<p>地域での認知症施策、全くされていない。このままでいいのか、いつも悩んでいた。この報告会が自分の行動の後押しになった。</p>	家族／事業所
<p>そもそも、県、自治体が本人参加の場をつくることができている地域。高齢者の生きやすい地域は、他の人も暮らしやすい地域。本人の意見をすいあげる場をつくりたい。</p>	市町村
<p>当事者の生の声を聞くことができ、本人抜きで事業ばかり進んでいってもだめと感じた。</p>	疾患医療セ
<p>認知症サポーターの講義（その講義を受けると、認知症になりたくないと思うと言われていた）を受け、取得したいと思う。</p>	市民／企業
<p>本人ミーティング開催から条例づくりまで、取組みのつながりが見えた。初期から重度まで声をきく。お世話になっております。思いをきいてみたい。それをどこかにつなげられないか考えたい。</p>	事業所／学生
<p>本人ミーティングでの参加が難しく、開催できないという気持ちが多かったが、参加してもらわなくても、ききとり調査という方法で本人の意見がききとれることがわかったので、関係機関と共有していけるといいと思った。</p>	市町村／地域包括／推進員
<p>本人ミーティングをきっかけに、意見をきくことが自然なことになりたい。</p>	市町村
<p>静岡県の担当者とお話させていただき、市町村が取り組める「環境づくり」が大きな役割と教えていただきました。できることから始めてみたいと思ひます。</p>	都道府県
<p>かめキッチンのような居場所＝就労場所、生きがい、お互いさま・支え合い</p>	疾患医療セ

(香川) ピアサポートの必要性を理解できた。前向きに変わったMさん夫婦のお話で、専門職ではなく本人が妻にアドバイスしているが説得力があると思った。 (諫早市) 模擬訓練も実施しているが、本人の気持ちを理解してから開催したい。	市町村／地域包括／推進員
上田市ローマンうえださんの取組みが一番印象に残った！ACP について真剣に取り組まなければと思いました！	疾患医療セ
御坊市さんの取組みはすばらしかった。思いが一緒のメンバーだからこそ、本当のワーキングチームだと感じた。かかわっているメンバーが認知症本人と楽しみ、一緒に考えている点も自然でいいと感じた。	地域包括／推進員
大きな活動をしているわけではないが、小さな主に家族を中心としたサポートグループをやっています。次回はご本人にやってもらおうと思っているのですが、どういふうにやったらよいか、ヒントを得られました。	教育研究
周囲が「してあげ」れば早い⇒本人ができることは待つ。子育てでは待てる(難しいときも多々あるが) のに、認知症サポートや高齢の親への対応ではなかなか待てない。私はせっかちなので、まず老親への接し方から気を付けたいと思いました。	報道
認知症の方本人の意志をもっと聞くことがあらためて大切だと思ったので、施設に入居されている人にお話しようと思った。入居者の方と関わる中で、どうしても上から目線になってしまうことがある。本人の意見もあり、守ってあげるではなく、本人が活躍できることとまではいかななくても、やれることをみつけ、本人ができる場所を作っていけるようにしたい。	家族／事業所
初期、中期、後期、それぞれの本人の声をきくことも必要 (やってみたい)	知人が認知症
講演をやってみたい	本人

### (3) 「本人ミーティング」等、本人の声を聴くことを自分自身のまちでもやってみたいと思いますか

(回答数)	98	
① 具体的に計画し取組みたい	49	50.0%
② 具体的ではないがやってみたいと思う	46	46.9%
③ 思わない	0	0.0%
無回答	3	3.1%



### <寄せられた声(主なもの)>

これから必ずやらなければと痛感しています。	本人
自分自身のまちで行政が主体となり、やってほしい	家族
今年度、本人ミーティングを一度実施しました。6名のご本人の方に参加いただき、来年度についても実施できればと思っています。	都道府県
どこかの市町村で取り組んでいただけるよう支援していきたい	都道府県

#### (4) 感想 (おもなもの)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な立上げ方がわかりやすく良かった</li> <li>・自分たちの地域の特徴もふまえて自分の地域らしい本人ミーティングにつなげたい</li> </ul>	地域包括／ 推進員
<p>いつもたくさんの気づきとヒントをいただくことのできる研修をありがとうございます。「感動した」だけで終わらせることなく、必ず業務に活かしていきたいと思いました。</p> <p>認知症の本人の声をきちんときいていくことがこんなにも重要な声だということをはじめて実感したように思いました。</p>	市町村／推 進員
<p>忙しい中でこの講座に参加することに批判の声がありましたが、上司の後押しで参加できたことは非常に有意義で感謝しています。帰ったらできる所から行っていきたい。</p>	市町村
<p>今まで何回か同じような会に参加したが、今回が一番わかりやすかった。</p>	地域包括
<p>今日はあいにくの天気でしたが、きてよかったです。明日からの仕事の元気とパワーをもらいました。</p>	市町村
<p>参加するたびに前向きな気持ちになります。活動を支援していくのは大変だと思いますが、広く自治体への支援をお願いします。</p>	市町村
<p>本当に多くのことを学ぶことができました。</p>	市町村
<p>参加して良かったです。有意義な時間でした。モチベーションが上がり、自分の地域でやれそうなことを思いつき、同じメイト会のメンバーと共有することもできたからです。</p>	地域包括／ 推進員
<p>すばらしい報告をありがとうございました。大きなことはできませんが、1つ1つ積み上げていきたいと思いました。</p>	都道府県
<p>本日は参加させていただき、大変勉強になりました。今後の認知症施策に向けて、本日の報告をつなげていきたいと思いました。</p>	市町村／地 域包括／推 進員
<p>大変有意義な催しだった。</p>	家族
<p>誰のための何のための活動なのか、目的、目標をしっかりみつめなおす機会となりました。</p>	家族／事業 所
<p>長時間で少しきつかったですが、認知症ご本人の活躍は目からうろこでした。</p>	家族
<p>とても感動の多い報告会でした。心に響きました。これからの仕事に活かしたいです。</p>	地域包括
<p>とてもよい刺激になりました。各地の先進的な取りくみが全国に普及したらと思う。</p>	市町村
<p>取組みは行政の理解、関わり、考えが重要だと思う。1人の話をきくことから広がっていくことを実感した。</p>	地域包括

なかなか聞けない本人の声をたくさん聞くことができました。今後も参考にして検討していきたいと考えています。	市町村
何か特別なことでなく、今していることの施策・事業の視点・目的・方法を見直してみたいと感じました。	地域包括
色々な団体の取組みをきくことで「本人ミーティング」のボンヤリとしていたイメージがくっきりと具現化できるようなイメージをもつことができました。	地域包括
同じような取組みは行っています。まだまだ地域と手を組み、広げられる課題がたくさんあると感じました。当事者の生の声を聴くことでたくさんの気づきがあり、安心して暮らせる地域づくりに重要なことを教えていただきました。	疾患医療セ
きっかけづくり、しかけも地域の人、認知症の人が最初から中心になって進めていくー認知症の人、本人を大切にしていくことが基本だと、日本認知症本人ワーキンググループの取組みにも参加して、つくづく実感しています。	地域包括
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の方の言葉、話を聴けて良かった</li> <li>・まだ医療関係者、D r . にも認知症に偏見、正しく理解されていない方がいる。その部分を変えていきたい</li> <li>・支援される人と支援してあげる人の意識も変えていきたい</li> <li>・静岡県のHPが楽しみです</li> <li>・「本人座談会」のDVDを活用させていただいています。・本人の声中心の発表でよかった（用意してきた資料をよみあげるのではなく、生きた発表だと思いました）</li> </ul> <p>認知症事業担当になって3年目ですが、すごくいい報告会でした。来て良かったです。</p>	地域包括／ 推進員／その他
外来やカフェでご家族からお話を受けることはあるが、なかなか、ご本人とお話することが少ない。日々それでよしと思っていたが、それではいけないことを改めて学びました。	疾患医療セ
ご本人が参加する報告会が開催できること、認知症施策は日々進化していることを肌で感じることができました。誰もが安心して年を重ね、よりよく生きていける地域をできるだけ早く作りはじめないと自分が年をとるスピードの方が早いと思うと、こわくなる。	都道府県
「共に生きる」「やさしい」発言力のある方の固有名詞。現状では十分？かもしれないが、名もなき声、声なき声が聞こえるところまえ下げていくことができるのか？この会での登壇者以外の認知症本人の参加人数が何人いたのか気になった。	本人／家族 ／知人が認知症
訪問リハビリでお話を聴く際、もっとしっかりご本人の意見を意識し、その意見を実現することまで考えていきたいと思いました。	家族／医療 機関
本人が中心として、本人とともに、さまざまな立場から背中をそっと押していくことの大切さを再確認できた。そして、本人がキラキラする社会が希望になった。	事業所／学 生

本人の声を聞いた時、今まで感じたことのない思いが湧いた。その時から、地域づくりの考えも変わった。「本人」も認知症になっても普通だよ、と知っていると感じ、さりげなく接することの大切さを感じている。	地域包括/ 推進員
本人の声をきく場合、対面して会話の中から拾うより、イベント・事業などを通じて互いに理解（背景や価値観など）して、人間関係を構築し、地域生活にもつながっていくあり方がいいのではないかな。	家族/医療 機関
本人の声をどうやってもうまくきけるのか。勉強してみたい。	市民/企業
本人ミーティングの開催の仕方から本人に聞いてみたいと思います。これから本人ガイドを配布するため、配布しながら本人の声をききたいと思います。	市町村/地 域包括/ 推進員
今回の報告会に参加し、自身の市が実施しようとしていることのうすっぺらさをつくづく感じました。「ただ、実施すればいいんだ」、しかも1回ぐらいやっとけば！みたいな考えの行政の人間に今日の報告会に出席してほしかった。市の協力などなくてもできる！！	地域包括
サポーター養成講座が「聞いてよかった。認知症になっても安心」と思える当事者視点の内容に検討できると良い。どこか自分自身の中にネガティブな感覚があるのかもしれないと改めて考えさせられる内容であった。 カフェの中での本人の役割がすばらしく、専門職が学ぶべきことがたくさんあると感じた。地域で本人に出会えないのではなく、出会おうとしていないので出会えないのだと思う。	推進員
試行プロジェクトのプロセスを詳しくお聞きしたかったのだが時間が足りなかったようでした。点検ミーティングでの工夫、点検アクションをしての課題など、各発表の中では触れていませんが、順々にまとめているようでしたらまた教えていただきたいです。	家族/企業
大変勉強になりました。現在、実父は認知症で要介護5なので、もっと早く本人ミーティングを広めてほしかった。	家族/企業
全国での先進的な施策を学ぶことができ、大変充実した会だったと思います。きいた事例の中から、自地域でできることを少しでも早くはじめていきたいと思いました。 認知症になっても誰もが人権を保障され、尊厳をもって生きていくことができる地域づくりには、本人の声をきき、ともに取り組んでいくことなしには、なしえないと改めて実感しました。 認知症になったら支援を受けるだけの立場になるのではなく、就労を含む社会の中で役割をもって生きていけることが大切なのだと考えさせられました。 「認知症にやさしい」という言葉には、自分も違和感をもっていました。御坊市の条例づくりが、皆がそのことについて考えるきっかけになることを望みたい。	地域包括

<p>小さな市が苦勞しながらいろいろな取組みを行っているのは大変素晴らしいと思う。しかし、国や都などの大きな行政機関はきれいな資料づくりで終わっているのではないか？研究機関の成果やノウハウをうまく活かせていない。今日の発表をスタートとして、このような活動をもっとアピールしていく必要がある。Q&amp;Aの時間もほしい。</p>	<p>企業</p>
<p>認知症の本人からの意見（思い）を聞くことができ、とても勉強になった。自分が認知症であると認めることはとても大変なことだと思う。（自分の両親をみても）。本日参加して、自分が生活している地域ではどのように取り組んでいるか確認し、自分で協力できることがあるか探してみたいと思った。</p>	<p>その他</p>
<p>福祉事業所（施設）は認知症当事者の集まり。本人の声を聴くのはあたりまえ。もっと本人の声を聴きたい。事業所で本人ミーティングをしてみたい。もっと行政や地域の人が集う場所づくりをしたい。行政の人が地域に出ている自治体、うらやましい。</p>	<p>家族／事業所</p>
<p>福祉の枠を越えた施策への展開が楽しみです。</p>	<p>企業</p>
<p>藤沢市の取組みが大変勉強になりました。わからないこと、課題があっても、それを共有しながら、次につなげようとする姿勢に好感をもちました。このような取組みから始める自治体が増えればいいと思います。</p>	<p>市民</p>
<p>普段、色々な取組みをやっていると思っていましたが、本人の意見、本人の希望を取り込む視点に欠け、つい周囲の視点が中心となってしまっている。しかし、家族の生活・思いもあるので、その中間、みんなの思いを大切に仕事をしていきたいと思います。</p>	<p>疾患医療セ</p>

## 第3章 考察・まとめ

### ～認知症の本人の意見に基づく認知症施策の改善にむけて～

#### 1. 認知症の本人が参画する施策展開への転換期

##### 1) 「施策への本人参画」の今後の推移に注目

今年度実施した全国調査の結果から、都道府県、市区町村ともに、認知症施策等への本人の参画状況は、計画作り、評価、見直し、いずれに関しても、まだかなり低率にとどまっていた。

一方、別の見方をすると、10年前には皆無に等しかった認知症施策への本人参画を実際に進め始めた自治体が、一部であっても出てきていることは重要な変化といえる。

現在は、本人不在のまま支援者側の視点で認知症施策を進めるオールドカルチャーの施策展開のあり方から、本人が参画し本人視点にたった施策を進めるニューカルチャーの施策展開への大きな転換期といえる。

施策への本人参画は、言うまでもなく理念や形式のためではなく、認知症とともに今を生きている本人一人ひとりがよりよく生きていくためには不可欠なことであり、当事者である本人から切望されている点である。

本人参画がどの程度伸びていくか、今年度の全国調査結果をベースラインデータとして、経年的に本人の参画率の推移をモニターしつつ、全国すべての自治体での本人参画の実現を着実に推進していくことが重要である。漠然とした目標ではなく、たとえば認知症施策や地域包括ケアシステムの一つの目標年とされている2025年までには、全国すべての都道府県、市区町村で認知症施策への本人参画が実現していることを目指す等、明確な目標年を設定しながら推進していくことが必要と考えられる。

##### 2) 本人参画を形骸化させないための考え方や方法論の早急な浸透が必要

多様な認知症関連の事業が急ピッチで進められつつあるが、「実施している」という形だけが先行し内実が伴っていない問題が様々指摘されている。

認知症施策への本人参画も、そのための根幹的な考え方や実質的な方法論を全国の自治体に早急に浸透をはからないと、形骸化する恐れが多分にある。すでにその状況が生じてきていることを危惧する発言が検討委員会でも相次いだ。

今年度の全国調査結果では、認知症施策・事業等について本人の意見を聴く今後の計画に

関して、「平成 31 年度以降の実施を検討したい」が、都道府県、市区町村とも 50%を越えており、本人参画に取り組む自治体が一気に増えることが予想される。

数が増える時期は、良質なあり方が根付くための重要な導入期でもあり、平成 31 年度（2019 年度）は、本事業の研究成果を行政、多職種の関係機関、当事者、市民等様々なチャンネルを活かして、発信・普及を図っていくことが重要である。

### 3) 急がれる自治体較差の解消：本人にとっての切実な課題

本年度の調査結果から、認知症施策への本人参画は、都道府県によって実施状況や担当者の認識、実効性にかなりの較差があることが明らかになった。また、市町村によっても同様な状況が確認され、調査結果からは、都道府県のあり方が、市区町村の実施状況を左右していることが示唆された。

検討委員の本人からも「たまたま住んでいるところによって、行政の姿勢や取組に大きな違いがあつて残念」「自分が認知症とともに生きていく大事な時間、日々が、行政のあり方で大きく左右されるのはおかしい」という発言も聞かれ、自治体の取組の較差は、今認知症とともに生きている本人からすると深刻な課題である。

今年度の全国調査結果では、「認知症施策・事業等について本人の意見を聴く今後の計画」が平成 31 年度以降も予定なしが、都道府県の 8.5%、市区町村の 32.9%にみられている点に着目しなければならない。

今年度の研究事業の成果が、本人参画をすでに進め始めている自治体において、取組をさらに拡充させていくために活かされることが望まれるとともに、まだ当面、本人参画を想定しない自治体に焦点をあてて重点的に活かされていくような方策を、2019 年度以降計画的に進めていくことが必要と考えられる。

## 2. 認知症の人の意見に基づく認知症施策等の改善を進めていくための、「実践的考え方」

### 1) 「考え方」の重要性：舵取りや実質の推進に不可欠

全国調査の自由記述の回答の中には、年々国の認知症施策が急ピッチで拡充されていく中で、やらなければならない事業や業務が山積し、「人手や時間がなく、認知症の本人参画に取り組む余裕がない」「新しい事業で手いっぱい、本人参画の取組は優先順位が低い」「必要性は感じているが、現実には無理」といった切実な回答が数多く寄せられていた。

一方で、そのように回答した自治体と人口規模や高齢化率等が同程度の自治体であっても、本人参画を積極的に進めている自治体も見られ「従来のやり方と発想を変えていくことがまず必要」「考え方が重要」という回答が寄せられていた。行政担当者だけの問題ではなく、その担当者を取り巻く環境についての考慮が必要であり一概には言えないが、認知症施策を舵取りする行政担当者の考え方が、その地域の本人参画の進捗を左右している状況が見られた。

また、試行地域の行政担当者からも、「はじめは、本人の意見を聴くことや本人ミーティングを開催するカタチだけにとらわれ、当初取組が上手く進まなかった」「上司や職場内にそうした発想がなく、自分からうまく説明ができず苦労した」等、考え方をめぐり苦慮した体験や意見が寄せられている。

各試行地域ともに、本人の意見を聴きながら施策の点検・改善に取り組む過程では、行政はもちろん、地域の多様な職種や多分野と連携・協働を図るための合意形成の連続であり、考え方（知識としてだけでなく、行動していくための原動力となる考え方）の重要性が各地域から示された。

## 2) 本人が参画した認知症施策の改善を実装するための「実践的考え方」の必要性

国は新オレンジプランで、今後の認知症施策の基本的考え方として、以下の重要な内容を明示している。

- ・認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要
- ・認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す
- ・（七つの柱を貫く重要な柱）認知症の人やその家族の視点の重視

新オレンジプランが発表された2015年1月以降、これらの考え方は自治体の認知症施策担当者に急速に広がり各自治体の事業等の実施に当たっては必ずと言っていいほど掲げられる考え方になってきている。一方で、今回の全国調査で明らかになったように、その考え方と実装との間には大きな隔たりがあり、基本的考え方に施策を展開する行政現場がついていない現状が浮き彫りになった。

新オレンジプランの対象期間である2025年までに、プランの目標値と同時に、その内実の充実をはかっていくことが急務であり、これまで国が明示した「基本的考え方」を自治体での実装につなげていくための、現場に根ざしたより具体的な「実践的考え方」が必要とされている。

### 3) 本人が参画した認知症施策の改善を進める原動力となる現場発の「実践的考え方」

今回の試行地域が取組んだプロセスの中で、本人が参画した改善が進展するためのポイントになった「現場発の基本的考え方」は、表の5項目に整理された。

いずれも、国が掲げてきた「基本的な考え方」と同一線上でありつつ、理念で留まらず、課題山積の中にあっても現実をよりよく変えていくために現場の人たちが編み出した、より自然体で（構えず）、ハードルの低い、現場発の「実践的考え方」といえる。

なお、これらは、本人からするときわめてあたりまえのことであり、これら現場発の実践的考え方が、今後、行政内部はもちろん、関係する専門職（医療、介護・福祉、教育、法律等）や地域の人たちにも、広く普及していくことが望まれる。

表 「実践的考え方」 ～本人の意見に基づく認知症施策の改善にむけて～

\* 試行地域の取組経過より抽出

実践的考え方	意味・内容等	これまで示されてきた関連する「基本的な考え方」や表現等
①一人ひとり本人が思い、力、暮らしを大切に、地域でよりよく生きていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症」の人という認知症を入口にした考え方・見方ではなく、あくまでも一人の人として考える。</li> <li>・認知症になってからだけではなく、なる前の段階から、こうした発想を広げる。</li> <li>・施策は手段であり、目的は「一人ひとりが主体となって、自らの思い、力を活かしながら地域でよりよく生きていくこと」。</li> <li>・本人の認知症の状態や年代等によらず、すべての人は思いや力、可能性を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思の尊重</li> <li>・尊厳</li> <li>・本人視点</li> <li>・自立（支援）</li> <li>・自己決定/意思決定(支援)</li> <li>・共生</li> </ul>
②本人とともに創る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人は、施策や支援を一方向的に受ける側や、意見を聞かれる「対象者」ではなく、よりよい施策や地域を自らも参画して創っていく一員。</li> <li>・すべての段階で、「本人が参画する」ことをあたりまえにして進める（形だけの参画ではなく、実質的な参加を）。</li> <li>・既存の施策やサービス（メニュー）から見た発想やそれらをこなす発想ではなく、本人がよりよく生きていくために必要なこと・支援等を（新たに）創っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく</li> <li>・できるだけ住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現</li> </ul>
③現場に出向き、本人と話し合い、つきあう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来るのを待つ、来るように集めるのではなく本人や関係者がふだんいる場に出向く。</li> <li>・本人の状態によらず、本人と向き合って対話をする。本人抜きに家族や関係者とだけ話さない。</li> <li>・立場や用件優先で関わらないで、本人とまず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要</li> </ul>

	は、人と人としてふつうにつきあう。 *本人にとって、関わる人は、環境の重要な一部	
④地域で一緒に楽しく活動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた場の中だけで取り組むのではなく、常に本人と地域とのつながりを大切に</li> <li>会議室や建物の中だけで、意見を聞いたり、施策の点検・改善を机上だけではなく、地域で楽しい活動を一緒にしながら、本音を聞き、施策の点検・改善と一緒に具体的に考え、動いてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会参加活動</li> </ul>
⑤本人の日々の流れにそって柔軟に取組み、息長く続ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>関わる側の都合やペースで進めない。 (本人の参画や意見表出のチャンスを奪わない)</li> <li>本人の参画や意見を聞きながらの改善は、時間がかかって当然であることを前提に、最初から予定を決めすぎたり、計画通りに進めることを優先しない。</li> <li>本人の参画状況に沿いながら「本人とともに進める」ことを守っていく。(次第に関係者側のペースになってしまいがち)</li> <li>単年度で完結しようと思わず、年単位で展望をもち、継続的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要</li> <li>2025年を目途に、介護保険事業計画の策定にあわせて</li> </ul>

### 3. 認知症の人の意見に基づく認知症施策・事業の点検と改善のための方法

#### 1) 「展開ステップ」をベースに、地域の特性や文化に応じて柔軟に

11の試行地域での取組経過をみると、試行のスタート時点で提示した4段階の「展開ステップ」が取組を進めていく上での基本フレームとして機能していることが確認された。「展開ステップ」は、一般的なPDCAサイクルに準じたものであり、どの自治体や地域でも、この「展開ステップ」を一つの指針にして進めていくことが有効と考えられる。

なお、「展開ステップ」の4段階は、いずれも「本人と関係者とが対話していくこと」が重要な要素になっており、この対話の機会を、本人と関係者にとってどのように無理なく、継続的につくっていきけるかが、この取組の一つの鍵になる。

今回試行した11地域は、人口規模や地理的条件、地域にある資源の質量等の地域特性や、認知症の本人が自分の意見を表出することに関する本人・家族を含めた地域全体の意識や関係性、地域で気軽に話し合う習慣や場の存在等の地域の文化が様々であり、地域の特性や文化を活かしながら対話の機会を生み出す工夫が成されていた。

展開ステップにあわせてこなさなければというより、本人との対話を少しずつ深めながら、本人とともに施策等の点検・改善のアクションを進めていくという、展開ステップ全体のね

らいや流れを参考にして、それぞれの自治体や地域に応じた進め方を柔軟に工夫し改良していくことが望まれる。

## 2) 取組を進める上でのポイント

### (1) スタート時点や取組途中での「実践的考え方」の共有・応用が重要

認知症の人の意見を聞きながら認知症施策・事業の点検と改善を図る取組は、本人はもとより、本人の家族や支援者、取組の関係者等、関わる人がかなりの数に上る。特に取組のスタート時点で、表に示したような「実践的考え方」を、関わる人同士で丁寧に話し合い、理解・共有を図ってから進めていくことが望まれる。

今回の試行地域では、最初は頭で理解したつもりでも、取組を進めていく過程で、行政や関係者側のペースで進めてしまったり、本人の参画抜きで関係者だけで話し合ってしまった場面も見られた。

例：後から「あの話し合いに、本人を呼べばよかったね」「本人も参加できたはず」等、スタート時点はもちろん、取組の途中段階でも「実践的考え方」を参考にその時々の方針や進め方を確認し、具体的な動きをよりよく調整していくことが必要である。

### (2) 小さな規模でまずはやってみること：本人意見をもとに改善の連鎖が生まれる

試行した 11 地域の関係者から共通して、以下のような報告が寄せられている。

- ・スタートする前は、自分の地域で可能なの不安だったが、スタートしてやってみながら、だんだんと考え方や取り組みの流れがわかるようになった。
- ・最初、「展開ステップ」といわれてもピンとこなかった。でも展開ステップを 1 サイクルやってみたら、ごく当たり前の流れだった。
- ・「本人の意見に基づく認知症施策の点検・確認」といったタイトルがものすごくハードルが高く、今年度取組むかどうか迷ったが、いつかは必要なんだから、とにかくやってみようと思った。やってみたら、ふだんやっていることを活かせば、できることがたくさんあって、自分で難しく考えすぎていたことに気づいた。やってみてなかったら、ずっと手つかずで先送りしていたと思う。これからという地域の人たちには、まずは、迷わずに、やってみることが一番、と伝えたい。

大がかりに考えるとなかなかスタートがしきれないが、今回の試行地域では、意見を聞く本人が 1 人～数名と小規模で始めたことで、本人の意見を丁寧に聞き、活かしていった地域が多い。

少人数の本人の意見を一つからでも大切に活かすことで、小さな改善やすぐできる新たなトライアルの糸口がみつかったり、協力者がつながり始めて、点検・改善の動きが連鎖

的に生まれ広がった試行地域が多い。

一人の意見のみであっても、それをもとにした改善アクションをつうじて、その本人のみならず、地域の他の本人たちにも役立つ場合も多く、本人そして関係者、地域の人たちの改善へのモチベーションや協働が強まっていく流れが生まれていた。

なお、取組に参画した本人から、喜びや楽しさ、自信につながった、役に立てるならもっとやりたい等の声が多数聞かれている。

また、各地域とも展開ステップを進める過程の中で、すぐに改善にはつながらなくとも、地域の当事者や専門職、住民等に役立つ気づきや情報、アイデアが数多く生まれており、「本人の意見を聴きながら施策や地域を共に改善していく」あり方や方法に賛同し、継続的に取組んでいきたいという自主的な動きがみられている。

今回の事業で作成した自治体向けの「認知症の本人とともに進める認知症施策改善ガイド」を参考に、自治体や地域で、まずは小規模でいいので、取組みをスタートすることが期待される。

### (3) 本人との出会いのきっかけ

#### ①地元には意見を伝え改善に参画したい思いのある本人、それを後押ししようという人がいる

全国調査では、「地域には意見を言えるような本人はいない」「そうした人に出会えない」といった自由記述が多く寄せられており、今回の試行地域の中にも、試行スタート時点で同様な悩みを抱えていた地域が見られた。

実際に、試行してみた結果、地域特性や地域文化の如何に関わらず、すべての試行地域で、自分なりの意見を伝えたい、改善に役立てるならうれしいと参画したい思いのある本人がいた。

「取組む」方針を決め、アンテナをはることで、意見を語る「本人」が身近にすることが分かり、つながりと取組が進んでいった。試行地域で特に重要だったのが、地域密着型サービスや認知症の専門の医療機関、地域の集い場などを地域に根ざして運営してきている関係者等、ふだんから認知症の本人たちと関わり、その声を聴き、日々の暮らしや地域とのつながりを支援している人たちの存在である。すべての自治体に、そのような人たちがいるはずであり、本人以前にまずは、「本人の声を大切にしていきたい」「認知症の人の暮らしと地域をよりよくしていきたい」という願いを持って地道に活動している人たちと行政関係者が出会い、話し合い、一緒に取組を進めていく関係、チームを少しずつ育てていくことが必要である。

ややもすると、行政とそれら現場の関係者との間には、何らかの壁が生じている場合も多いが、この取組をきっかけに、方向性を併せて一緒に取組む関係が育っていくことは、この取組が年々、持続発展していくために、また、この取組だけではなく認知症施策全体が発展していくために重要である。

## ②現場に出向いて、一緒に過ごし、本人とつながる

行政が取組のチラシを配ったり、関係機関に呼びかけているだけでは、なかなか本人と出会えない場合が多い。

人口の大小にかかわらず、どの自治体でも相当数の認知症の本人がおり、地域のどこかで過ごしている。医療や介護の現場や地域の集い場に出向き、短時間でも一緒にその場で本人らと時間を過ごす体験等をしていく中で、話したい本人や支援者に出会い、顔の見える関係の中で、取組への参画につながっていくことも多い。

対象者を集める発想ではなく、地域で暮らし、声を伝えたいという思いを持っている人たちと出会うこと・つきあうことを大切に、取組を進めていくことが望まれる。

そのことは、人口規模の大きな自治体ほど意識して行う必要があることが、試行地域から指摘されている。

## ③他地域ですでに発信している本人の力を借りる

本人と自治体内でなかなか出会えない場合、近隣自治体等ですでに発言や活動を始めている本人の参画を依頼しその人とともに取組みを進めた試行地域も見られた。その人の姿や声に触発されて、地元の本人たちの中から自分もやってみたいという人が現れ、つながりが生まれていた。

いずれにしても、他地域の本人と共に進める場合、あくまでも地元の本人が声をあげやすくなって地元の本人の意見に基づく改善が進むことが目的であることを関係者がしっかりと確認しながら取組みを進めていく必要がある。

## (4) 本人が自ら思いを表出していく力を伸ばす

展開ステップの4段階すべてにおいて、本人自身による何らかの表出が必要となる。意見をどう聞くかではなく、「本人がどう心の中にある思いを伸びのびと出せるか」が重要である。

本人の中には、思いはたくさんあっても、どう表していいか迷っていたり、上手く伝えられずに苦い思いをしている人も多い。

認知症はあっても、自分から表出していく力を伸ばしていくことの可能性は大きく、今回の試行地域で参画した本人の中には、参画する回を重ねるごとに、発言の量も質も充実

して言った人が少なくない。

認知症だからうまく話せないと決めつけたり、少し意見をきけたからそれでもういい、とみなしてしまわずに、一人ひとりが、内にある思いを少しずつ上手く出していけるよう、本人と一緒に工夫を重ねていくことが大切である。

今回の試行地域の中には、参画した本人とともに地域のなじみの人や同世代の人たちにも取組に加わってもらった地域があり、かなり認知機能の低下が進んだ本人であっても、地元の話題や共通の生活体験等を通じて、思いがけない一言がでて、それがその後の点検や改善アクションにつながっていった地域もみられた。本人が秘めている可能性の大きさ、そしてそれを本人が表せるための地元の（なじみの）人たちの存在の大切さが示されており、今後の他地域での取組に活かされていくことが望まれる。

なお、本人が思いを表出していくための重要な場として「本人ミーティング」を活かしていくことが期待されており、今回の試行地域でも、本人ミーティングを中心におきながら取組みを展開した地域が見られた。全国調査の結果から、現在、本人ミーティングを既に始めている自治体が3割程度あり、今後新たに取組む自治体も増加中である。本人にとっては貴重な場である本人ミーティングを楽しい話し合いの場で留めずに、本人の意見に基づく施策の点検・改善につなげる場として活かしていくことが、自治体にとっても、また参加する本人たちにとっても有意義であると考えられる。

この取組を通じて本人が表出力を伸ばしていくことは、この取組だけではなく、ふだんの医療や介護、後見等の点でも重要であり、今後ますます重要になる「意思決定支援」の基盤になっていくと考えられる。

本事業で作成した、「私たちのまちづくりアクションガイドー私たちの声と力を活かそう」は、本人自身にむけて自分の思いを表出していくことの呼びかけとヒントをまとめたものであり、このガイドを活かして、自らの思いを表出していける人が1人でも増えていくことが期待される。

#### **(5) 本人の意見をもとに改善を生み出すために**

試行地域での本人の意見の多くは、日々の暮らしの体験に根差した具体的な内容であり、意見を聞いておしまいにしたり、そのまま記録の中にねむらせておいたりせず、改善アクションに向けて本人そして関係者との話し合い、できることから即動いていくことが、この取組の肝心な点である。

その際、限られたメンバーだけで話し合っていると、本人の意見を改善につなげるアイデアがでなかつたり、改善のための実働につながらないことが起こりがちである。改善

プランづくりの段階で、本人から出た意見を、個人情報に配慮しつつも、地域のより多様な専門職や異分野の関係者、地域の人たちにも伝えて、改善につながるアイデアや資源がないか、実際にできることがないかなど、幅を広げて話し合ってみることで、改善につながった試行地域も多い。

いきなり施策の改善というより、小さな意見をもとに、ふだんの中ですぐできる改善に取り組み、その成功体験を積み重ねていったことが、施策や事業の改善に発展していった地域もあった。

また、改善アクションに関する話し合いがきっかけで、地域の専門職同士や専門職と異分野の人たち、地域の人たちの新たなネットワークが生まれた試行地域も見られている。

「本人の意見に基づく施策等の点検・改善」を大上段にとらえず、各自治体で、一人の小さな意見を大切に、地域の多様な人たちがつながりあって、協働でアクションしていく動きを活発にしていくことが大切と考えられる。

#### **(6) 本人の意見をもとに認知症と共に本人がよりよく生きていく経過全体のための**

##### **施策・地域づくりへ：多様な事業や資源の連動をはかり統合した施策の展開へ**

今回の試行地域では、認知症のごく初期段階の人から、言葉がすでに出にくくなって施設で暮らしている段階の人まで、幅広い段階の人が参画して取組みが展開された。

そして、本人たちからは、時間軸で見ると、過去、現在、将来に関しての思いが語られており、今後、この取組を地域で続けていく中で、初期の空白の期間の解消も含め、本人が認知症とともに生きていく経過全体をカバーしていくための地域づくりを推進していける可能性が、今回の試行を通じて見えてきている。すでに作成された認知症ケアパスをより本人視点から点検・改善していくことにもつながることが期待できる。

本事業の取組は、各自治体の認知症施策全体を地域で暮らす本人とともに拡充していくための起点となる取組といえ、市町村そして市町村を後押しする都道府県とともに、取組の着手と実アクションを継続して行っていくことが望まれる。

## おわりに

一人ひとりが声と力を表し、

希望をもってよりよく暮らしていく地域をともにつくる

最後に、本調査研究事業を、認知症本人が主となって活動している日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）が厚生労働省から委託されて実施したことの意義を確認しておく必要がある。

本事業は、「認知症施策を作る時に、認知症とともに生きている私たちを入れて、よりよく変えてほしい」「本人の声を行政に届ける仕組みがほしい」「希望を持って生きていける施策を一緒につくっていききたい」という本人の声が、厚生労働省に届いて実現にいたった。本人があきらめずに声をあげることで、認知症施策や地域づくりに本人が参画していく道が拓いた貴重な一歩となった事業だと考える。

全国 1741 の市や町、そして村に、700 万人近い認知症の人たちが暮らしている。すべての人たちが、自分なりに暮らしてきた生活の歴史を持ち、今日一日を生き、これからも自分の人生を生きていく。本事業を活かし、一人ひとりが自らの声と力を伸びやかに表し、認知症の始まりの頃から人生の最期を迎える時までの一日一日を、希望をもってよりよく暮らしていける地域を一緒につくりだしていく動きが、全国すべての市町村で一日も早く実現することを期待したい。

# 資料

# 1. 認知症本人の自治体における施策・事業への関わり現況調査

## 1) 都道府県調査票

### 自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価等に関する全国調査 都道府県用調査票

○記入に際してのご注意

- ・この調査票は、認知症施策のご担当の方がご記入下さい。
- ・特に指定のない限り、平成30年10月1日時点における状況をお答え下さい。ご不明の場合には直近の状況でお答え下さい。
- ・数字を入力する欄において、回答が0（ゼロ）の場合には、空欄にせず、「0」とご記入下さい。

また、自由回答欄には、具体的な言葉や数字等をご記入下さい。

#### 貴自治体の概要についてご記入ください

1	都道府県名		
2	人口	人	
3	65歳以上人口	人	
4	高齢化率	%	
5	管内市区町村数	市区町村	
6	認知症施策担当部署名 ※主となる担当部署名		
7	認知症施策担当者の数	人	

#### 貴自治体の現状についてお尋ねします

##### 設問 1

貴自治体（都道府県）では、認知症施策等の計画作りに関する行政の委員会や検討会等に、本人が参画していますか。下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いている
- ② 会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない。
- ③ 委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらったことはない。
- ④ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答番号

※ ①と回答の場合、本人の意見を聴いて、計画に反映した点の主なものを具体的にご記入ください。

##### 設問 2

貴自治体（都道府県）では、認知症施策等に関する事業や取り組みの評価や見直し等に、本人が参画していますか。

複数回答：下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を記入してください。

- ① 事業等の評価の段階で本人の意見を聴いている。
- ② 事業等の工夫や改善のために、本人の意見を聴いている。
- ③ 事業等の評価や見直しについて、本人に意見を聴いたことはない。
- ④ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄

※ ①、②と回答の場合、意見を聴いた方法と、主な結果とその活かし方についてご記入下さい。

**設問 3**

あなた（認知症施策担当者）と管内の認知症の本人との関わりについて、下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 本人と直接関わる機会をもち、本人の体験や本人が必要としていることを聴くようにしている。
- ② 本人と直接関わることはあるが、本人の体験や本人が必要としていることはあまり聴いていない。
- ③ 本人と直接関わることはないが、本人の体験や本人が必要としていることを、市区町村の認知症担当者や管内関係者を通じて間接的に知るようにしている。
- ④ 本人の体験や本人が必要としていることは、直接的にも間接的にも聞いていない。
- ⑤ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答番号

**設問 4**

貴自治体（都道府県）では、本人ミーティング（地元の本人が集り、本人同士で自らの体験や必要なこと、希望等を話し合い、本人の声を、暮らしや地域に活かしていくための機会）が開かれていますか？

複数回答：下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を記入してください。

- ① 都道府県が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ② 市区町村が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ③ 本人の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ④ 家族の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑤ 管内医療機関（認知症疾患医療センター）が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑥ 管内介護事業所が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている
- ⑦ 管内医療・介護職等の自主組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑧ 管内社協等、地域活動組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑨ あるかどうか、把握していない
- ⑩ ない
- ⑪ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄


※ ①～⑧と回答の場合、本人の意見を活かして施策や取組等に活かした点があればご記入下さい。

**設問 5**

貴自治体（都道府県）では、管内の市区町村が本人ミーティングを開催していくための支援等を行っていますか？

複数回答：下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を記入してください。

- ① 都道府県が、市区町村に本人ミーティングに関する情報提供をしている。
- ② 都道府県が、市区町村に「本人ミーティング開催ガイド」の活用を勧めている。
- ③ 都道府県が、「本人ミーティング」の取組情報を集め、市区町村に情報提供している。
- ④ 都道府県が、市区町村の関係者が集まり「本人ミーティング」に関する報告や話し合いをする機会をつくっている。
- ⑤ 都道府県が、市区町村等による「本人ミーティング」の準備や実施過程に関わり、何らかの後押しをしている。
- ⑥ 都道府県が、市町村等が「本人ミーティング」で把握した本人の声を集約し、情報提供（冊子等の配布等）している。
- ⑦ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄


--

※ 管内で、「本人ミーティング」に取組んでいる事例をご存知でしたら、市区町村名と特徴を教えてください。（別紙等の添付でもかまいません）

--

**設問 6**

貴自治体（都道府県）において、認知症に関する施策、事業や取り組みについて、認知症の本人に意見を聞くこと、意見を活かすことへの課題と考えることをお聞かせください。（自由記述）

--

**今後についてお尋ねします**

**設問 7**

貴自治体（都道府県）で、認知症に関する施策、事業や取り組みについて、認知症の本人に意見を聞くことについての計画はありますか。下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

【留意点】方法としては、アンケート調査、個別聞き取り、グループインタビュー、本人ミーティングの場での把握、その他、さまざまな方法を含みます。

- ① 平成30年度中に実施する具体的な計画がある。
- ② 平成30年度中に実施を検討したい。
- ③ 具体的な計画・予定はないが、平成30年度中に何らかの意見を聴く試みをしたい。
- ④ 平成30年度はないが、次年度以降の実施にむけて検討したい。
- ⑤ 実施・検討の予定はない。

回答欄

--



## 2) 市町村調査票

### 自治体における認知症施策や事業への本人の参画・評価等に関する全国調査 市区町村用調査票

○記入に際してのご注意

- ・この調査票は、認知症施策のご担当の方がご記入下さい。
  - ・特に指定のない限り、平成30年10月1日時点における状況をお答え下さい。ご不明の場合には直近の状況でお答え下さい。
  - ・数字を入力する欄において、回答が0（ゼロ）の場合には、空欄にせず、「0」とご記入下さい。
- また、自由回答欄には、具体的な言葉や数字等をご記入下さい。

貴自治体の概要についてご記入ください

1	都道府県名		
2	市区町村名		
3	地方公共団体コード	参照：総務省HP： <a href="http://www.soumu.go.jp/denshiiti/code.html">http://www.soumu.go.jp/denshiiti/code.html</a>	
4	人口	人	
5	65歳以上人口	人	
6	高齢化率	%	
7	日常生活圏域	圏域	
8	地域包括支援センター数	か所	
9	認知症施策担当部署名 ※主となる担当部署名		
10	認知症施策担当者の数	人	
11	認知症地域支援推進員の数	人	

貴自治体の現状についてお尋ねします

#### 設問 1

貴自治体では、認知症施策等の計画作りに関する行政の委員会や検討会等に、本人が参画していますか。

下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いている
- ② 会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない。
- ③ 委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらったことはない。
- ④ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答番号

※ ①と回答の場合、本人の意見を聴いて、計画に反映した点の主なものを具体的にご記入ください。

**設問 2**

貴自治体では、認知症施策等に関する事業や取り組みの評価や見直し等に、本人が参画していますか。

複数回答：下記の選択肢から該当する項目は数字の「1」、該当しないものは「0」を記入してください。

- ① 事業等の評価の段階で本人の意見を聴いている。
- ② 事業等の工夫や改善のために、本人の意見を聴いている。
- ③ 事業等の評価や見直しについて、本人に意見を聴いたことはない。
- ④ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄

--

※ ①、②と回答の場合、意見を聴いた方法と、主な結果とその活かし方についてご記入下さい。

--

**設問 3**

あなた（認知症施策担当者）と貴自治体内(地元)の認知症の本人との関わりについて、下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 本人と直接関わる機会をもち、本人の体験や本人が必要としていることを聴くようにしている。
- ② 本人と直接関わることはあるが、本人の体験や本人が必要としていることはあまり聴いていない。
- ③ 本人と直接関わることはないが、本人の体験や本人が必要としていることを、関係者を通じて間接的に知るようにしている
- ④ 本人の体験や本人が必要としていることは、直接的にも間接的にも聞いていない。
- ⑤ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答番号

--

**設問 4**

貴自治体では、本人ミーティング（本人が集まり、本人同士で自らの体験や必要なこと、希望等話し合い、本人の声を暮らしや地域に活かす機会）が開かれていますか？

複数回答：下記の選択肢で該当する場合は、回答欄に「1」、該当しない場合は「0」を記入してください。

- ① 市区町村が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ② 都道府県が主催/委託して、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ③ 本人の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ④ 家族の自助グループが、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑤ 地域の医療機関が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑥ 地域の介護事業所が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている
- ⑦ 地域の医療・介護職等の自主組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑧ 社協等、地域活動組織が、本人同士が集まり話し合う機会をつくっている。
- ⑨ あるかどうか、把握していない
- ⑩ ない
- ⑪ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄

--

※ ①～⑧と回答の場合、本人の意見を活かして施策や取組等に活かした点があればご記入下さい。

--

**設問 5**

貴自治体では、管内の関係者（地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、医療機関、介護事業者等）が、本人ミーティングを開催していくための支援等を行っていますか？

複数回答：下記の項目で該当する場合は、数字の「1」、該当しないものは「0」を記入してください。

- ① 市区町村が、関係者に本人ミーティングに関する情報提供をしている。
- ② 市区町村が、関係者に「本人ミーティング開催ガイド」の活用を勧めている。
- ③ 市区町村が、「本人ミーティング」の取組情報を集め、関係者に情報提供している。
- ④ 市区町村が、関係者が集まって「本人ミーティング」に関する報告や話し合いをする機会をつくっている。
- ⑤ 市区町村が、関係者による「本人ミーティング」の準備や実施過程に関わり、何らかの後押しをしている。
- ⑥ 市町村として、関係者が「本人ミーティング」で把握した本人の声を集約し、情報提供（冊子の配布等）をしている。
- ⑦ その他（下欄に、具体的にご記入ください）

回答欄

--

※ 管内で、「本人ミーティング」に取組んでいる事例をご存知でしたら、実施主体と特徴を教えてください。（別紙等の添付でもかまいません）

--

**設問 6**

貴自治体において、認知症に関する施策、事業や取り組みについて、認知症の本人に意見を聞くこと、意見を活かすことへの課題と考えることをお聞かせください。（自由記述）

--

**今後についてお尋ねします**

**設問 7**

貴自治体で、認知症に関する施策、事業や取り組みについて、認知症の本人に意見を聞くことについての計画はありますか。下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

【留意点】方法としては、アンケート調査、個別聞き取り、グループインタビュー、本人ミーティングの場での把握、その他、さまざまな方法を含みます。

- ① 平成30年度中に実施する具体的な計画がある。
- ② 平成30年度中に実施を検討したい。
- ③ 具体的な計画・予定はないが、平成30年度中に何らかの意見を聴く試みをしたい。
- ④ 平成30年度はないが、次年度以降の実施にむけて検討したい。
- ⑤ 実施・検討の予定はない。

回答欄



## 2. 試行地域合同ワークショップ資料

### 1) 第1回試行地域合同ワークショップ：試行プロジェクト説明資料

平成30年度老人保健健康増進等事業  
認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等に関する調査研究事業

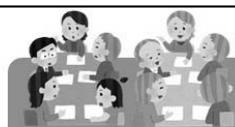
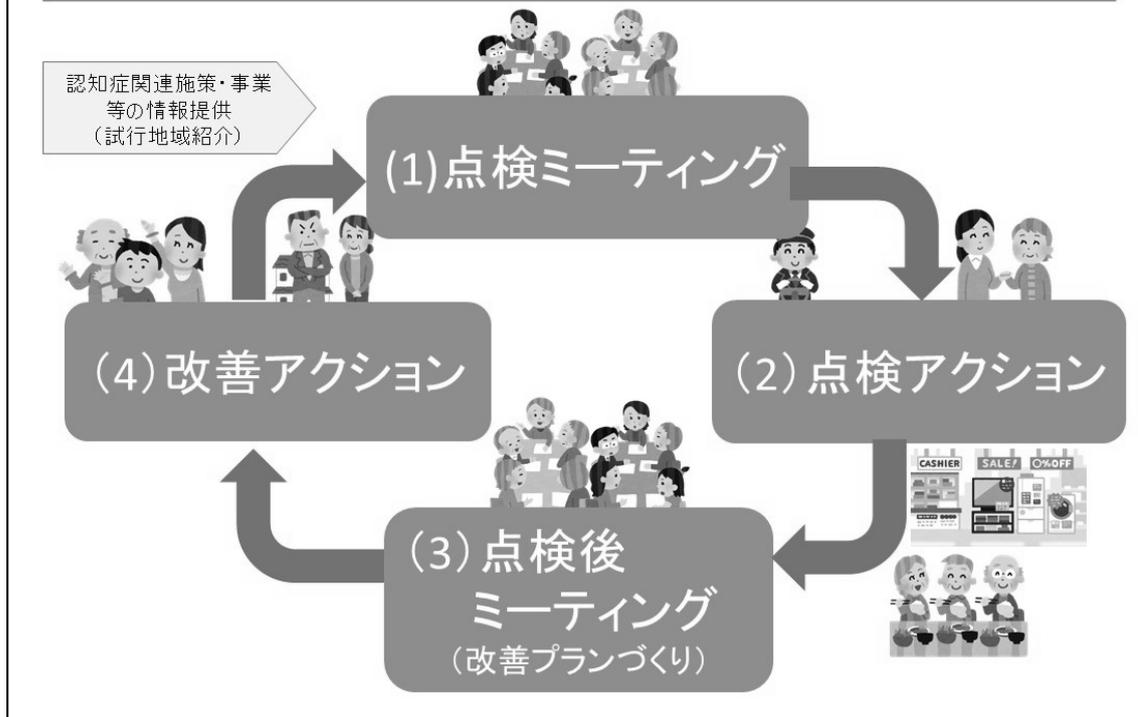
## 第1回試行地域合同ワークショップ 試行プロジェクト説明

### 試行プロジェクトの目的

1. 各地域の特性や実情に応じて、本人が参画しながら自分の地域の施策・取組等を点検・改善していくためのプロセスや方法等を企画する。
2. 実際に各地域で試行してみることを通じて、本人が参画した取組の成果と課題、多様な取組方法について検討する。
3. 自治体において有効かつ実行可能な方法論を明らかにする。

- 試行地域： 10地域
- 試行期間： 概ね3～4ヶ月(9月～1月) ※地域との協議による
- 調査： 試行プロジェクトへの参画者へのヒアリング、アンケート
- 結果反映： 本人向けガイド、市町村向けガイド、全国報告会、事業報告書

## 試行プロジェクトのプロセス ★各地域なりのやり方を企画しながら



### (1)点検ミーティング

「認知症の本人」が参画するミーティングを開催し、

- ①今ある施策、事業、取組みについての感想や意見を一緒に話しあう。
- ②本人たちが日頃望んでいることについて、一緒に話しあう。  
(こんなことがあれば暮らしやすい等)
- ③本人が参加して実際に「点検」を行いたい事業・取組み等をリストアップする。

※点検ミーティング:今ある事業・取組の機会や場を活用しよう

例:認知症カフェ、地域密着型サービス等で、利用者と話し合ってみる。  
訪問の際の「話題」にしてみる。  
本人ミーティングで話し合いのテーマにしてみる。



## (2) 点検アクション



点検ミーティングの結果をまとめ(整理)、焦点を絞って実際にどうかを、本人とともに確認してみる

(本人が少人数、一人でも参加を)

### ①具体的に点検してみる

例: 情報を確認、場合によっては現地を見る等)

### ②(ちょっと)改善して欲しい点、改善が必要なことは何か、を具体的にする。

今ある事業・取組の機会と場を活かし、関係者とともに

例: 認知症カフェ等、を活用。

医療機関・介護サービス事業所等の職員と話しあう機会を設ける  
町内会・民生委員等と情報を共有する機会を設ける



## (3) 点検後ミーティング (プランづくり)

「点検アクション」を通じて本人の声から把握された改善して欲しい点、改善が必要なことをもとに。今後地域で(ちょっと)取り組んでみたいこと・その方法について、地域で話し合う

### ①ちょっとした工夫で改善できることがないか

例: 手順の見直し、環境・関わりの工夫、事業の”チューンナップ”他

### ②改善と一緒に取組みたい人は誰か

例: 本人が利用している地域資源等、地域にある多様な資源

★改善と一緒にやる働きかけを(協働をアプローチ)



#### ④改善アクション



- それぞれの改善アクションプランをもとに、取り組みを進めていく。
- 取り組みについては、本事業の一部としてだけでなく、各地域の認知症施策・事業のPDCA（計画-実施-評価-改善）の一環として、継続的な取り組みにつなげていく。

- 地域のさまざまな立場へのアプローチ
- 工夫や改善をした事業・取り組み等について、繰り返し、本人の声を聴く
- 地域にある本人がふだん利用しているお店や交通機関等の声を聴く

## 2) 第2回試行地域合同ワークショップ：グループミーティングシート

### 資料4

平成30年度老人保健健康増進等事業  
認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等に関する調査研究事業

### 第2回試行地域合同ワークショップ ミーティングシート

テーマ：本人の意見（声）を地域で活かしていくための  
仕組みづくり等について

1. 認知症の人が意見を表し、関係者が聴く際に、配慮すべき点や工夫は？ *意見を表す：語る、つぶやく、書く等、様々な表現方法で	
①本人が率直に語るができるために	
②そのための機会・場を作るために	
③情報化（可視化）するために	
④確認・共有するために	
⑤その他	

2. 認知症の人の意見を、地域（地元）の認知症施策の改善に活かすには（改善を具体化するためには）	
①施策の改善に向けて、意見の共有が必要な人・組織・範囲は	
②改善について話しあう機会・場の作り方は	
③改善を計画・企画するために必要なことは	
④改善を実践するために必要なことは	
⑤その他	

### 3. 報告会

#### 1) 案内チラシ

## 認知症の本人と ともに進める 認知症施策 多様な取組報告を 聴いてみよう！

平成31年  
**2月9日** (土)  
10時30分～16時30分

**参加無料**

## 品川フロントビル

東京都港区港南2-3-13  
JR品川駅 港南口徒歩3分

\* これからの認知症施策は……本人の意見を聴き、一緒に進める！  
「やさしい地域づくり」「意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会」を実現していくための施策や事業を進めるには、「本人の意見を聴き、本人とともに進めること」が不可欠です。

\* そのための具体的な方法は…多様なやり方や工夫がある！  
実際に本人の意見を聴きながらともに取組を試行した地域の関係者が、この報告会で具体的にお伝えします。  
都道府県・市区町村の取組状況の全国調査結果も併せて報告します。

\* この報告会へは、誰が……声をかけあって、多様な人たちが、どうぞご参加を！  
行政関係者、医療・介護・福祉・法律関係者、本人、家族、市民、企業、研究・教育関係者、学生、メディア関係者等、どなたでもご参加いただけます。周囲の方にも、どうぞご紹介下さい。

平成30年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業  
**認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善にむけた方法論等  
に関する調査研究事業報告会**

**定員300名 事前申込制**

**プログラム（予定）**      プログラムは変更になる場合があります。

**午前(10:30～11:45)**

- 挨拶・事業のねらい  
栗田 主一 事業検討委員長  
(東京都健康長寿医療センター)
- この事業への期待(仮)  
厚生労働省 認知症施策推進室
- 事業の概要と見えてきたこと  
全国調査と試行地域でのトライアルを通じて  
藤田 和子 検討委員  
(日本認知症本人ワーキンググループ代表理事)  
永田 久美子 検討委員  
(認知症介護研究・研修東京センター)

**午後(12:45～16:30)**

- 試行地域報告: 本人と共にトライ！  
\* 多彩なやり方・工夫・成果と課題
- ＜自治体の取組＞
  - 静岡県
  - 藤沢市(神奈川県)
  - 御坊市(和歌山県)
  - 諫早市(長崎県)
- ＜地域の取組＞ \* 本人も報告
  - 上田市豊殿地区(長野県)
  - 西香川病院(認知症疾患医療センター)  
(香川県三豊市) 報告順は未定

参加のお申込みは、裏面・HPをごらんください。 <http://jdwg.org>

**主催 一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ**

121

平成30年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業

## 認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善にむけた方法論等 に関する調査研究事業報告会

### 参加申込書

申込締切：平成31年2月4日（月）

★参加をご希望の方（申込代表者の方）は、以下にご記入ください。

申込者ご氏名	地域 (都道府県・市町村名)	立場・職種	連絡先 (電話番号・メールアドレス等)
①			

★一緒に参加をご希望の方は、以下にご記入ください。

ご氏名	地域 (都道府県・市町村名)	立場・職種
②		
③		
④		
⑤		

定員を超えた場合、ご参加いただけない場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
その場合は、事前に連絡をいたします。連絡がない場合はご参加いただけます。

### 申込方法

#### メールで申込の場合

上記内容（氏名、地域、立場・職種、連絡先）  
をメール文にご記入の上、  
メールの「件名」を「報告会参加希望」として  
お送りください。

■送り先メールアドレス：

0209@jdwg.org

#### FAXで申込の場合

本申込書にご記入の上、  
以下の送り先へお送りください。

■送り先FAX番号：

03-3986-8172

<本報告会に関するお問い合わせ>

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

●メール：0209@jdwg.org ●FAX：03-3986-8172

--	--

## 2) 参加者アンケート

認知症の本人とともに進める認知症施策 多様な取組報告を聴いてみよう！(2019. 2. 9)

### 報告会 参加者アンケート

ご参加下さり、本当にありがとうございました。本アンケートは、認知症の本人とともに進める認知症施策を各地で推進していくための参考とさせていただきます。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

1. ご自身の立場についておきかせください。(該当するところに○を。複数でもかまいません。)

- ①認知症の本人 ②家族に認知症の人がいる(以前いた) ③知人に認知症の人がいる(以前いた)  
④行政(都道府県) ⑤行政(市区町村) ⑥地域包括支援センター ⑦認知症地域支援推進員  
⑧介護事業所 ⑨認知症疾患医療センター ⑩前記(⑨)以外の医療機関 ⑪教育研究機関 ⑫学生  
⑬市民 ⑭企業(業種 ) ⑮報道機関 ⑯その他( )

2. 認知症に関する施策や事業を「本人の意見を聴き、本人とともに進める」ことについて

- ①たいへん重要だと思う ②重要だと思う ③思わない

⇒ 理由をおしえてください。

3. 試行地域の具体的な取組みを聴いて、あなた自身が「今後取り組んでみたい」と思った点がありますか。

- ①おおいにあった ②あった ③特になかった

⇒ 理由をおしえてください。

4. 「本人ミーティング」等、本人の声を聴くことを自分自身のまちでもやってみたいと思いますか。

- ①具体的に計画し取組みたい ②具体的ではないがやってみたいと思う ③思わない

5. 参加しての感想をご自由にお書きください。スペースの足りない方は裏面もお使い下さい。

ご協力ありがとうございました。



---

平成30年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた  
方法論等に関する調査研究事業

## 報 告 書

---

発 行：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ  
<http://www.jdwg.org/>

平成31（2019）年3月